

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

TOYOTA C-HR



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	30
排気ガスに対する注意	38
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	39
チャイルドシート	40
1-3. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの特徴	61
ハイブリッドシステムの注意	66
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	73

2 メーターの見方

2. メーターの見方	
警告灯／表示灯	76
計器類	83
マルチインフォメーション ディスプレイ	87
エネルギーモニター	94

3 各部の操作

3-1. キーの取り扱い	
キー	98
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア（フロントドア・ リヤドア）	102
バックドア	108
スマートエントリー& スタートシステム	113
3-3. シートの調整	
フロントシート	120
リヤシート	121
ヘッドレスト	123
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	126
インナーミラー	128
ドアミラー	130
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	132

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	138
荷物を積むときの注意	148

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	150
EV ドライブモード	157
トランスミッション	159
方向指示レバー	163
電動パーキングブレーキ	164
ブレーキホールド	168

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	171
オートマチックハイビーム	175
フォグランプスイッチ	179
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	181
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	185

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	187
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	192
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	198
LDA（レーンディパーチャー アラート [ステアリング 制御機能付き]）	210
レーダークルーズ コントロール （全車速追従機能付き）	220
ドライブモードセレクト	232
BSM（ブラインドスポット モニター）	234
・ BSM 機能	238
・ RCTA 機能	241
クリアランスソナー	245
運転を補助する装置	253

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	259
寒冷時の運転	261

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン266

シートヒーター274

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧276

・ インテリアランプ277

・ パーソナルランプ277

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧279

・ グローブボックス280

・ コンソールボックス280

・ ボトルホルダー281

・ カップホルダー282

ラゲージルーム内装備283

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備290

・ サンバイザー290

・ バニティミラー290

・ 時計291

・ アクセサリーソケット292

・ アシストグリップ293

・ ステアリングスイッチ293

アクセサリーコンセント294

非常時給電システム301

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 312

内装の手入れ 317

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 320

ガレージジャッキ 322

ウォッシュャー液の補充 323

タイヤについて 325

タイヤ空気圧について 329

エアコンフィルターの
交換 331

駆動用電池冷却用吸入口 334

ワイパーゴムの交換 339

電子キーの電池交換 344

ヒューズの点検、交換 346

電球（バルブ）の交換 349

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	362
非常点滅灯 (ハザードランプ)	363
発炎筒	364
車両を緊急停止するには	366

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	367
警告灯がついたときは	373
警告メッセージが 表示されたときは	378
パンクしたときは (タイヤパンク応急修理 キット装着車)	383
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	397
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	407
電子キーが正常に 働かないときは	409
補機バッテリーが あがったときは	412
オーバーヒート したときは	417
スタックしたときは	422

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量 など)	426
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	431
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	437
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	440
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	444
アルファベット順 さくいん	446
五十音順さくいん	448

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

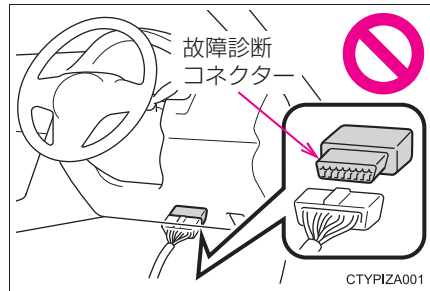
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ 電気モーター回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション
- ・ 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来のお車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



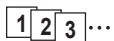
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

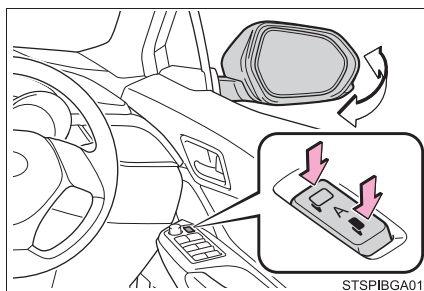
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

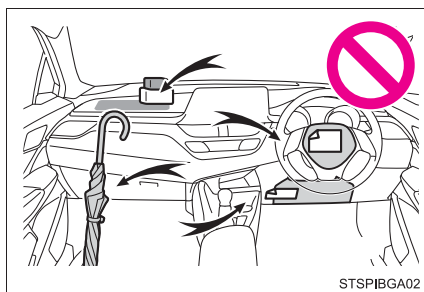
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



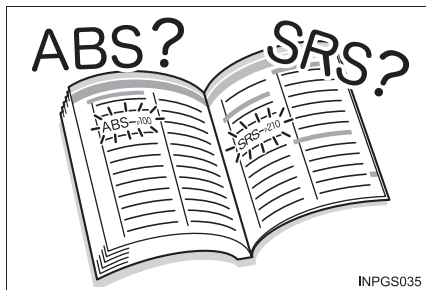
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん448
- ・ アルファベット順
さくいん446



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



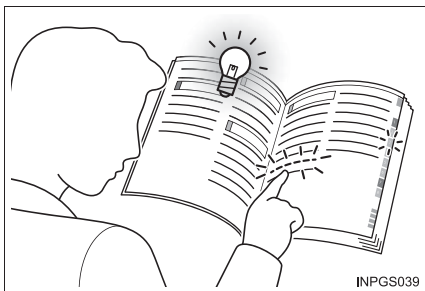
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)440
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)444



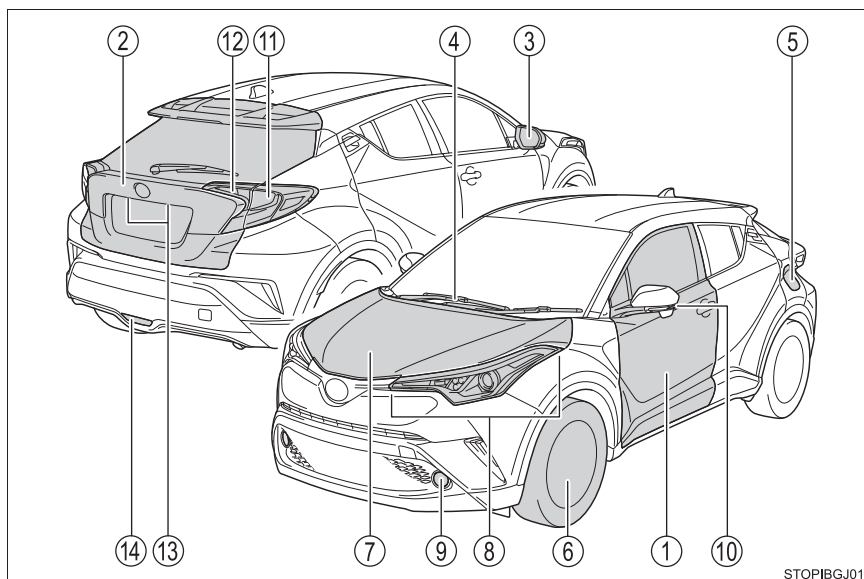
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



STOPIBGJ01

- | | | |
|---|------------------------|-------------|
| ① | ドア |P. 102 |
| | 施錠／解錠 |P. 102 |
| | ドアガラスの開閉 |P. 132 |
| | メカニカルキーでの施錠／解錠 |P. 409 |
| ② | バックドア |P. 108 |
| | 施錠／解錠 |P. 108 |
| ③ | ドアミラー |P. 130 |
| | 鏡面の角度調整 |P. 130 |
| | ミラーの格納 |P. 130 |
| | 曇りを取る (ミラーヒーター) |P. 269 |
| ④ | ワイパー |P. 181 |
| | 冬季の注意 |P. 261 |
| | 凍結防止 (ウインドシールドデアイサー) ★ |P. 270 |
| | 洗車時の注意 |P. 314 |

- ⑤ 給油口.....P. 187
 給油方法.....P. 187
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 426
- ⑥ タイヤ.....P. 325
 サイズ・空気圧.....P. 430
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 261
 点検・ローテーション.....P. 325
 パンク時の対処.....P. 383, 397
- ⑦ ボンネット.....P. 320
 開け方.....P. 320
 エンジンオイル.....P. 427
 オーバーヒート時の対処.....P. 417

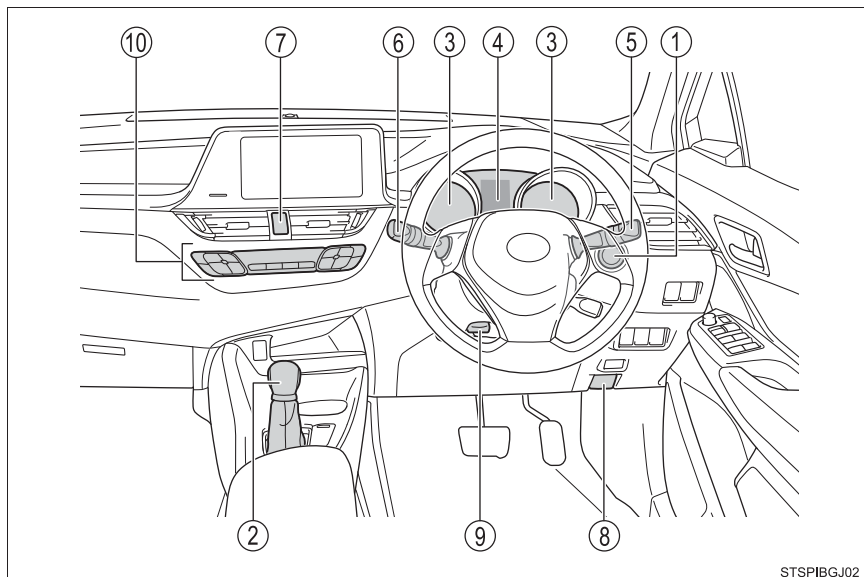
走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 349, ワット数：P. 430)

- ⑧ ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・
 方向指示灯.....P. 163, 171
- ⑨ フロントフォグランプ★.....P. 179
- ⑩ 方向指示灯.....P. 163
- ⑪ 尾灯・方向指示灯.....P. 163, 171
- ⑫ 尾灯(LED タイプ)★.....P. 171
 後退灯
 シフトポジションをRにする.....P. 159
- ⑬ 番号灯.....P. 171
- ⑭ リヤフォグランプ★.....P. 179

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ インストルメントパネル



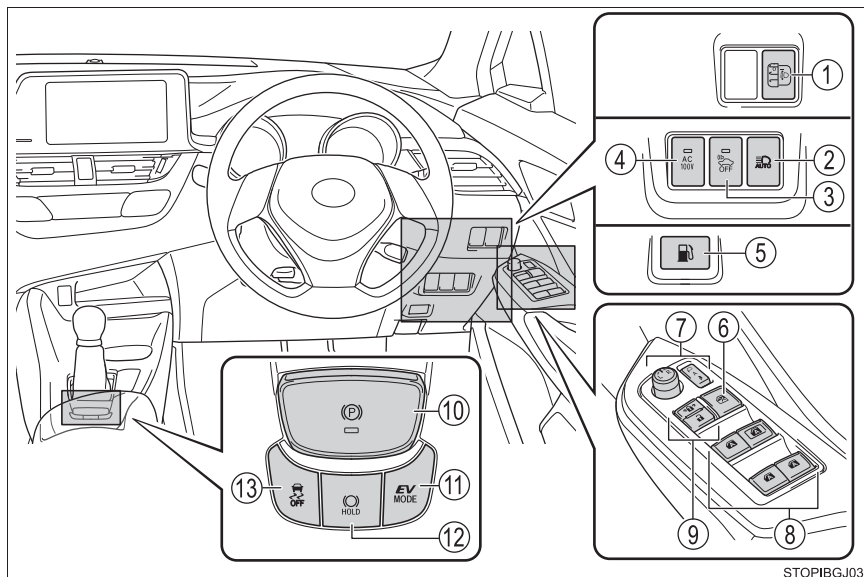
STSPIBGJ02

- ① **パワースイッチ**P. 150
 ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえP. 150
 ハイブリッドシステムの緊急停止P. 366
 ハイブリッドシステムが始動できないときの対処P. 407
 警告メッセージP. 378
- ② **シフトレバー**P. 159
 シフトポジションの切りかえP. 159
 けん引時の注意P. 367
 シフトレバーが動かないときの対処P. 161
- ③ **メーター**P. 76
 見方・明るさの調整P. 76, 90
 警告灯／表示灯P. 76
 警告灯点灯時の対処P. 373

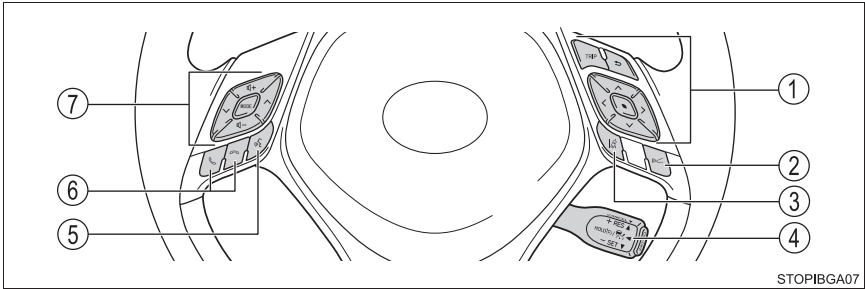
- ④ マルチインフォメーションディスプレイP. 87
 - 表示内容 P. 87
 - エネルギーモニター P. 94
 - 警告メッセージ表示時の対処 P. 378
- ⑤ 方向指示レバーP. 163
 - ランプスイッチP. 171
 - ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・尾灯 P. 171
 - フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★ P. 179
- ⑥ ワイパー&ウォッシャースイッチ (フロント)P. 181
 - ワイパー&ウォッシャースイッチ (リヤ)P. 185
 - 使い方 P. 181, 185
 - ウォッシャー液の補充 P. 323
- ⑦ 非常点滅灯スイッチP. 363
- ⑧ ボンネット解除レバーP. 320
- ⑨ ハンドル位置調整レバーP. 126
- ⑩ エアコンP. 266
 - 操作方法P. 266
 - リヤウインドウの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー) ...P. 269
 - シートヒーター★P. 274

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■スイッチ類



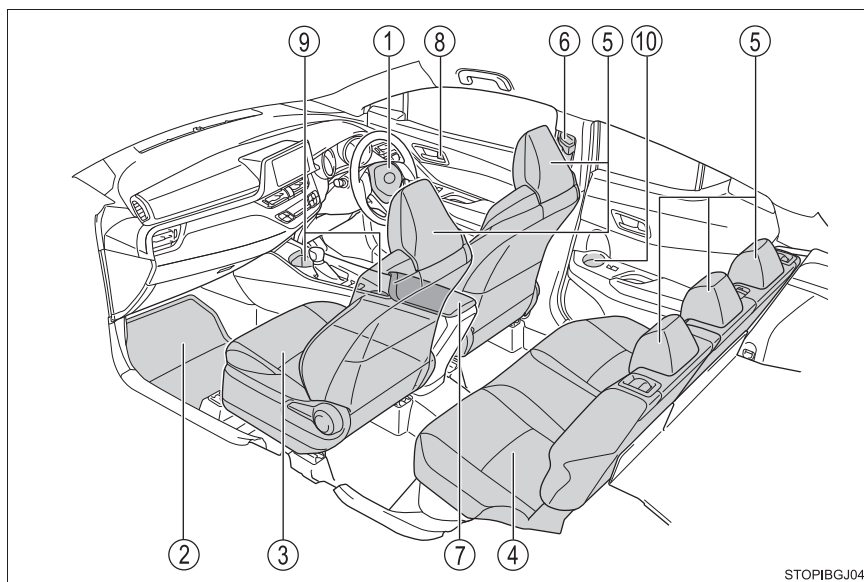
- ① 手動光軸調整ダイヤル★P. 172
- ② オートマチックハイビームスイッチ.....P. 175
- ③ 車両接近通報一時停止スイッチ P. 62
- ④ AC100V スイッチ★ P. 294, 301
- ⑤ 給油口オープナーP. 189
- ⑥ ウィンドウロックスイッチP. 132
- ⑦ ドアミラースイッチP. 130
- ⑧ パワーウィンドウスイッチP. 132
- ⑨ ドアロックスイッチP. 104
- ⑩ パーキングブレーキスイッチ.....P. 164
- かける・解除する P. 164, 165
- 冬季の注意P. 262
- 警告ブザー・警告灯・警告メッセージ..... P. 166, 375, 378
- ⑪ EV ドライブモードスイッチP. 157
- ⑫ ブレーキホールドスイッチP. 168
- ⑬ VSC OFF スイッチP. 254



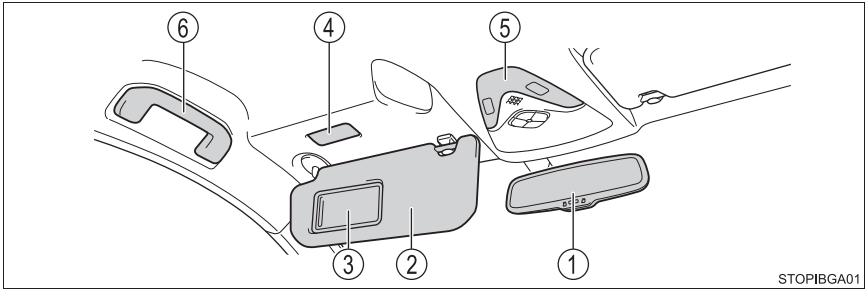
- ① メーター操作スイッチ.....P. 88
- ② 車間距離切りかえスイッチP. 220
- ③ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチP. 213
- ④ レーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付き）スイッチP. 220
- ⑤ トークスイッチ.....P. 293
- ⑥ 電話スイッチP. 293
- ⑦ オーディオスイッチP. 293

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

■ 室内



① SRS エアバッグ	P. 30
② フロアマット	P. 22
③ フロントシート	P. 120
④ リヤシート	P. 121
⑤ ヘッドレスト	P. 123
⑥ シートベルト	P. 26
⑦ コンソールボックス	P. 280
⑧ ロックレバー	P. 104
⑨ カップホルダー	P. 282
⑩ ボトルホルダー	P. 281



STOPIBGA01

- | | | |
|---|-----------------------|-------------|
| ① | インナーミラー |P. 128 |
| ② | サンバイザー* |P. 290 |
| ③ | バニティミラー |P. 290 |
| ④ | バニティミラーランプ★ |P. 290 |
| ⑤ | フロントインテリアランプ／パーソナルランプ |P. 277 |
| ⑥ | アシストグリップ |P. 293 |

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 46)



★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全にお使いいただくために
 - 運転する前に.....22
 - 安全なドライブのために24
 - シートベルト.....26
 - SRS エアバッグ.....30
 - 排気ガスに対する注意38
- 1-2. お子さまの安全
 - お子さまを乗せるときは39
 - チャイルドシート40
- 1-3. ハイブリッドシステム
 - ハイブリッドシステムの
特徴61
 - ハイブリッドシステムの
注意66
- 1-4. 盗難防止装置
 - イモビライザーシステム73

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

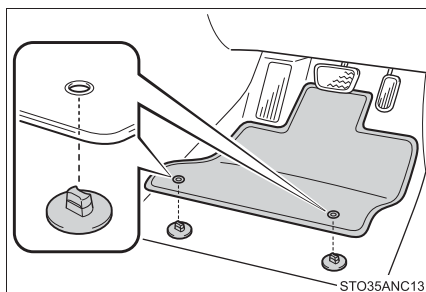
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

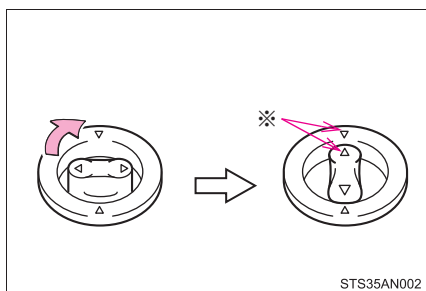
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

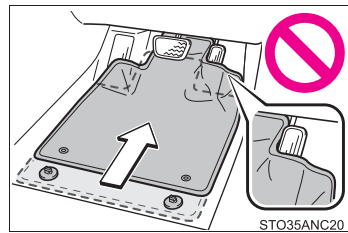
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

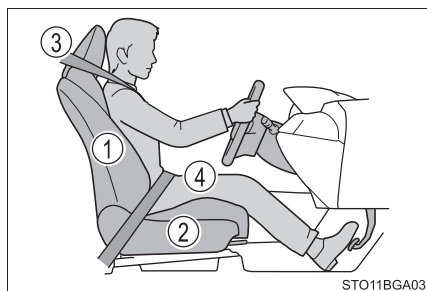


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→ P. 120)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→ P. 120, 126)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→ P. 123)
- ④ シートベルトを正しく着用する
(→ P. 26)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→ P. 26)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 40)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 128, 130)

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

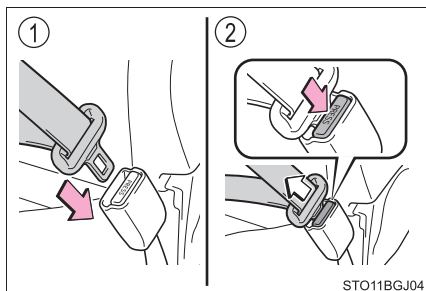
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



STO11BGJ03

着け方、はずし方

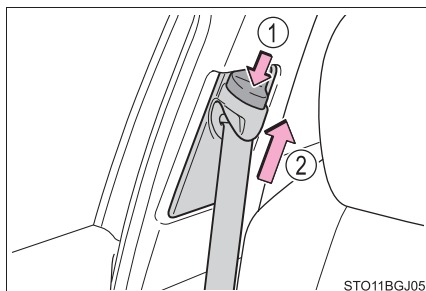
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



STO11BGJ04

シートベルトの高さ調節（フロント席）

- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

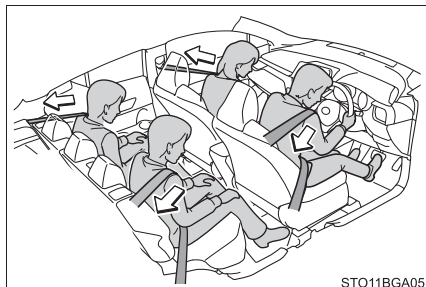


STO11BGJ05

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 40）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

→ P. 51

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

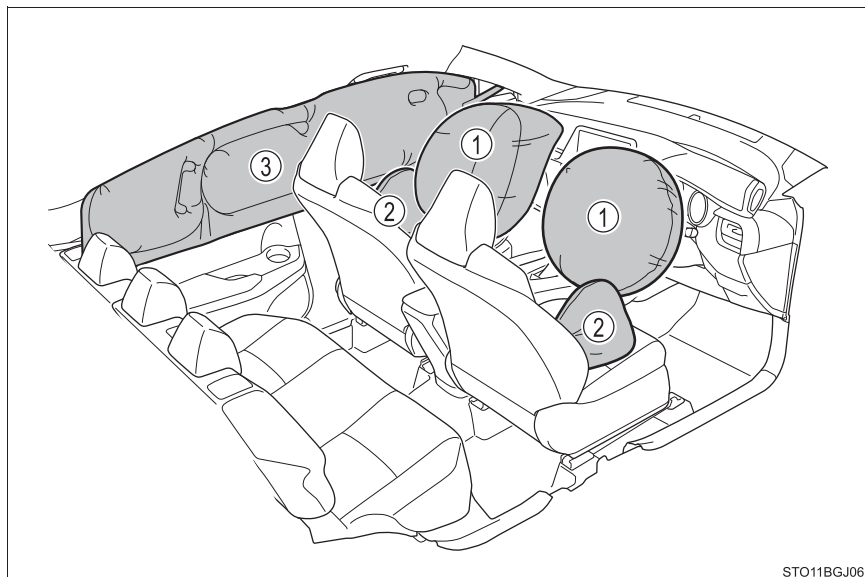
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



STO11BGJ06

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ② SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

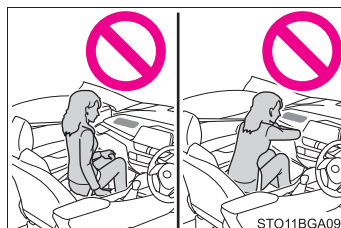
警告

■ SRS エアバッグについて

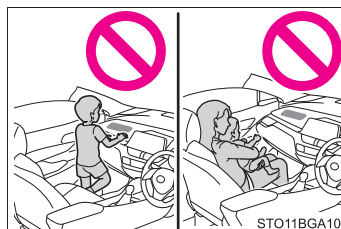
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 40)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

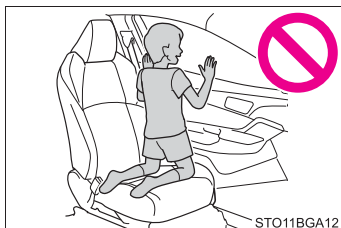



警告
■ SRS エアバッグについて

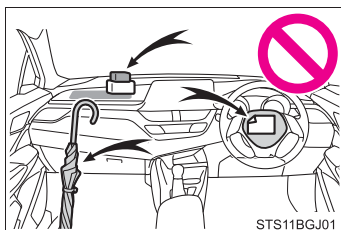
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



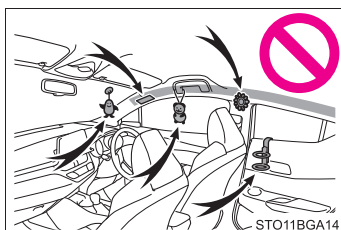
- 助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付いたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 387)



 **警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカー等周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけ等の改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

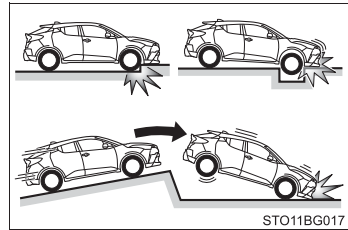
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

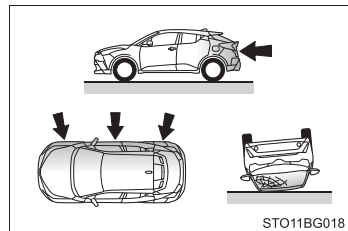
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

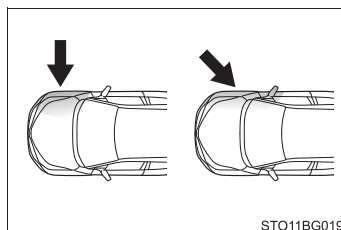
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

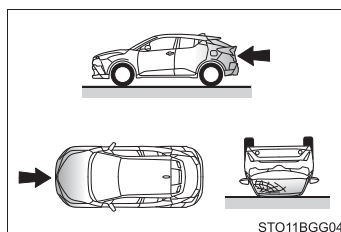
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



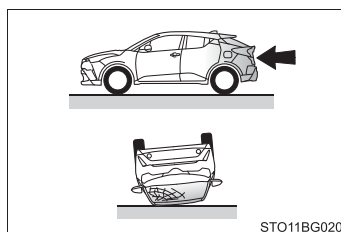
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

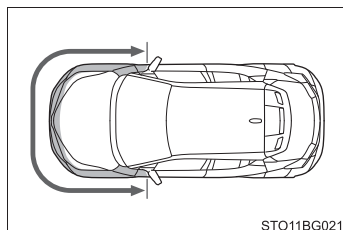
- 後方からの衝突
- 横転



■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

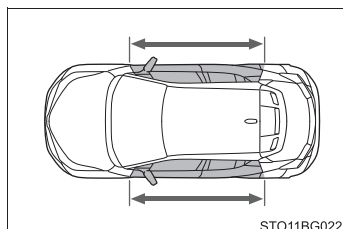
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



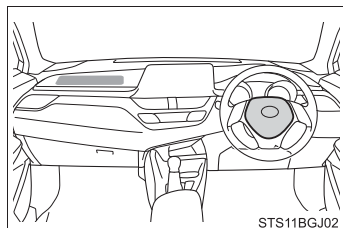
STO11BG021

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



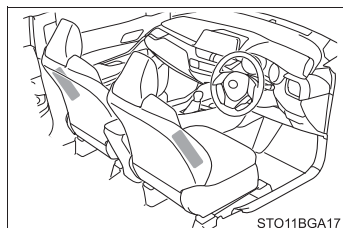
STO11BG022

- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



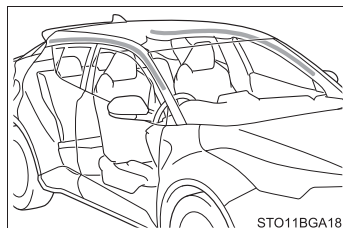
STS11BGJ02

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



STO11BGA17

- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



STO11BGA18

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 40)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 105)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 132)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 40)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法を記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 40
チャイルドシートについて	P. 42
チャイルドシートを使用するときは	P. 45
チャイルドシートの取り付け方法	
・ シートベルトで固定する	P. 48
・ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する	P. 52
・ トップテザーアンカーを使用する	P. 59

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 48, 54)

 **警告****■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 48, 52）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認の上、車に取り付けてください。

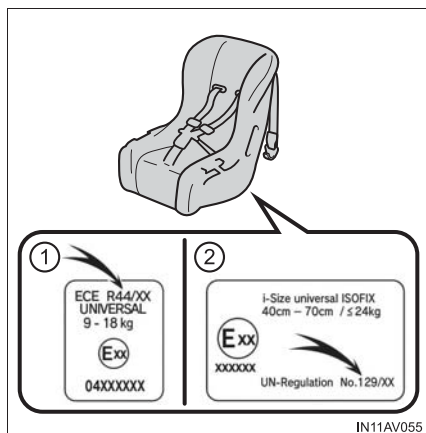
■ チャイルドシートの規格

ECE R44^{※1} または、ECE R129^{※1,2} に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

- ① ECE R44 認可マーク^{※3}
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② ECE R129 認可マーク^{※3}
対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な体重が
記載されています。



※1 ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 ECE R129 に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※3 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて (ECE R44 のみ)

この質量グループは、チャイルドシートの適合性を確認する際に必要となります。チャイルドシートの適合性一覧表と併せてご確認ください。(→ P. 48, 54)


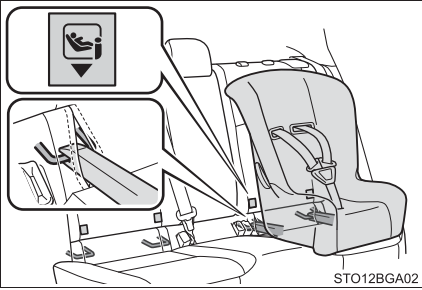
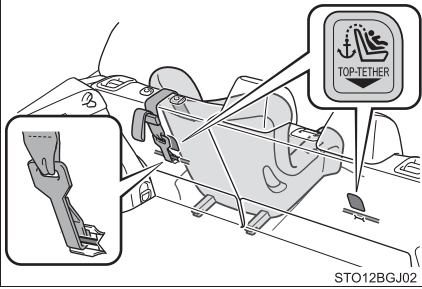
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢 [※]
グループ0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ0 ⁺	13kg まで	1歳半頃まで
グループI	9～18kg	9ヶ月頃～4歳頃まで
グループII	15～25kg	3歳頃～7歳頃まで
グループIII	22～36kg	6歳頃～12歳頃まで

[※] 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 48
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 52
テザーベルトを固定する		P. 59

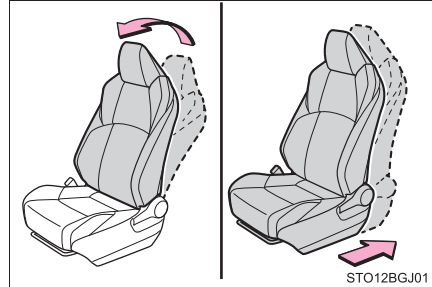
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす



警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



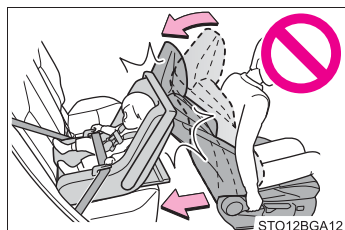
警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リアピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

チャイルドシートの適合性一覧表（→ P. 48）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も併せて確認してください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

- 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→ P. 43）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

- 2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「チャイルドシートをシートベルトで固定する - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する（→ P. 48）

◆ チャイルドシートをシートベルトで固定する - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーの場合、次の表中の U または UF が示す位置に取り付けることができます。（UF は前向き
のチャイルドシートのみ取り付けできます。）

チャイルドシートのカテゴリーと質量グループはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中
にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

質量グループ	着席位置			推奨チャイルドシート
	フロントシート	リヤシート		
	助手席	左右席	中央席	
0 (10kg まで)	×	U	×	“ トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ (13kg まで)	×	U	×	
I (9 ~ 18kg)	うしろ向き ×	U*2	×	
	前向き UF*1,2			
II, III (15 ~ 36kg)	UF*1,2	U*2	×	“ トヨタ純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

×： チャイルドシートを取り付けることはできません。

U： この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

*1 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、背もたれを可能な限り起こし、シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

*2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

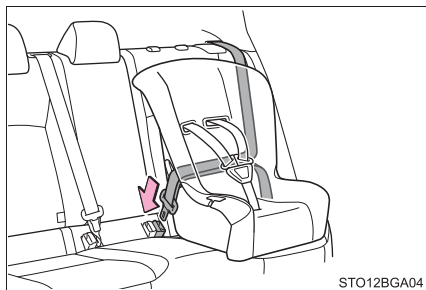
◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

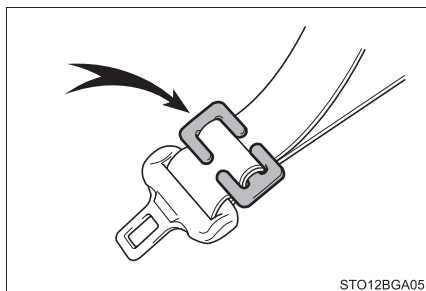
- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。(→ P. 45)
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 123)

- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ (別売) を使用して固定する
ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロックングクリップ品番: 73119-22010)



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→ P. 51)

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

● シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

● チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

● チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

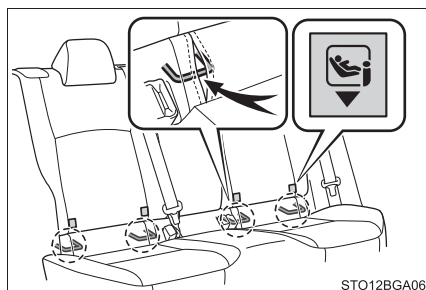
● ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

● 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリア外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシートの適合性一覧表 (→ P. 54, 57) は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も併せて確認してください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

- 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する
(→ P. 43)

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

- 2 サイズ等級を確認する

手順 **1** で確認した「質量グループ」を「チャイルドシートを ISOFIX で固定する (ECE R44) - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。(→ P. 54) ※

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「着席位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 55) で指定されている製品を使用してください。

◆ チャイルドシートをISOFIXで固定する(ECE R44) - 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「サイズ等級」に分かれています。

次の表に示す「サイズ等級」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。

チャイルドシートの「サイズ等級」と「質量グループ」を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

サイズ等級	使用の向き・形状・大きさ
A	全高前向きチャイルドシート
B	低型前向きチャイルドシート
B1	低型前向きチャイルドシート
C	大型うしろ向きチャイルドシート
D	小型うしろ向きチャイルドシート
E	うしろ向きチャイルドシート
F	左向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）
G	右向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）

質量グループ	サイズ 等級	着席位置			推奨チャイルドシート
		フロント シート	リヤシート		
		助手席	左右席	中央席	
キャリコット	F	×	×	×	-
	G	×	×	×	
0 (10kg まで)	E	×	IL	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+ (13kg まで)	E	×	IL	×	
	D	×	IL	×	
I (9 ~ 18kg)	C	×	×	×	-
	D	×	IL	×	
	B	×	IUF* IL*	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	×	IUF* IL*	×	
	A	×	IUF* IL*	×	

表に記入する記号の説明

- ×： ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。
- IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。
- IL： この質量グループでの使用を許可された「特定車種用」・「一部制限付き」または「準汎用」（セミユニバーサル）カテゴリの ISOFIX チャイルドシートに適しています。
- ※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ i-Size チャイルドシートを ISOFIX で固定する (ECE R129) - 適合性一覧表

チャイルドシートが「i-Size」カテゴリーの場合、次の表中の i-U が示す位置に取り付けることができます。チャイルドシートのカテゴリーはチャイルドシートに付属の取扱説明書に記載されています。

	着席位置		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
i-Size チャイルドシート	×	i-U*	×

表に記入する文字の説明

×： i-Size 汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートを取り付けることはできません。
 i-U： 前向きおよび後ろ向きの i-Size 汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートに適しています。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
 取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

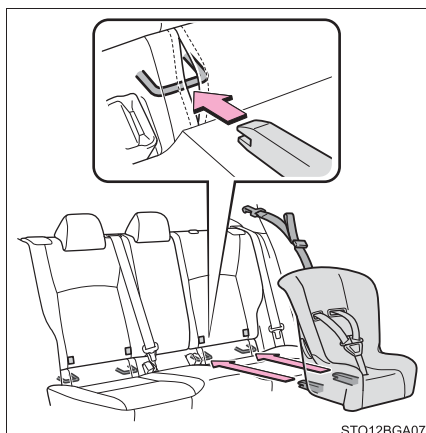
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 123)

- 2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→ P. 51)

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

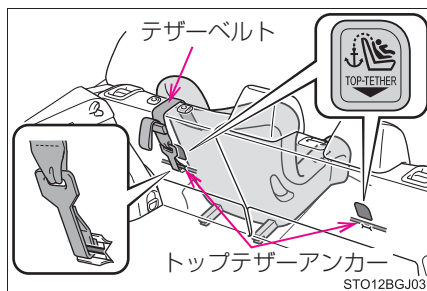
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリア外側席にトップテザーアンカーが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。

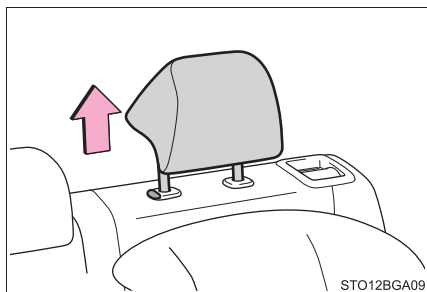


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

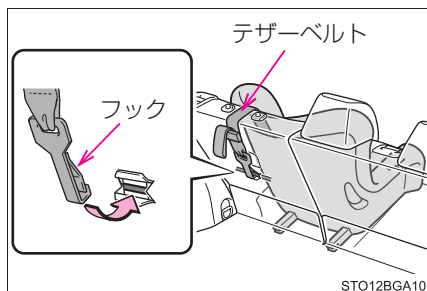
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→ P. 123)



2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 51)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

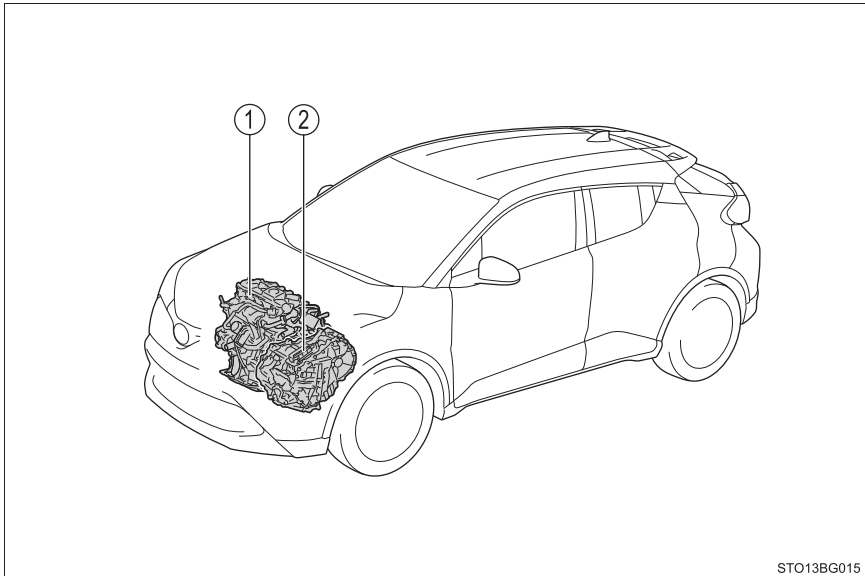
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ガソリンエンジン
- ② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止^{*}します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止^{*}し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

^{*} 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→P. 63)

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

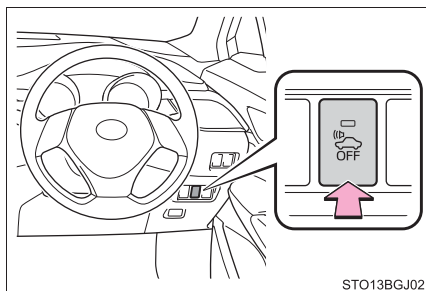
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READY インジケーターが点灯している状態で、スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



知識

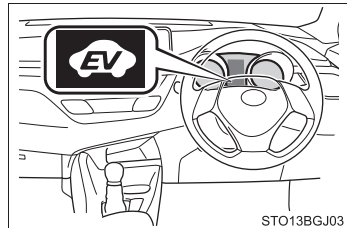
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離れたとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。*

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

* 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 414

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われなことがあります。

自動停止しない状態が2～3日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトレバーをPにしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- 駆動用電池冷却用吸入口（→ P. 67）から聞こえるファンの音

■ 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなる場合があります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなる場合があります。

■ 車両接近通報一時停止スイッチ（→ P. 62）のインジケーターが点滅したとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■ メンテナンスや修理・廃車について

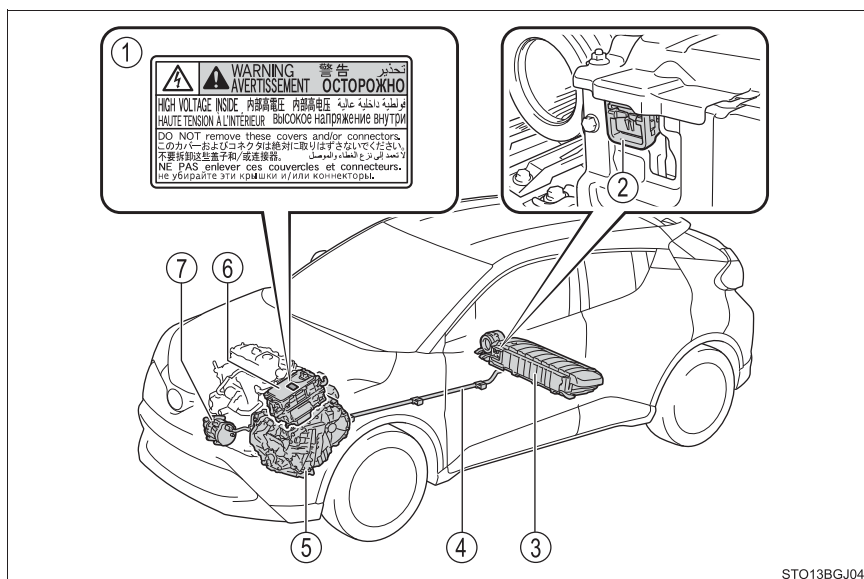
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■ カスタマイズ機能

車両接近通報装置の通報音量などを変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

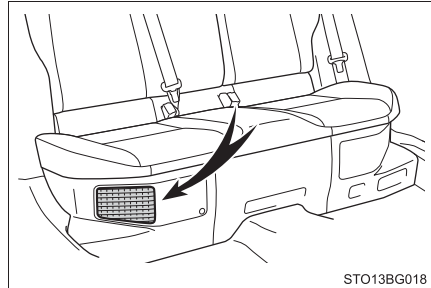


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ラベル
- ⑤ 電気モーター
- ② サービスプラグ
- ⑥ パワーコントロールユニット
- ③ 駆動用電池
- ⑦ エアコンコンプレッサー
- ④ 高電圧ケーブル（オレンジ色）

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下（運転席側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因となります。



緊急停止システム

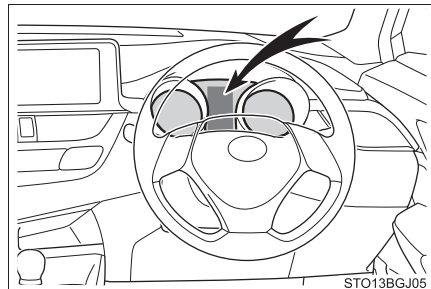
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



 知識**■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断られたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→P. 375)が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量の目安は車両水平状態で約 7.5L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください)

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部(遠距離通信)において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合(およそ - 30℃以下)、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

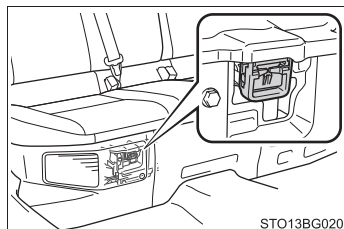
■ 適合宣言

この車両は、ECE100(バッテリー電気車両安全)に基づいた水素排出量に適合しています。

警告**■高電圧・高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



 **警告****■ 事故が発生したとき**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 367）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

 **警告****■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

- シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になったりします。
- 吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、P. 334 を参照してください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたときは、吸入口やフィルターの目づまりが考えられます。P. 334 を参照に吸入口の清掃を行ってください。

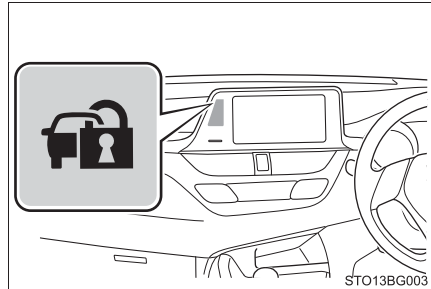
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリモードまたはONモードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

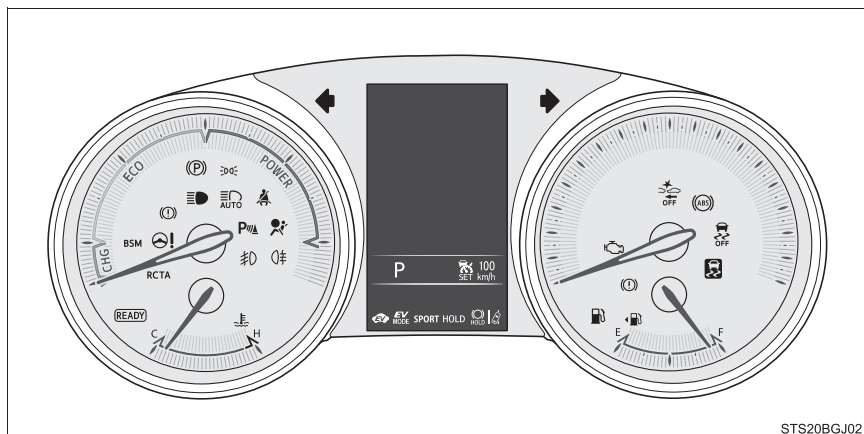
2

2. メーターの見方	
警告灯／表示灯.....	76
計器類.....	83
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	87
エネルギーモニター.....	94

警告灯／表示灯

メーター・インストルメントパネル・アウターミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。



次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯 (赤色)	P. 373
※1		エンジン警告灯	P. 373
※1		SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯	P. 373
※1		ABS & ブレーキアシスト警告灯	P. 374
※1		パワーステアリング警告灯 (赤色)	P. 374
※1		パワーステアリング警告灯 (黄色)	P. 374
※1, 2		スリップ表示灯	P. 374
※1		電子制御ブレーキ警告灯 (黄色)	P. 374
※1, 3		PCS 警告灯	P. 374
※3		パーキングブレーキ表示灯	P. 375
		燃料残量警告灯	P. 375

警告灯			参照先
		シートベルト非着用警告灯	P. 375
※4		後席シートベルト非着用警告灯	P. 375

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。










※² 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※³ 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。

※⁴ インストルメントパネルに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

表示灯		参照先
		方向指示表示灯 P. 163
		尾灯表示灯 P. 171
		ハイビーム表示灯 P. 171
		READY インジケータ P. 150
		フロントフォグランプ表示灯★ P. 179
		リヤフォグランプ表示灯★ P. 179
		オートマチックハイビーム表示灯 P. 175
		パーキングブレーキ表示灯 P. 164
		クリアランスソナー表示灯★ P. 246
		BSM 表示灯★ P. 234
※1, 2		BSM ドアミラーインジケータ★ P. 234
		RCTA 表示灯★ P. 234
※3		セキュリティ表示灯 P. 73

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
※4, 5		スリップ表示灯	P. 254
※4, 6		VSC OFF 表示灯	P. 255
※4, 6		PCS 警告灯	P. 201

※¹ 作動確認のため次の条件のときインジケータが点灯します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの設定画面で BSM 機能を ON にした状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき
- ・ パワースイッチが ON モードの状態、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面で BSM 機能を ON にしたとき

システムが正常であればインジケータは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² ドアミラーに表示されます。

※³ インstrumentパネルに表示されます。

※⁴ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。






※⁵ 点滅した場合はシステムが作動していることを示しています。

※⁶ システムが OFF のとき点灯します。

ディスプレイ上に表示される表示灯・シンボル表示

表示灯		参照先	
※	HOLD	ブレーキホールド作動表示灯	P. 168
※	 HOLD	ブレーキホールドスタンバイ表示灯	P. 168
		LDA 表示灯	P. 210
		クルーズコントロール表示灯	P. 220
	SET	クルーズコントロールセット表示灯	P. 220
		レーダークルーズコントロール表示灯	P. 220
	SPORT	SPORT 表示灯	P. 232
	ECO MODE	エコドライブモード表示灯	P. 232
		EV インジケーター	P. 63
		EV ドライブモード表示灯	P. 157
		低温表示灯	P. 83

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

シンボル表示		参照先
	充電警告灯	P. 373
	油圧警告灯	P. 373
	高水温警告灯	P. 375
	スマートエントリー & スタートシステム	P. 150
	ブレーキオーバーライドシステム / ドライブ スタートコントロール	P. 376

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

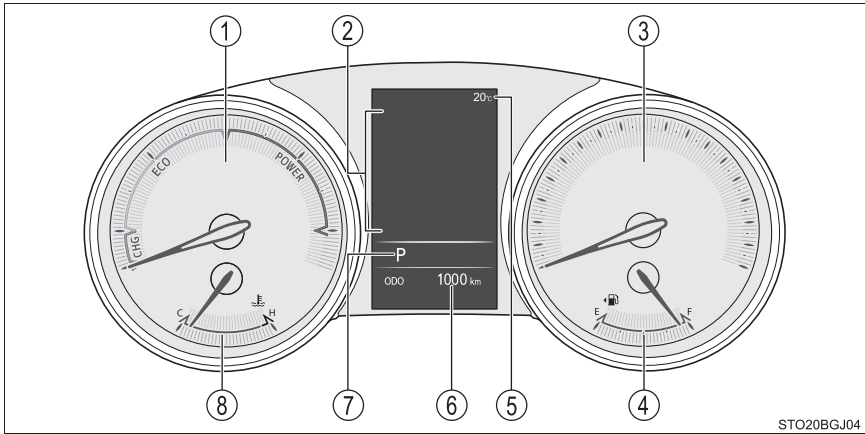
ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

■ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために

高水温警告灯が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→ P. 417)

計器類



STO20BGJ04

- ① ハイブリッドシステムインジケーター
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
走行に関する様々な情報を表示します。(→ P. 87)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 378)
- ③ スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ④ 燃料計
燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
 - ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
 - ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
 - ・ 坂道やカーブを走行したとき
- ⑤ 外気温
外気温度を -40°C ~ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

⑥ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑦ シフトポジション・シフトレンジ表示

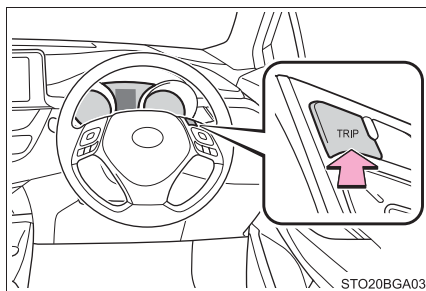
選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 159)

⑧ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

オドメーター／トリップメーター表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステムインジケータ

① チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転（環境に配慮した走行）の範囲を超えている状態を示します。

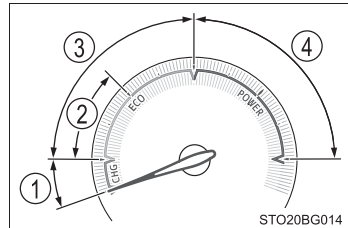
●インジケータの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転（環境に配慮した走行）が可能です。

●チャージエリアは、回生[※]状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、厳密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。



■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” が表示され続ける場合は、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 TRIP スイッチを押してオドメーター/トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを OFF にする
- 4 TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする
- 5 そのまま約 5 秒間、TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の針がレッドゾーン（“H”）に入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 417）

マルチインフォメーションディスプレイ

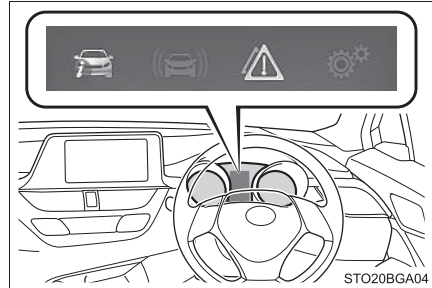
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 88)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示できます。(→ P. 88)



走行支援システム連携画面

以下の走行支援システムの作動状況や、各種警報などの情報を表示できます。

- ・ LDA (ステアリング制御付き車線逸脱警報) (→ P. 210)
- ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→ P. 220)



警告メッセージ表示画面

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→ P. 378)



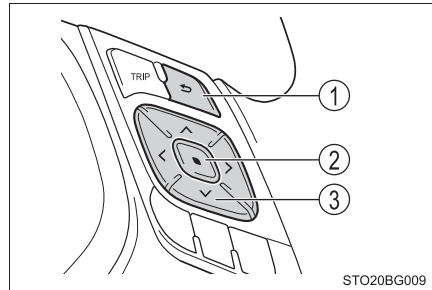
設定画面

走行支援機能の作動内容や、メーター表示に関する設定などを変更することができます。(→ P. 90)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① ひとつ前の画面にもどる
- ② 決定／設定
- ③ 選択／ページ送り



ドライブインフォメーション

- 瞬間燃費（バー表示／数値表示）※¹

現在の燃費を表示します

- 平均燃費（リセット間※²／始動後／給油後）※¹

リセット後、始動後、給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は参考として利用してください。

- 平均車速（リセット間※²／始動後）※¹

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示します。

- 走行時間（リセット間※²／始動後）※¹

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。

- 距離（航続可能距離・始動後）※¹

燃料残量による走行可能な距離、ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。

・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

・ 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のときは、表示が更新されないことがあります。

この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 86）

- エネルギーモニター

→ P. 94

- スピードメーター

現在の車速を表示します。

- G モニター

→ P. 92

- ふらつき警報機能

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意
力低下の度合いをバーの長さで表示します。

バーの長さが短いほど休息が必要な状態であることを表します。


この表示は、LDA（ステアリング制御付き車線逸脱警報）の機能のひとつです。

LDA のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効にな
ります。（→ P. 210）

- 非表示


ドライブインフォメーションを非表示にします。


※1 ドライブインフォメーション1または2で登録できます。

※2 リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの
 を長押しします。画面に表示されている項目がひとつ以上リセット可能な
場合は、リセットする項目を選択する画面が表示されます。

設定画面


各装備の機能の ON / OFF や設定変更などができます。

変更可能な項目では、 を押すたびに ON / OFF が切りかわります。

-  LDA (ステアリング制御付き車線逸脱警報) (→ P. 210)


LDA の設定を変更できます。

- ・ 操舵支援の ON / OFF
- ・ 車線逸脱警報感度
- ・ ふらつき検知機能の ON / OFF
- ・ ふらつき検知機能の感度

-  PCS (プリクラッシュセーフティシステム) (→ P. 198)

PCS の設定を変更できます。


- ・ PCS 機能の ON / OFF
- ・ 衝突警報感度

-  BSM (ブラインドスポットモニター) (→ P. 234) ★

BSM の設定を変更できます。


- ・ BSM 機能の ON / OFF
- ・ RCTA 機能の ON / OFF※

※ RCTA 機能は BSM 機能が ON のときに設定変更できます。

-  クリアランスソナー (→ P. 245) ★

クリアランスソナーの ON / OFF を変更できます。

- ドライブモード (→ P. 232)


-  照度調整 (→ P. 92)

メーターの照度を調整できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 表示設定

以下の項目を設定することができます。

- ・ 言語
マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。
- ・ 単位
マルチインフォメーションディスプレイ内の燃費表示の単位を選択することができます。
- ・  EV インジケーター設定
EV インジケーターの表示／非表示を選択することができます。
- ・ ドライブインフォメーション1～2
ドライブインフォメーションに表示させる項目をそれぞれに2つまで選択することができます。
- ・ 表示設定初期化
メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

 知識

■ 設定項目について

- 「表示設定」設定項目は、走行中は選択不可になり、操作できません。また、次の場合は設定画面が一時中断されます。
 - ・ 警告メッセージが表示されたとき
 - ・ 走行し始めたとき
- 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。
- 設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、そのまま使用しても問題ありません。

■ 補機バッテリーを取り外したり、再接続したとき

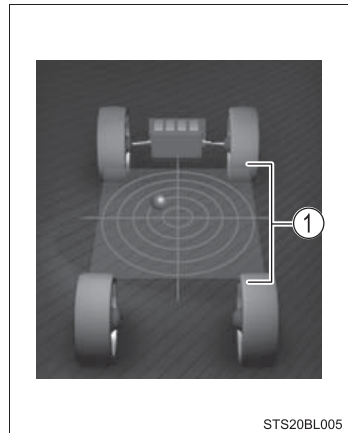
ドライブインフォメーションが初期化されます。

■ G モニター

システム作動による走行状況を表示します。

① G 表示

車両にかかる G の大きさをボールの位置で表示します。



■ メーターの照度調整について

車幅灯点灯時に照度調整できます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）は照度調整できない場合があります。

■ エンディング画面

パワースイッチを OFF にしたとき、約30秒間マルチインフォメーションディスプレイに以下の情報が表示されます。

- 走行時間
- 走行距離
- 平均燃費

警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

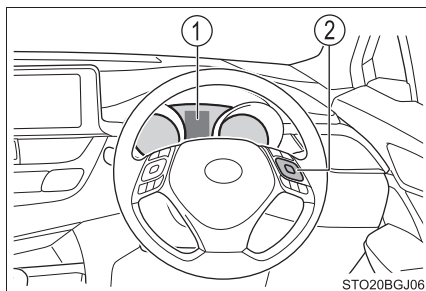
■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター


ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- ① マルチインフォメーションディスプレイ
- ② メーター操作スイッチ

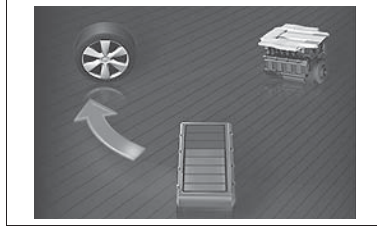


STO20BGJ06

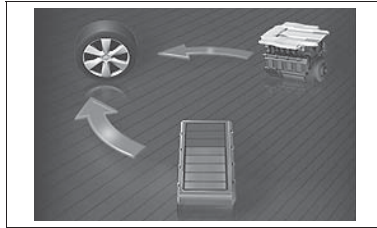
エネルギーモニター

メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して  を選択し、“^”または“v”を押してエネルギーモニターを表示させる

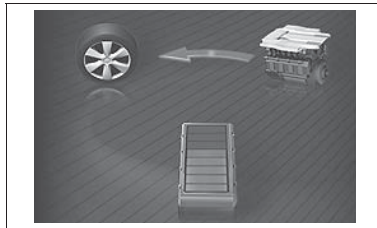
電気のエネルギーで走行しているとき



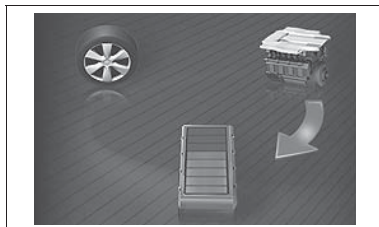
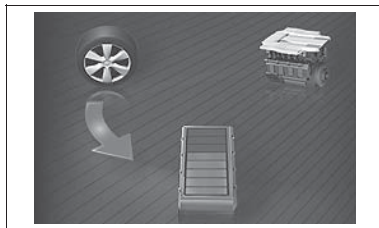
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき



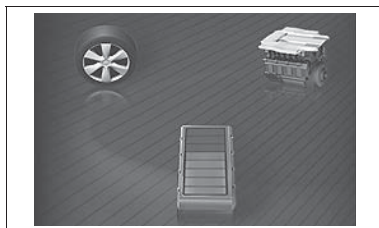
ガソリンのエネルギーで走行しているとき



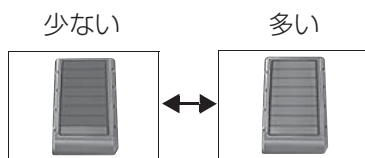
駆動用電池に充電しているとき



エネルギーの流れがないとき



駆動用電池の残量表示



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

各部の操作**3**

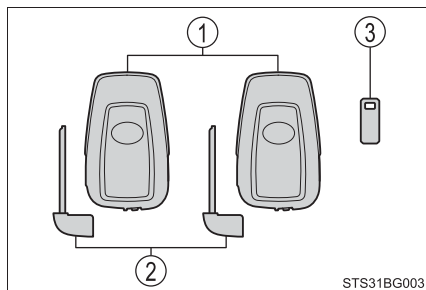
3-1. キーの取り扱い	
キー	98
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア（フロントドア・ リヤドア）	102
バックドア	108
スマートエントリー& スタートシステム	113
3-3. シートの調整	
フロントシート	120
リヤシート	121
ヘッドレスト	123
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	126
インナーミラー	128
ドアミラー	130
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	132

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

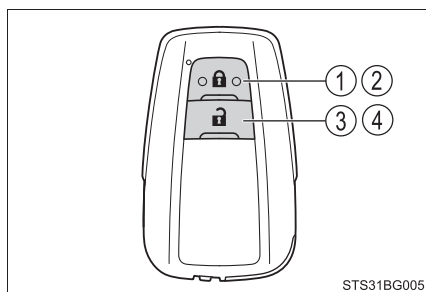
- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 113)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する (→ P. 102)
- ② ドアガラスを閉める* (→ P. 102)
- ③ 全ドアを解錠する (→ P. 102)
- ④ ドアガラスを開く* (→ P. 102)

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

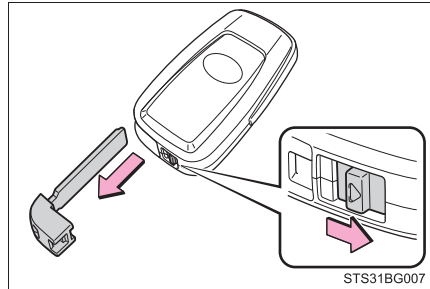


メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 409)



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されません。
- 長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。(→P. 115)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLEDが点灯しない
 - ・電池はお客様自身で交換することができます。(→P. 344)
ただし、交換の際にキーが破損するおそれがあるためトヨタ販売店での交換をおすすめします。
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

■電池の交換方法

→P. 344

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。

(カスタマイズ一覧：→P. 431)

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■ 電子キー取り扱いの注意

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。
- 技適マークと認可番号は電池蓋を取り外した際、確認が可能です。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

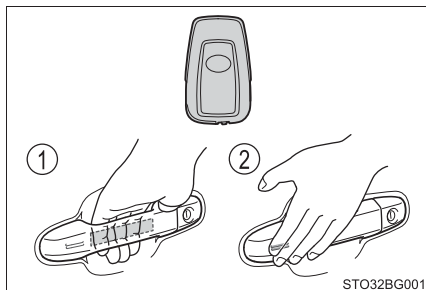
- ① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

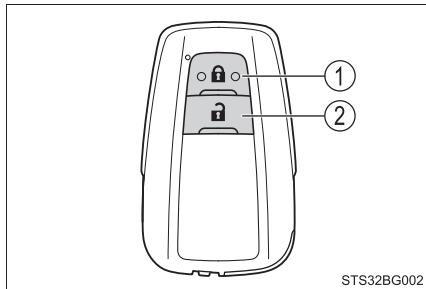
- ① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。*

- ② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。*



* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

 知識

■ 作動の合図

- ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)
- ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

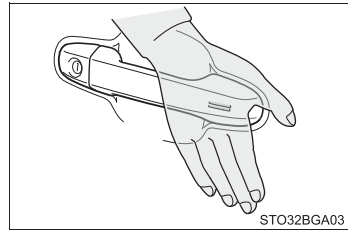
■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴りません。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

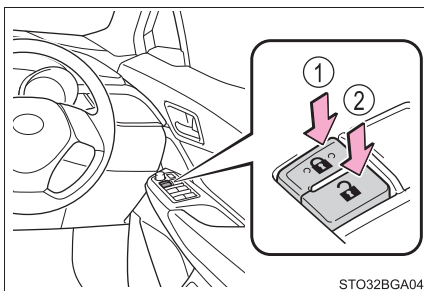
■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 409)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 344)

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

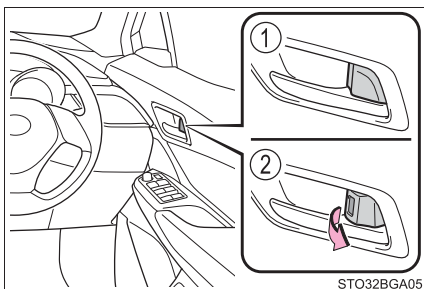
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。





 知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠



メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 409)

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、 を約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ” (3 回)
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車内：“ポーン” (1 回)
	運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 116

■カスタマイズ機能

施錠・解錠時のブザー音量などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

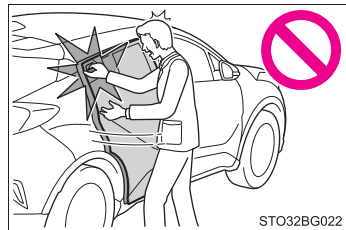
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ リヤドアを閉めるときは

指などを挟まないよう十分注意してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



STO32BG022

バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

車外からの解錠・施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

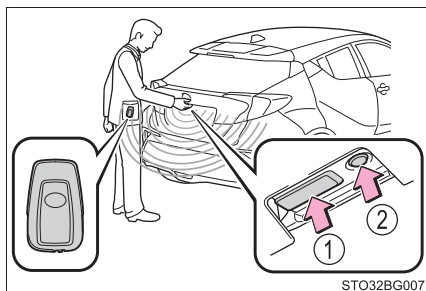
電子キーを携帯して操作します。

- ① バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 102

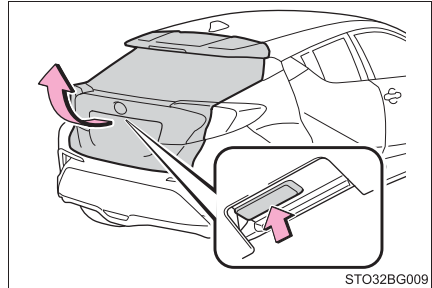
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 104

バックドアを開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる。

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができない場合があります。

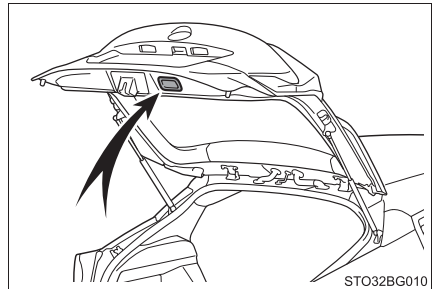


STO32BG009

バックドアを閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。



STO32BG010

知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ラゲージルームランプ

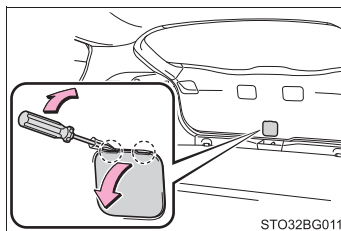
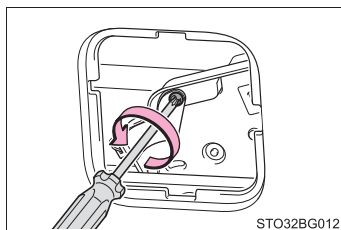
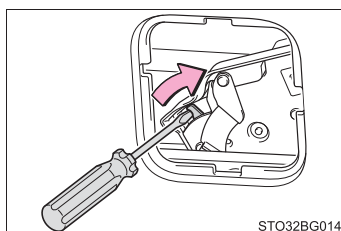
バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

■バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷がつくのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

**2** ネジをゆるめる**3** カバーをまわす**4** レバーを押す

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

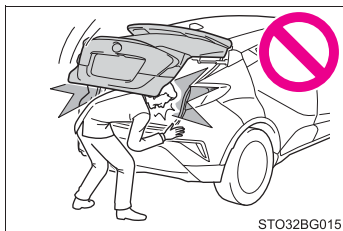
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するとき、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

警告

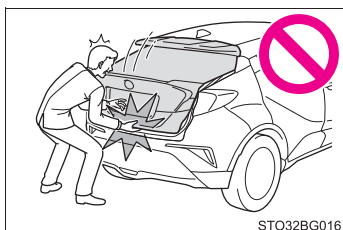
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。

特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

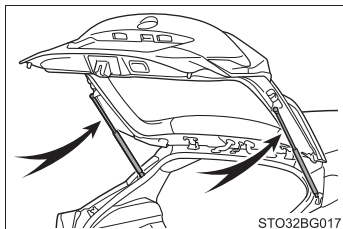
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム

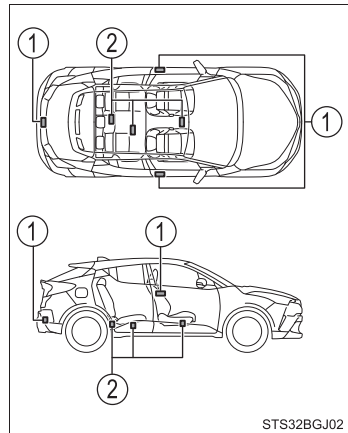
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
必ず運転者が携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する (→ P. 102)
- バックドアを解錠・施錠する (→ P. 108)
- ハイブリッドシステムを始動する (→ P. 150)

知識

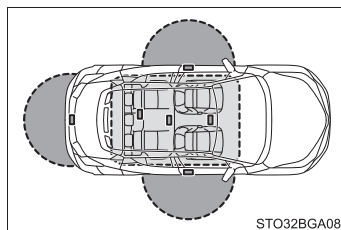
■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

- : ドアの施錠・解錠時
フロント席ドアハンドル/バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



- : ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

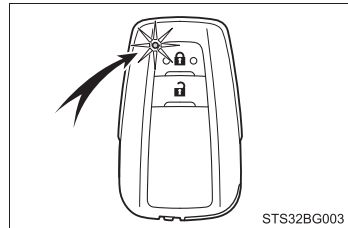
■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

長時間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。



STS32BG003

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 409)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CDやDVDなどのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合
- コインパーキングに駐車しているとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ バックドアを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリアバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・ ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠・施錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると解錠・施錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（盗難に注意し保管してください）
 - ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 115）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 431)
- 長時間使用しない電子キーの電池消費を抑えることができます。(→P. 115)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→P. 409
- ハイブリッドシステムの始動：→P. 410

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P. 431)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。(→P. 102, 409)
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P. 410
- ハイブリッドシステムの停止：→P. 151

 **警告****■電波がおよぼす影響について(スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)**

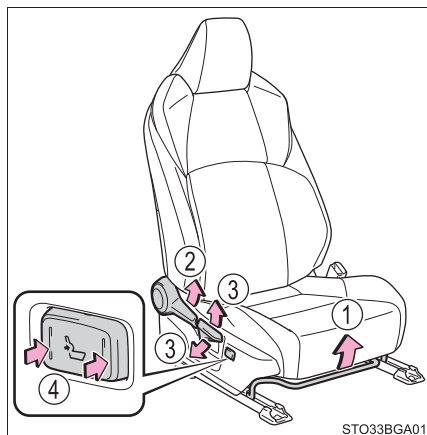
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P. 113)から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ クッション全体の上下調整（運転席のみ）
- ④ 腰部硬さ調整★



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを倒す前に

1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにします。
(→ P. 159)

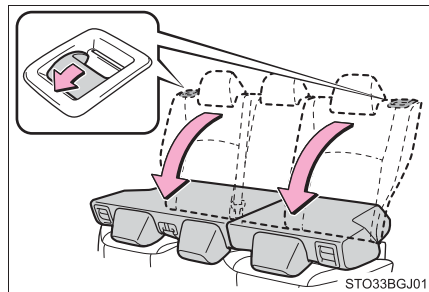
2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する (→ P. 120)

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

3 リヤシートのヘッドレストを下げる (→ P. 123)

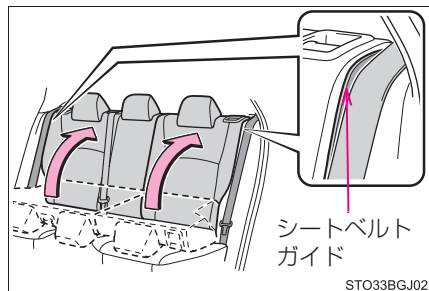
背もたれを倒す

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す



背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイドにかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



警告

■ 背もたれを前倒しするとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

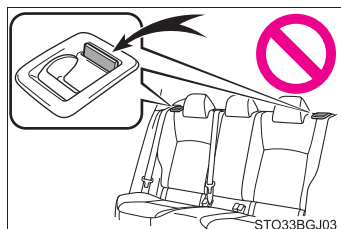
■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

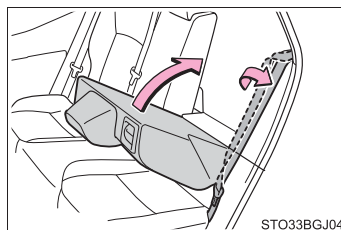
- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。

シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。

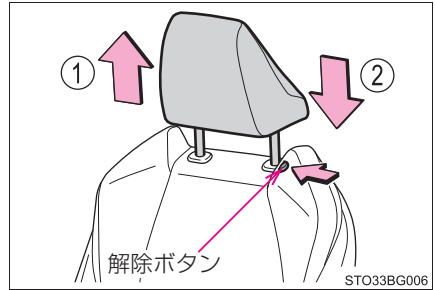


ヘッドレスト

フロントシート

- ① 上げる
- ② 下げる

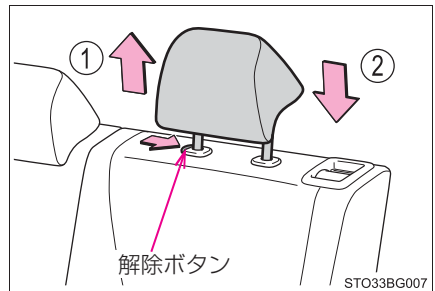
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



リヤシート

- ① 上げる
- ② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

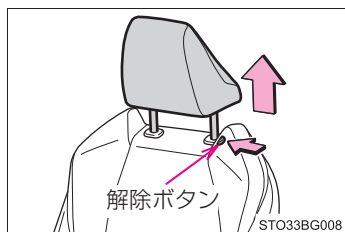


 知識

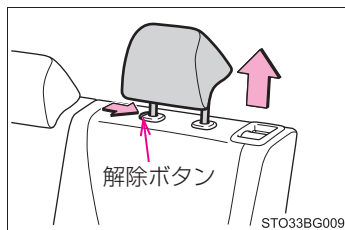
■ ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。

▶ フロントシート



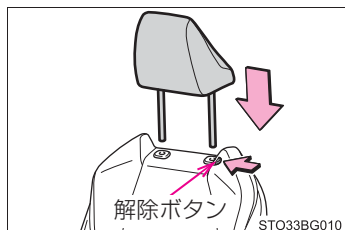
▶ リヤシート



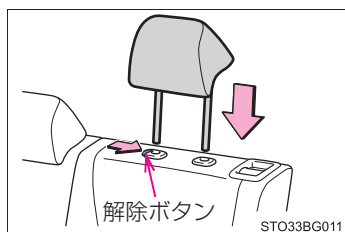
■ ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

▶ フロントシート

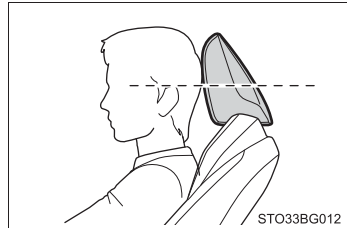


▶ リヤシート



■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席のヘッドレストについて

使用するとき、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

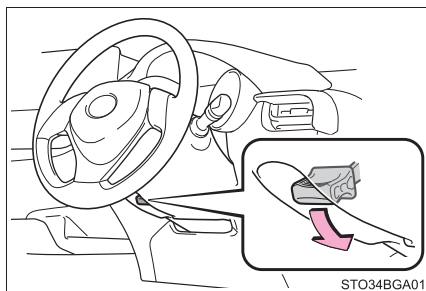
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

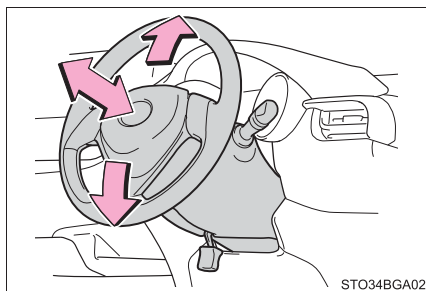
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



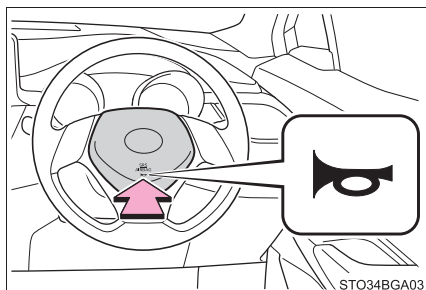
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



 知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

 警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

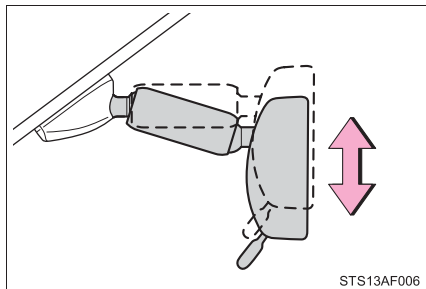
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

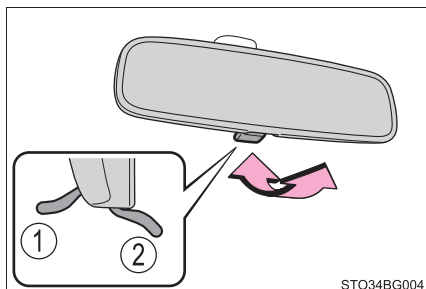


防眩機能

▶ 手動防眩ミラー装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



▶ 自動防眩ミラー装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

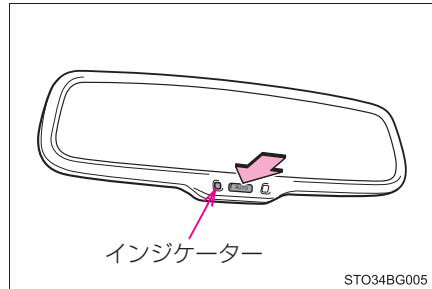
自動防眩機能の切りかえ

ON / OFF

ON のときはインジケータが点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

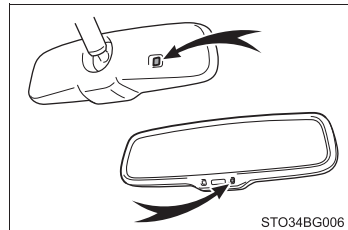
ボタンを押すと OFF になりインジケータが消灯します。



📖 知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠️ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

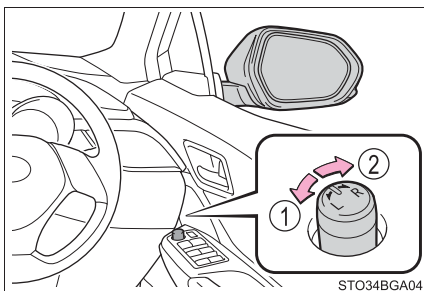
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

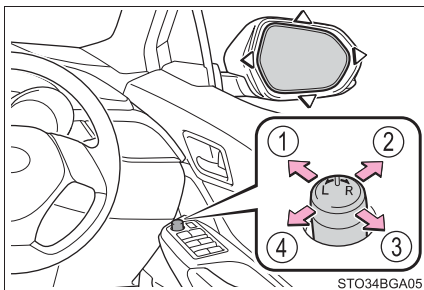
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



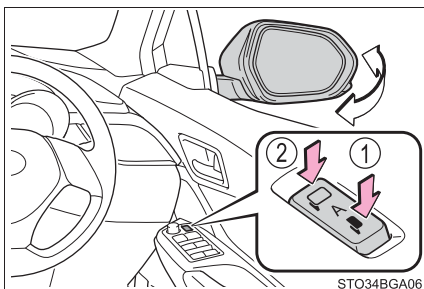
- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納・復帰する

- ① ミラーを格納する
 - ② ミラーをもとの位置にもどす
- スイッチを中立の位置 (A) にするとオート作動に切りかわり、ドアの施錠・解錠に連動して作動します。



 知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→ P. 269)

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

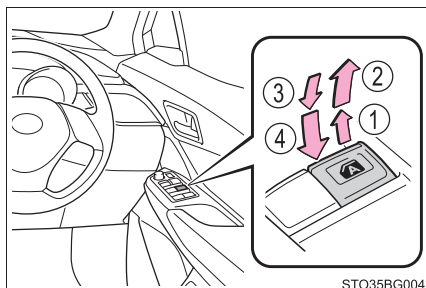
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

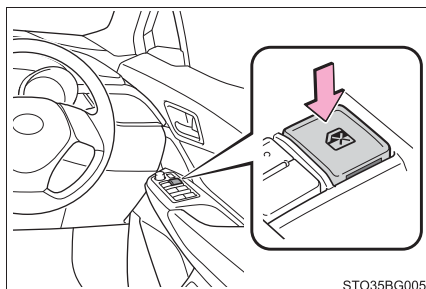
※途中で停止するとき、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態に、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける、または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。* (→ P. 409)
 - ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。* (→ P. 102)
- * トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■ 窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

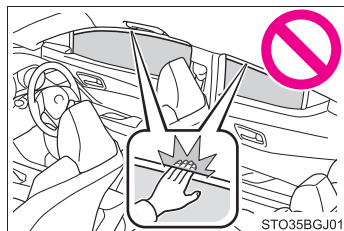
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 132)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



 **警告**

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって
- 運転にあたって 138
 - 荷物を積むときの注意 148
- 4-2. 運転のしかた
- パワー（イグニッション）
スイッチ 150
 - EV ドライブモード 157
 - トランスミッション 159
 - 方向指示レバー 163
 - 電動パーキングブレーキ 164
 - ブレーキホールド 168
- 4-3. ランプのつけ方・
ワイパーの使い方
- ランプスイッチ 171
 - オートマチックハイビーム... 175
 - フォグランプスイッチ 179
 - ワイパー & ウォッシャー
（フロント） 181
 - ワイパー & ウォッシャー
（リヤ） 185
- 4-4. 給油のしかた
- 給油口の開け方 187
- 4-5. 運転支援装置について
- Toyota Safety Sense 192
 - PCS（プリクラッシュ
セーフティシステム） 198
 - LDA（レーンディパーチャー
アラート [ステアリング
制御機能付き]） 210
 - レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付き） 220
 - ドライブモードセレクト 232
 - BSM（ブラインドスポット
モニター） 234
 - ・ BSM 機能 238
 - ・ RCTA 機能 241
 - クリアランスソナー 245
 - 運転を補助する装置 253
- 4-6. 運転のアドバイス
- ハイブリッド車運転の
アドバイス 259
 - 寒冷時の運転 261

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 150

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 159)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 165)
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→ P. 164)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→ P. 159)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 165)、シフトレバーを P にする (→ P. 159)
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。
[※] 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- 3 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
- 2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→P. 165）
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除し発進する（→P. 165）

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P. 253）

■燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P. 259）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、R から B、D から R、B から R、N から R、P から D、P から B、P から R）とき
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 254）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 366を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 159)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておく、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れて、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 383, 397をご覧ください。

 **注意****■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ ラゲージカバー
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。


これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

- 4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

ハイブリッドシステムの停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて (→ P. 165)、シフトレバーを P の位置にする (→ P. 159)
- ③ パワースイッチを押す
ハイブリッドシステムが停止します。
- ④ ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF*

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリモード

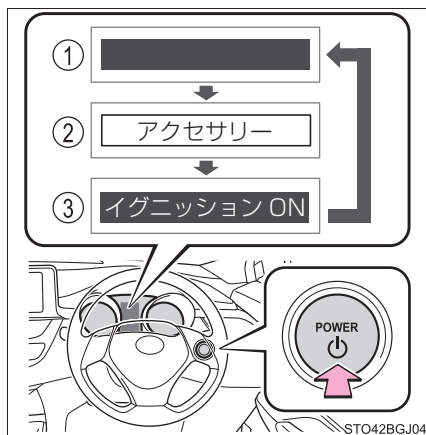
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリ」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。



* シフトレバーがP以外のときはアクセサリモードになり、OFFになりません。

シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」と「電源をOFFしてください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを1回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」と「電源をOFFしてください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトポジションがPにあるとき、20分以上アクセサリーモードか1時間以上ONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 64

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 100

■ 外気温が低いとき

- ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなる場合があります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30°C 以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 116

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 117

■ ハイブリッドシステムが始動しないとき

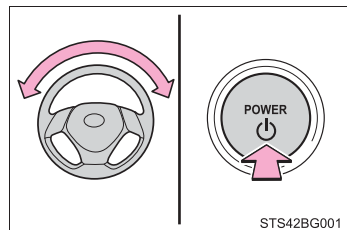
- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 73）トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時はPレンジに入れて下さい」が表示されます。

■ ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 378

■ 電子キーの電池が切れたとき

→ P. 344

■ パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 409

 **警告****■ ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押ししてください。(→P. 366) ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、パワースイッチを押ししてください。停車後にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを P にし、パワースイッチを押ししてください。

 **注意****■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

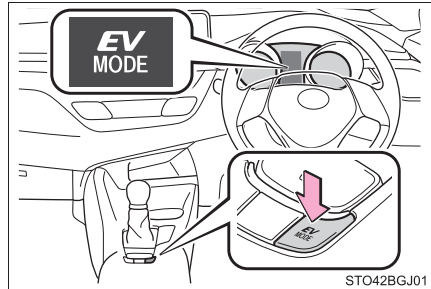
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。(→ P. 62)

EV ドライブモードの ON / OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃ を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態 (→ P. 94)
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■ EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 駆動用電池の充電量が低下したとき

エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 94）

● 車速が高いとき

● アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 走行モード（→ P. 232）の切りかえについて

EV ドライブモードとエコモード／スポーツモードは併用することができます。ただし、スポーツモードとの併用時は EV ドライブモードが自動解除されやすくなる場合があります。

■ 燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなる場合があります。

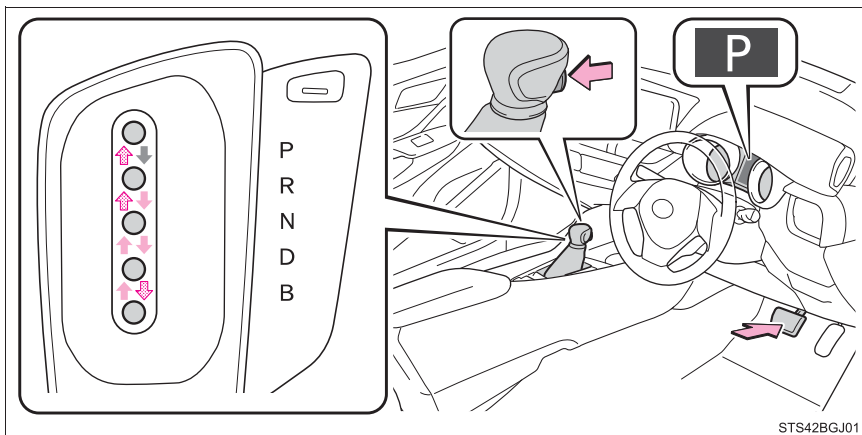
警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



- ← パワースイッチが ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。*
- ← シフトレバーのボタンを押しながら操作します。
- ← シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 [※]
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

走行モードの選択

→ P. 232

知識

- レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)を使って走行しているとき
エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)が解除されないためエンジンブレーキは効きません。
 - D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき (→ P. 232)
- リバース警告ブザー
シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。
- 急発進の抑制について (ドライブスタートコントロール)
→ P. 140
- シフトロックシステム
シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

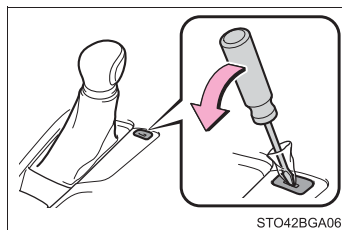
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む

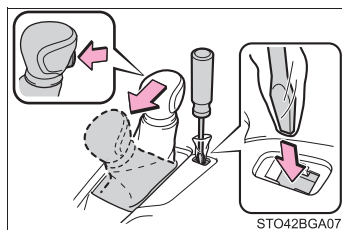
4 カバーをははずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ エンジンブレーキについて

- 高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。
- 強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

 **警告****■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

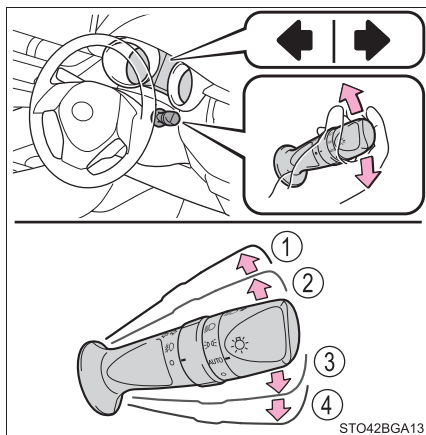
 **注意****■ 駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

オートモード

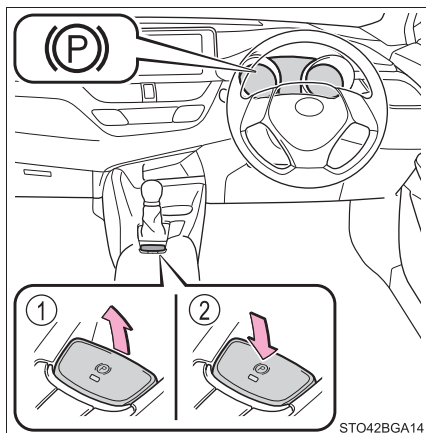
シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。(→ P. 165)

- ① オートモードを ON にする (停車中に「EPB シフト連動機能 ON」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける)

P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



STO42BGA14

- ② オートモードを OFF にする (停車中に「EPB シフト連動機能 OFF」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける)

マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

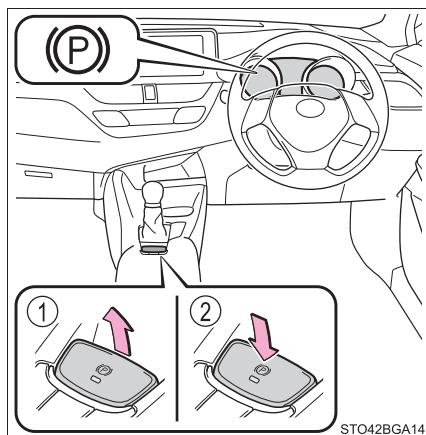
パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合、再度スイッチを操作してください。(→ P. 375)

知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチがONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチがONモード以外では、オートモードによる作動(かける・解除する)はできません。

■ 自動解除機能

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

- 運転席ドアが閉じている
- 運転席シートベルトを着用している
- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください」が表示されたときは**

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」が表示されたときは**

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **パーキングブレーキの作動音**

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ **パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて**

● パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

● パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになります。異常ではありません。

■ **モードの切りかえについて**

オートモードの ON/OFF を切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■ **駐車するとき**

→ P. 138

■ **パーキングブレーキ未解除警告ブザー**

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。

■ **警告メッセージ・警告ブザーについて**

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- ブレーキ警告灯が点灯したときは
→ P. 373
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 262

 **警告****■ 駐車するとき**

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

 **注意****■ 駐車するとき**

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

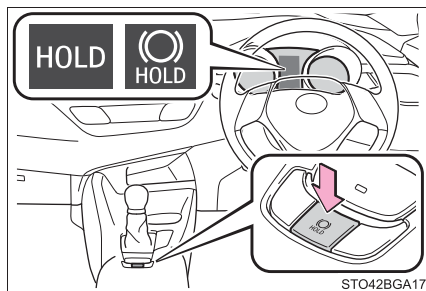
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

シフトレバーが P または R 以外でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが P または N 以外のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

次のときはシステムを ON できません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときにいずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合は、運転者はブレーキをかける必要があるときもあります。このときは警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作してパーキングブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P. 164)

■ マルチインフォメーションディスプレイに「Brake Hold 故障 ブレーキを踏み解除してください 販売店で点検」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

 **注意****■ 駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

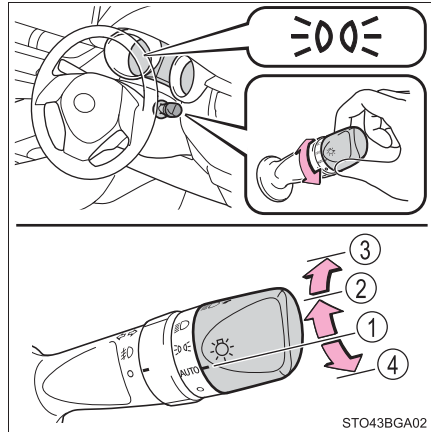
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

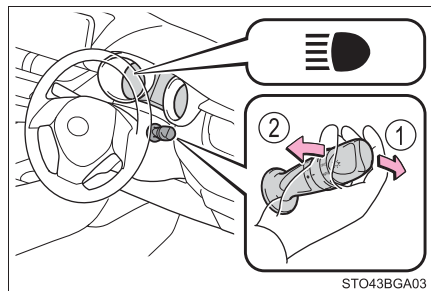
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

- ① **AUTO** ヘッドランプ・LED デイライト★ (→ P. 173)・車幅灯などを自動点灯・消灯 (パワースイッチがONモードのとき)
- ② **☰☷** 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③ **☰☷** 上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ **○** 消灯



ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

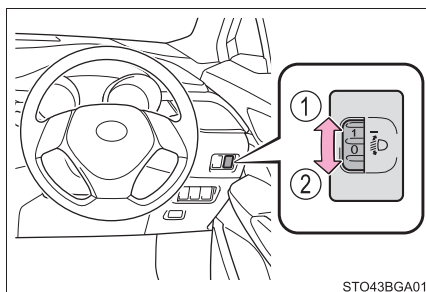


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2.0
運転者	ラゲージルーム 満載時	3.5

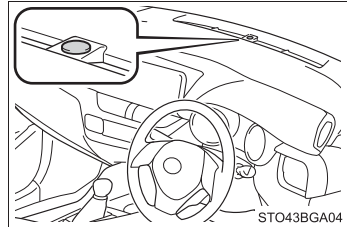
 知識

■ LED デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを **AUTO** にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。
また、エアコン作動のさまたげとなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを **AUTO** または **○** にもどし、再度 **☺** または **☹** の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム (LED ヘッドランプ装着車)

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

● ランプスイッチを操作したとき

● ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラスに設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告


■ 安全にお使いいただくために

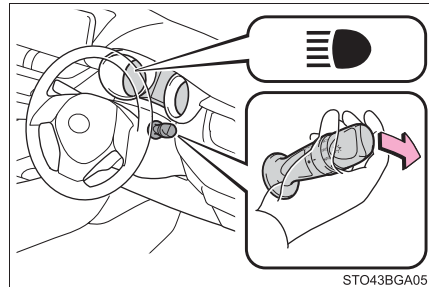
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

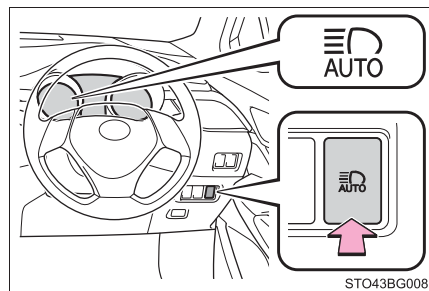
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを  または **AUTO** にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



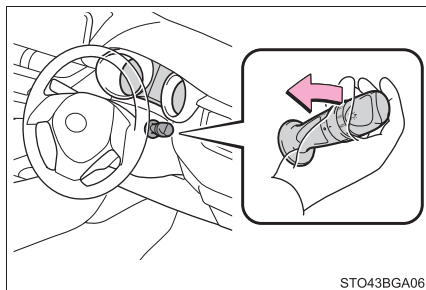
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押しします。

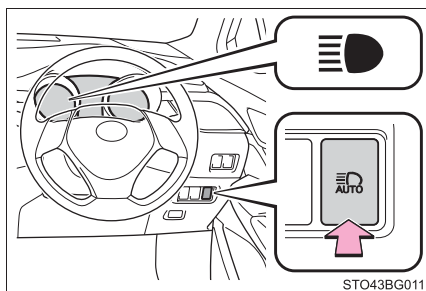


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識**■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・ カメラセンサーが極端に高温になっているとき
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されているとき

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

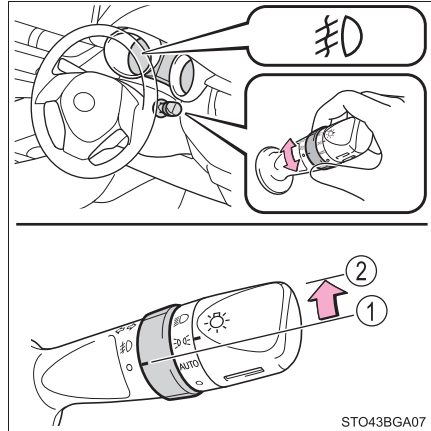
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

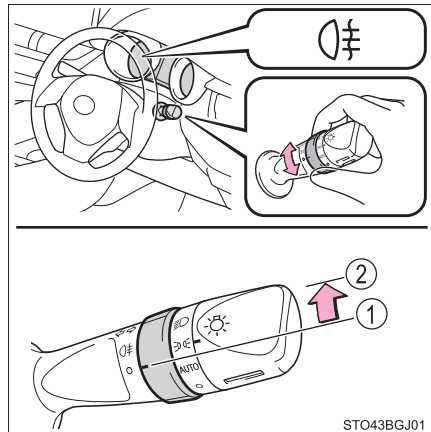
- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ 点灯する



▶ リヤフォグランプ装着車

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ 点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。
再度操作すると、消灯します。

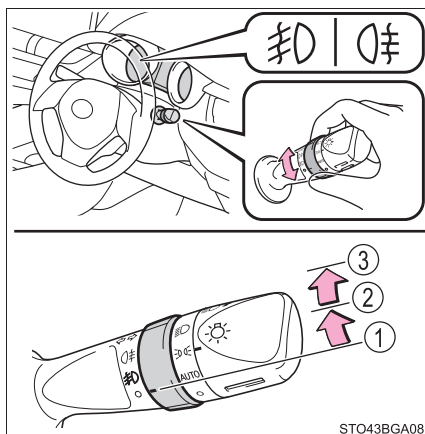


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ フロント&リアフォグランプ装着車

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ フロントフォグランプを点灯する
- ③ ㊧ フロント&リアフォグランプを点灯する

手を離すと㊦の位置までもどります。
再度操作すると、リアフォグランプのみ消灯します。



STO43BGA08

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リアフォグランプ：ヘッドランプまたはフロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リアフォグランプについて

- リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨・霧・雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）


操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

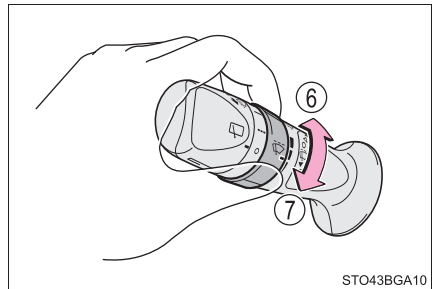
▶ 間欠作動調整式ワイパー装着車

- ① ○ 停止
- ②  間欠作動
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動

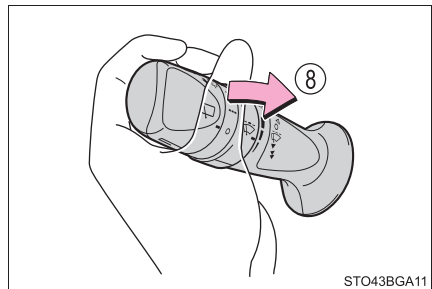


間欠作動（）を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）
- ⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



- ⑧ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー装着車

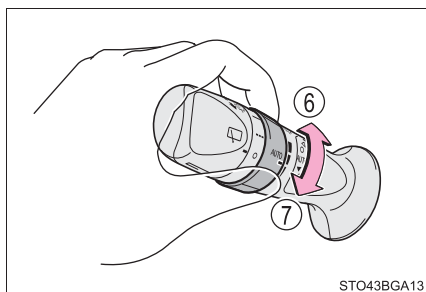
- ① ○ 停止
- ② **AUTO** AUTO モード
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動

AUTO モード（**AUTO**）を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



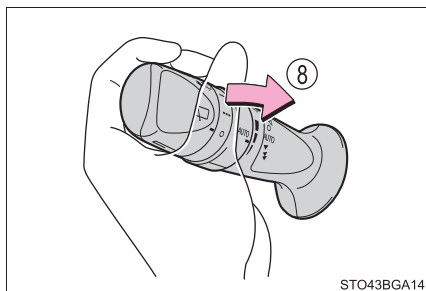
AUTO モード（**AUTO**）が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

- ⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）
- ⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



- ⑧ ウォッシャー液を出す／ワイパー連動作動

ウォッシャー液が出たあとにワイパーが数回作動します。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

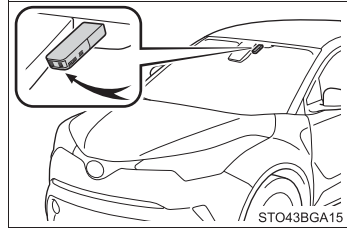
■ 液だれ防止作動（雨滴感知式ワイパー装着車）

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON モードのときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
 - AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
 - 雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または -15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。
 - フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、AUTO モードが正常に作動しないことがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **警告****■ AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

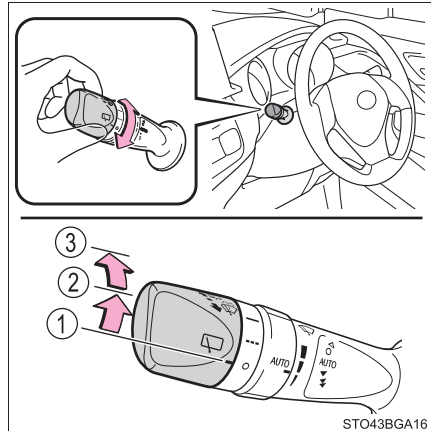
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

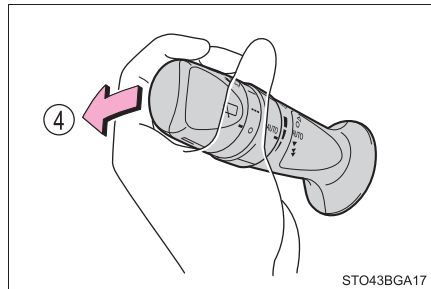
次のようにレバーの端をまわしてワイパーの作動を選択します。

- ① ○ 停止
- ② ── 間欠作動
- ③ ─ 通常作動



- ④ ウォッシャー液を出す／ワイパー連動作動

ウォッシャー液が出たあとにワイパーが数回作動します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **注意****■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

 **警告****■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

● キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

● 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

● 喫煙しないでください。

● 給油口にノズルを確実に挿入してください。

● 継ぎ足し給油をしないでください。

● 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

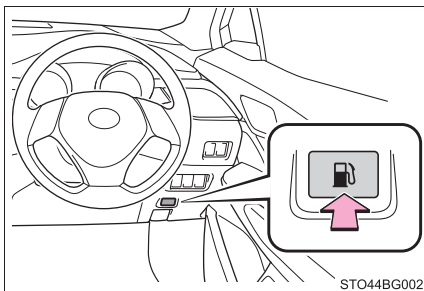
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

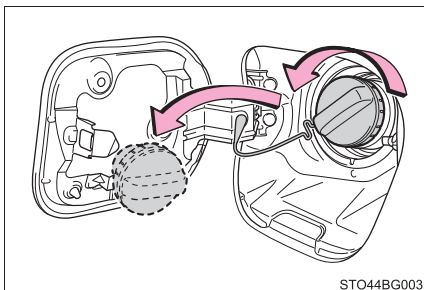
※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

- 1 オープナーを押して、給油扉を開く



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

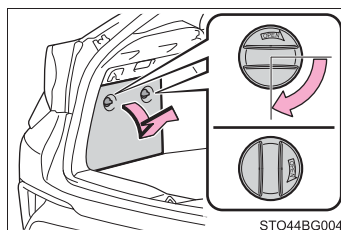


 知識

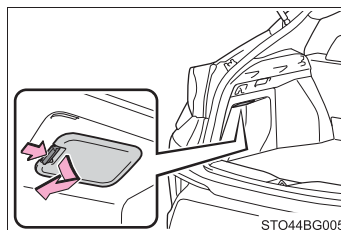
■ 車内のスイッチで給油扉が開かないとき

給油扉が開かないときは、次の方法で開けることができます。

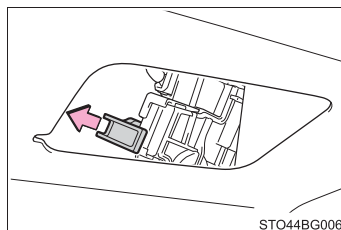
- 1 バックドアを開け、左側のフタをはずす★



- 2 ラゲージルームランプ下部にあるカバーを取りはずす



- 3 レバーを手前に引き、給油扉が開いたことを確認する

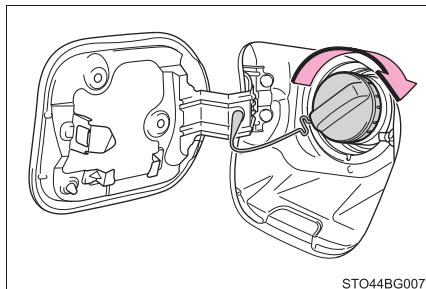


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



STO44BG007

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

→ P. 198

◆ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])

→ P. 210

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 175

◆ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)

→ P. 220



警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・ カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

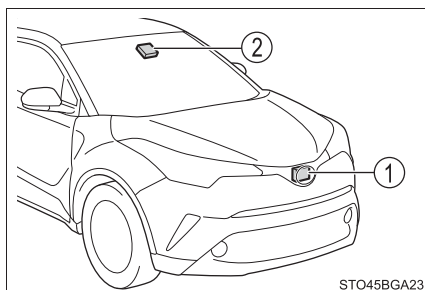
● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダーセンサー
- ② カメラセンサー



STO45BGA23

⚠ 警告

■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

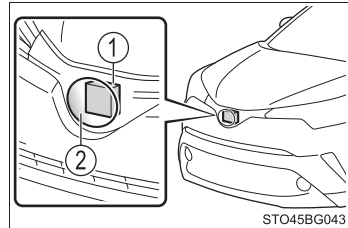
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

- ① レーダーセンサー
- ② フロントグリルエンブレム

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けた
り、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際
は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしな
い
- レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な
場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

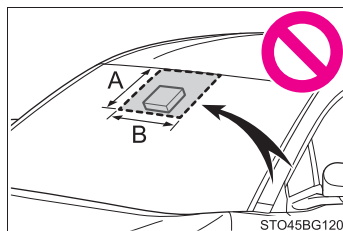
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側のカメラセンサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端からカメラセンサー下端より下約 1cm まで

B：約 20cm（カメラセンサー中心から左右約 10cm）



- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→ P. 269）
- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
 - ・ワイパーゴムの交換：→ P. 339
 - ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告**

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない
- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

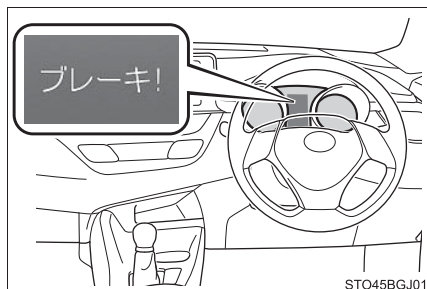
PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(→ P. 201)

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 204
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 206
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

 **警告****■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤ★やタイヤパンク応急修理キット★を使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき






★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイでプリクラッシュセーフティシステムの ON（作動） / OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。

- 1 1 メーター操作スイッチの “<” または “>” を押して  を選択する
- 2 2 “^” または “v” を押して  を選択し、 を押す
- 3 3 “^” または “v” を押して  を選択し、 を押す

 を押すたびにプリクラッシュセーフティシステムの ON（作動） / OFF（非作動）を変更することができます。






システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。




■ ブリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

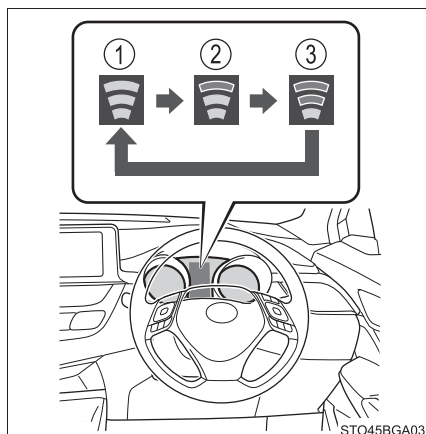
マルチインフォメーションディスプレイでブリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

パワースイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

- 1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して  を選択する
- 2 “^”または“v”を押して  を選択し、 を押す
- 3 “^”または“v”を押して「 警報感度」を選択し、 を押す

 を押すたびにブリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

- ① 遠い
「中間」より警報タイミングが早くなる
- ② 中間
初期設定
- ③ 近い
「中間」より警報タイミングが遅くなる



STO45BGA03

知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

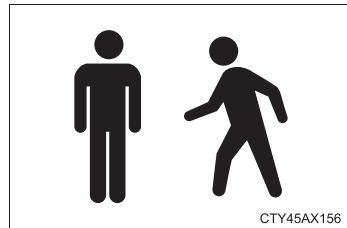
- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
 - ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上
- ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 208）



■ プリクラッシュブレーキの作動解除

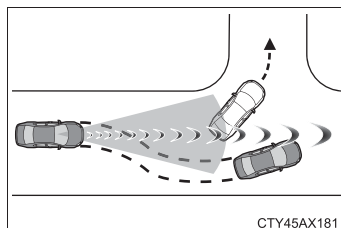
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

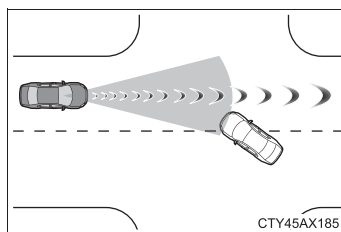
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

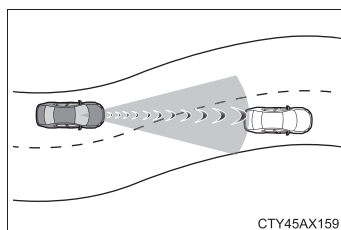
- ・ 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して先行車を追いこすとき
- ・ 車線変更している先行車を追い抜くとき
- ・ 右左折する先行車を追いこすとき



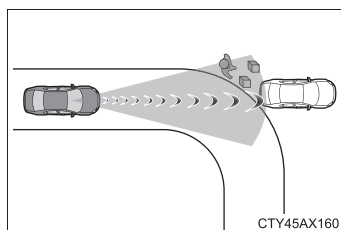
- ・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



- ・ 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

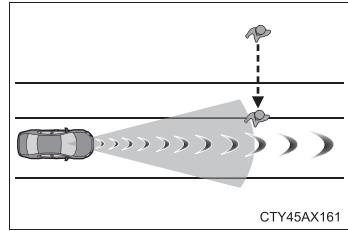


- ・ 前方車両に急接近したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

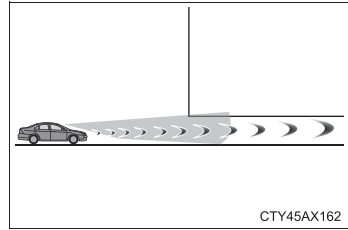


- ・ 道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・ 路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

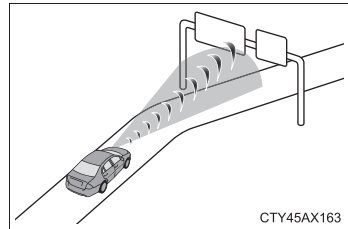
- ・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

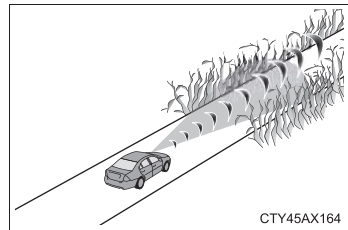


- ・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ・ETCゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・洗車機を使用するとき

- ・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

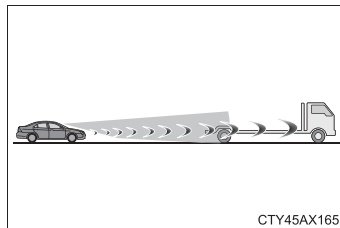


- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・路面または壁面に車両や歩行者との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

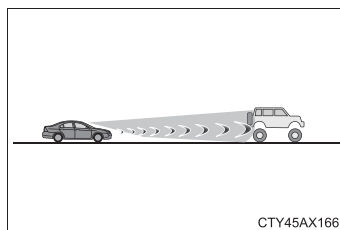
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・ 前方車両がオートバイ・自転車のとき
- ・ 車両の側面または前面に近付いたとき
- ・ 先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

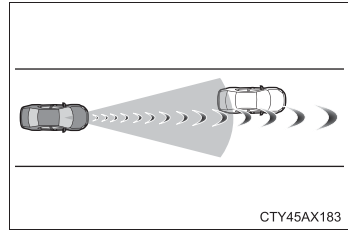


- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

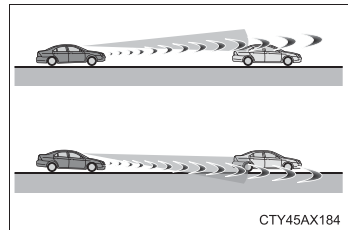


- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・ 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき

- ・ 前方車両と自車の中心がずれているとき



- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
- ・ 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・ ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
- ・ ふらつき運転をしているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合(ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど)
 - ・ 車両の整備状態(ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など)が良好でないとき
 - ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 身長が約 1m 以下、または約 2 m 以上の歩行者
 - ・ 合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・ 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
 - ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
 - ・ ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
 - ・ 集団でいる歩行者
 - ・ 白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
 - ・ 夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
 - ・ 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
 - ・ 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
 - ・ 路面の金属物(マンホール・鉄板など)上にいる歩行者
 - ・ 歩く速度が速い歩行者
 - ・ 歩く速度を急激に変化させている歩行者
 - ・ 物陰から飛び出してきた歩行者
 - ・ 車両の側端(ドアミラーなど)すれすれの位置にいる歩行者

■ PCS警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
 - ・ 前方センサーの周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
 - ・ カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき
(フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 269)
 - ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき
- 状況が改善されても PCS 警告灯が点滅または点灯、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ VSC を停止したとき

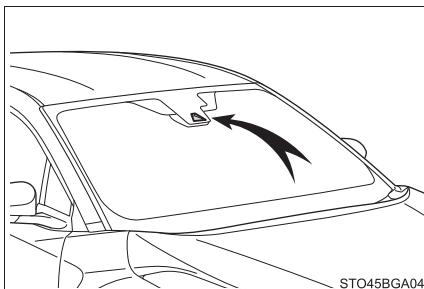
- VSC の作動を停止 (→ P. 255) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA (レーンディパーチャーアラート※[ステアリング制御機能付き])

機能概要

白(黄)線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDA は、フロントウィンドウガラス上部のカメラセンサーで、白(黄)線を認識します。

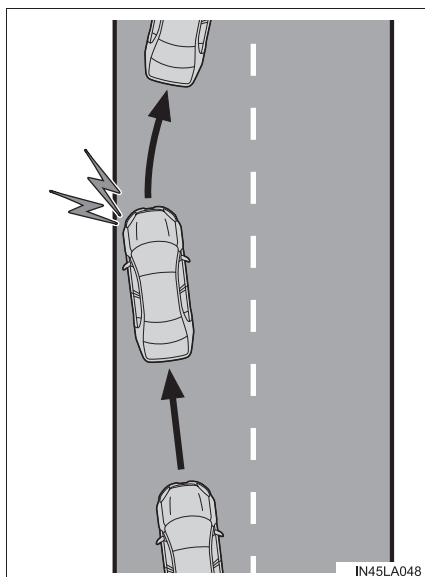


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白(黄)線内の中央付近にもどってください。

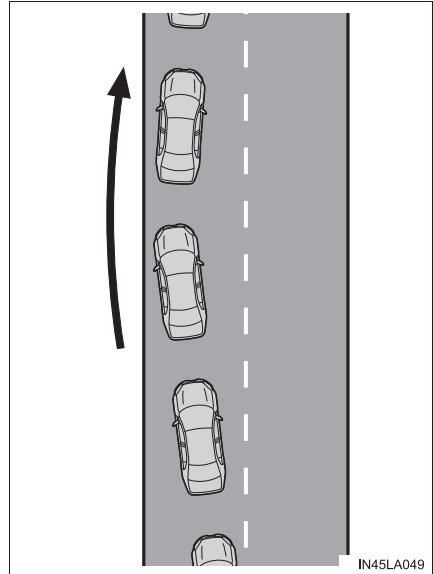


※：車線逸脱警報

◆ ステアリング制御機能

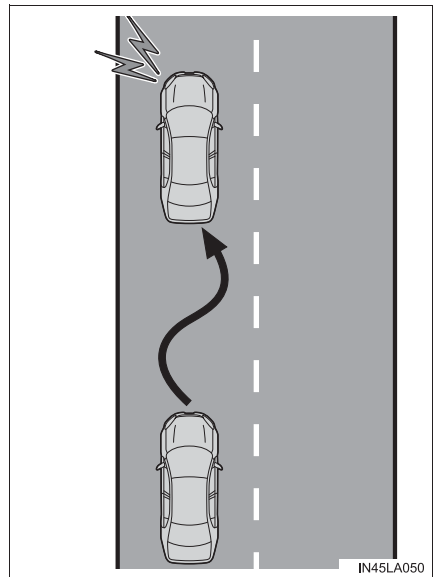
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



 **警告****■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ★・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 車両けん引時

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

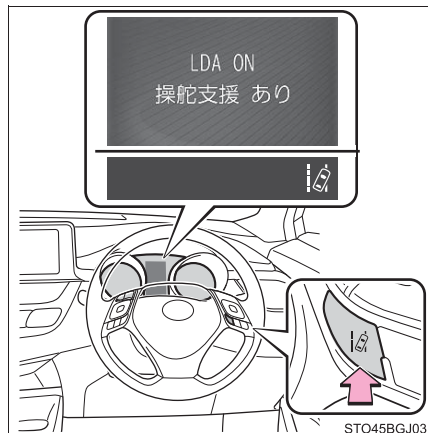
設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

② ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

③ 車線逸脱警報機能表示

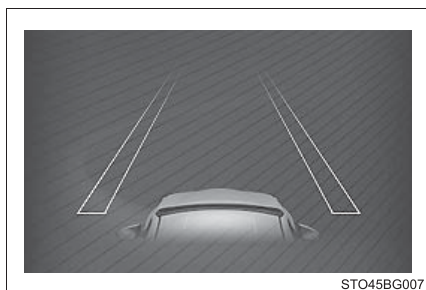
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

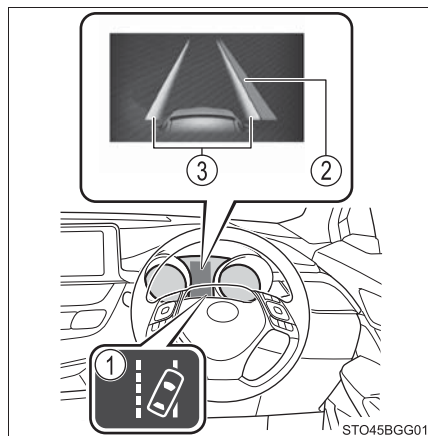


システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。



 知識

■ 各機能の作動条件



● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 218）



● ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  画面で「 操舵支援」をあり（インジケーター点灯）に設定しているとき（→ P. 434）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を停止していないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→ P. 216）が行われていないとき

● ぶらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  画面で「 ぶらつき検知」をあり（インジケーター点灯）に設定しているとき（→ P. 434）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 218）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 215）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→ P. 215）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかったり、ステアリング制御機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

ステアリング制御機能の作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき、マルチインフォメーションディスプレイにハンドル保持をうながすメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起を行います。

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

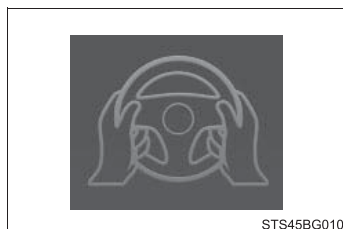
■ふらつき警報機能について

ふらつき警報機能の作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。



■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋏）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA 故障 販売店で 点検してください	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある → トヨタ販売店で点検を受けてください。
前方カメラ 一時使用不可 ガラスの 汚れや曇りを 取ってください	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している → いったん LDA を OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 LDA を ON にしてください。
前方カメラ 一時使用不可 しばらく お待ちください	カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされていない → カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされると、LDA は使用可能になります。いったん LDA を OFF にして、しばらく待ってから、再度 LDA を ON にしてください。
LDA 現在利用できません	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している → いったん LDA を OFF にして、警告メッセージの内容に対処したあと、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください
LDA 約 50km/h 以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません → 約 50km/h より速い速度で走行してください。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報機能	警報感度
ステアリング制御機能	機能の ON / OFF
ふらつき警報機能	機能の ON / OFF
	警報感度

設定変更のしかたは、P. 431 を参照してください。

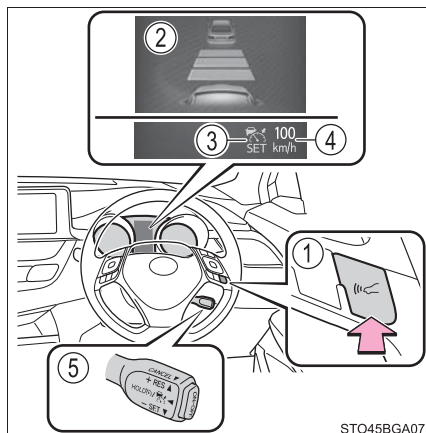
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 223）
 - 定速制御モード（→ P. 228）
- ① 車間距離切りかえスイッチ
 - ② マルチインフォメーションディスプレイ
 - ③ 表示灯
 - ④ 設定速度
 - ⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→ P. 230
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→ P. 231
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときはON/OFFスイッチでシステムをOFFにしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

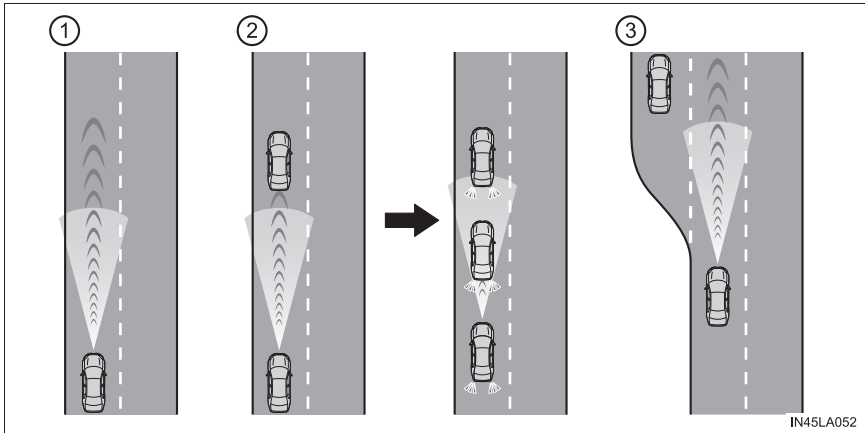
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約100m以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行： 先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行 — 追従走行： 設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります。

③ 加速走行： 設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

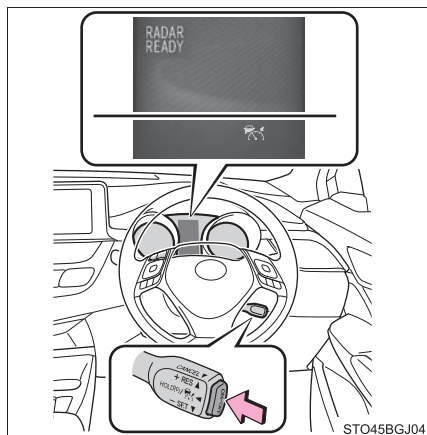
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFFにするには再度スイッチを押します。

ON-OFFスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P. 228）



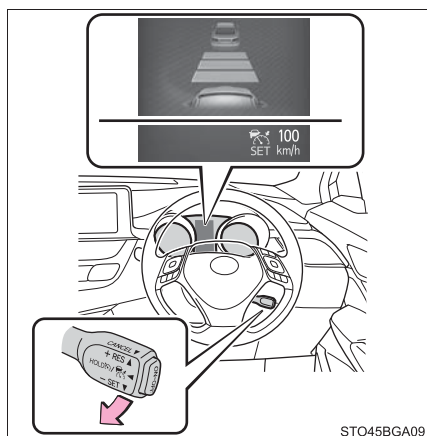
STO45BGJ04

- 2 希望の車速(約50km/h以上)までアクセルペダル操作で加速/減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの車速で定速走行できます。

車速が約50km/h未満、かつ先行車がいる状態でレバーを操作したときは、設定速度が約50km/hにセットされます。



STO45BGA09

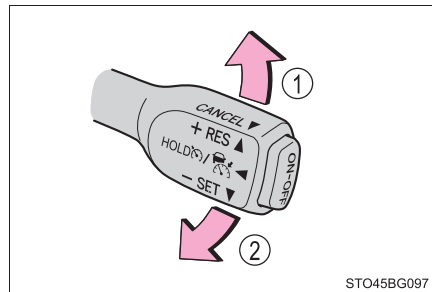
設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

- ① 速度を上げる
(車間制御モードの制御停車中は除く)
- ② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード (→ P. 228) では、設定速度は、次のとおりに増減されます。：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

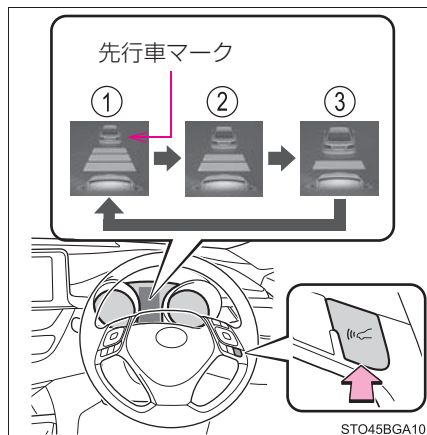
車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

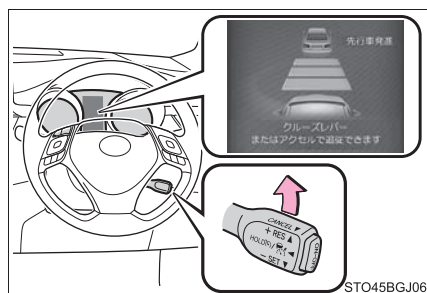
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

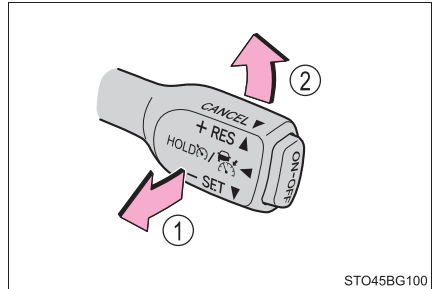
先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる

- ① 制御を解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。(車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)
- ② 制御を復帰させるには、レバーを上げる

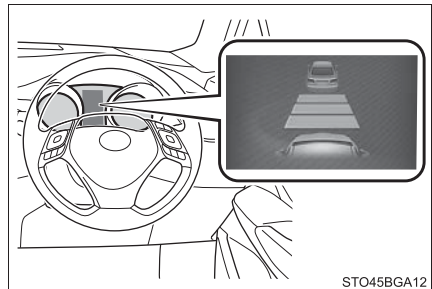


STO45BG100

ただし、車速が約 40km/h 以下で、かつ先行車を検知していないときは、復帰しません。

接近警報 (車間制御モード)

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



STO45BGA12

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

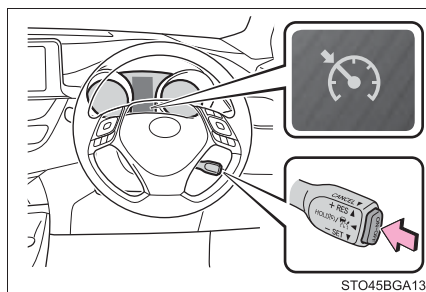
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



- 2 希望の車速（約 40km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

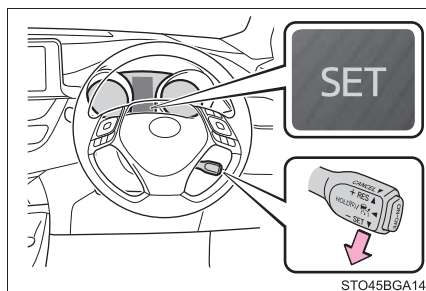
レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

→ P. 225

制御を解除する・復帰させる

→ P. 227



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できません。
- 車速は約 50km/h 以上のときで設定できます。
(ただし、先行車を検知しているときは、約 50km/h 未満でも設定できます)

■ 速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 先行車がないときに車速が約 40km/h 以下になったとき
- 車速が約 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約 3 分経過した

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 40km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ブレーキシステムの作動音

車間制御モードで走行中に自動でブレーキがかかると、ブレーキシステムの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

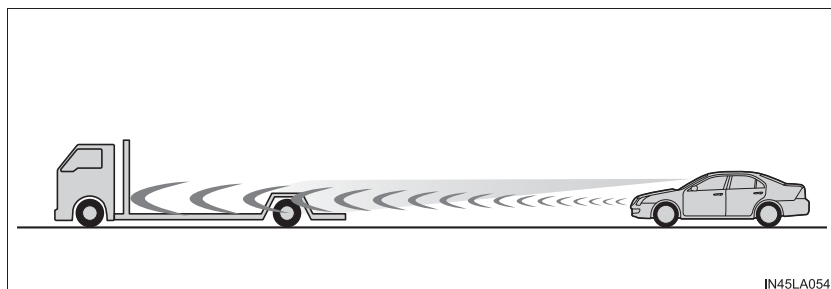
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

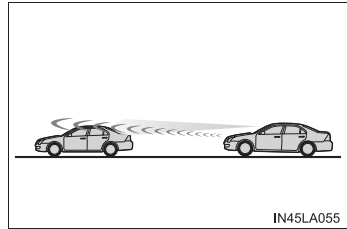
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 227）も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

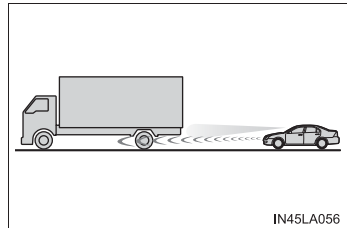


- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

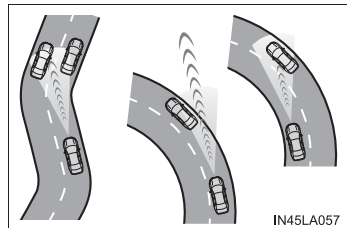


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

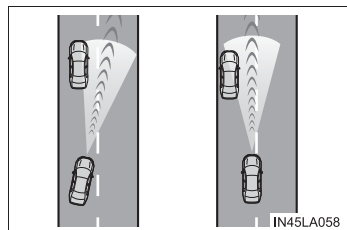
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合




- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、车速が設定速度に戻るとき

ドライブモードセレクト

走行状況に応じて、3種類から走行モードを選択することができます。

走行モードについて

■ 走行モードの切りかえ

- 1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの“^”または“v”を押して“ドライブモード”を選択する
- 3 メーター操作スイッチの“^”または“v”を押して走行モードを選択する

● NORMAL（ノーマルモード）

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

● SPORT（スポーツモード）

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

SPORT 選択中は、SPORT 表示灯が点灯します。

● ECO（エコモード）

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

ECO 選択中は、エコドライブモード表示灯が点灯します。

エアコンの使用時は、エコ空調モード（→ P. 271）に自動的に切りかわり、より燃費のよい走行につながります。

 知識

■ 走行モードの解除について

- スポーツモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、およびエコモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。(パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません)

■ EV ドライブモード時の走行モードの切りかえについて

→ P. 158

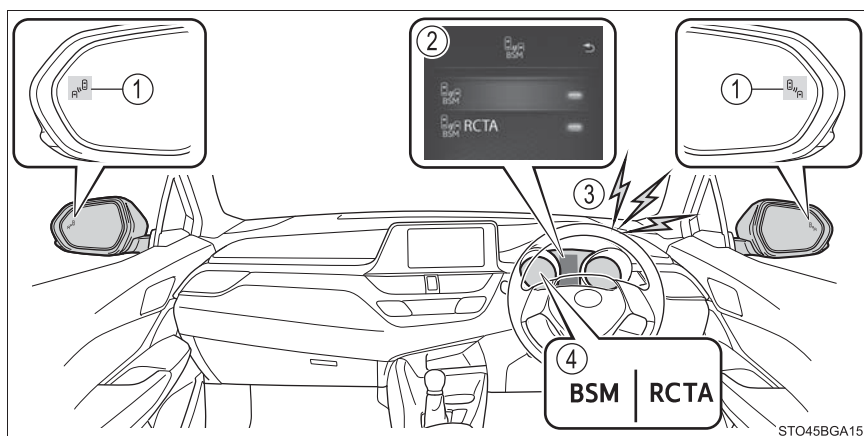
BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには、2つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能★
後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

① ドアミラーインジケータ

BSM 機能：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケータが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケータが点滅します。

RCTA 機能：

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケータが点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

RCTA 機能は、BSM 機能が ON のときのみ ON にすることができます。

③ RCTA ブザー (RCTA 機能のみ)





自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

④ BSM 表示灯 / RCTA 表示灯

BSM 機能または RCTA 機能が ON のとき、それぞれのインジケータが点灯します。

設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの“^”または“v”を押して  を選択する
- 3 メーター操作スイッチの“^”または“v”を押して  または  を選択する

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたときは

電圧異常やセンサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 237）。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障販売店で点検してください」が表示されたときは

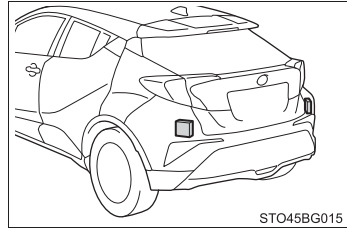
センサーの故障や位置、向きのおずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

⚠ 警告

■ レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→ P. 236）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM 機能の作動条件（→ P. 239）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

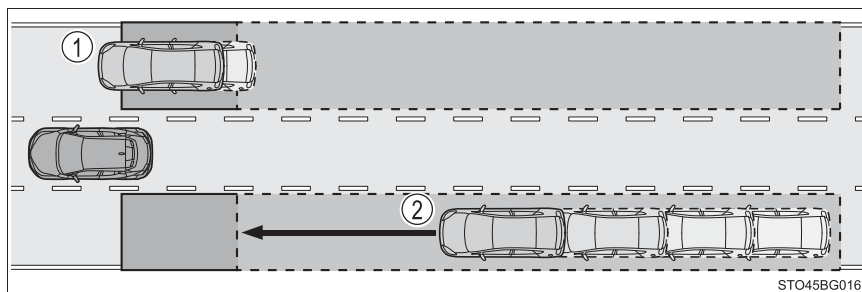
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください
- 本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



R 202-LSC077

BSM 機能

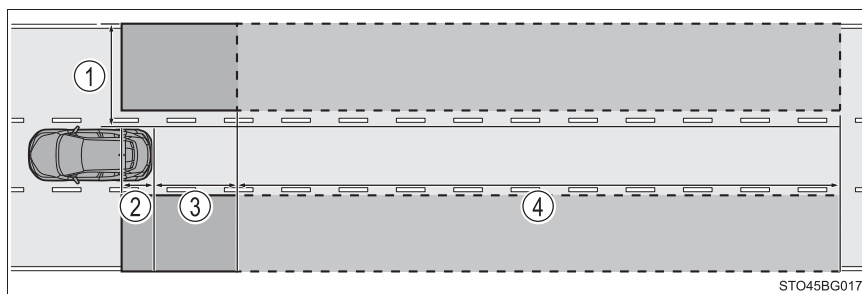
BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- ① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- ② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- ① 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域[※]
- ② リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- ③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- ④ リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域[※]

[※] 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。
[※] 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状態で点灯、点滅します。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

 **知識****■ BSM 機能の作動条件**

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM 機能が ON のとき
- シフトレバーが R 以外の位置のとき
- 車速が約 16km/h 以上のとき

■ BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など[※]
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物[※]
- 同じ車線を走行する後続車[※]
- 2 つ隣の車線を走行する他車[※]

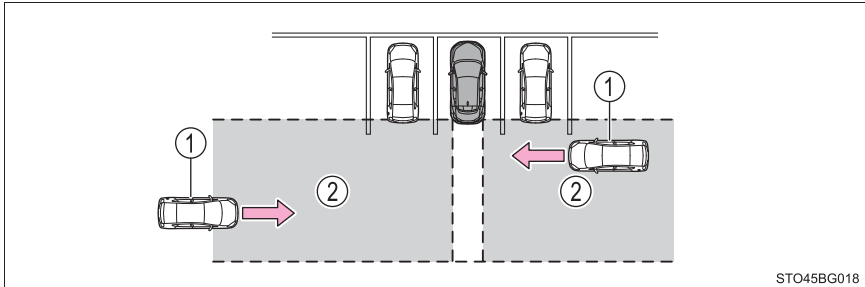
[※] 状況によっては検知をすることがあります。

■ BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

- BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追いつくとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さの差がありすぎるとき
 - ・ BSM 機能または RCTA 機能を ON にした直後
- BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

RCTA 機能★

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- ① 接近車両
- ② 接近車両を検知できる範囲

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

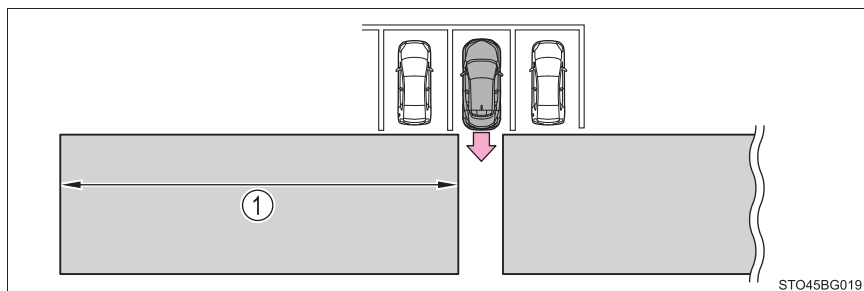
RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	① 警報距離（概算）
速い	28km/h	20m
遅い	8km/h	5.5m

知識

■ RCTA 機能の作動条件

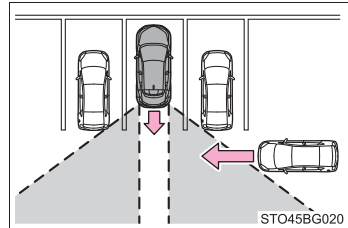
RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- RCTA 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h の間のとき

■ RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



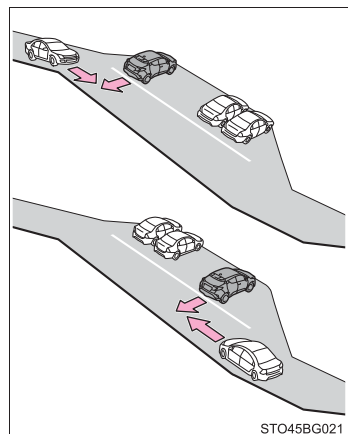
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 小型の二輪車、自転車、歩行者など ※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

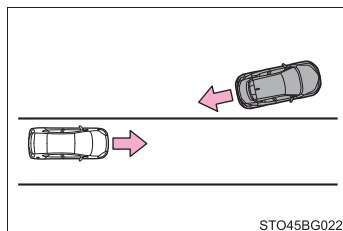
■ RCTA 機能が有効に作動しないおそれがある状況

● RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

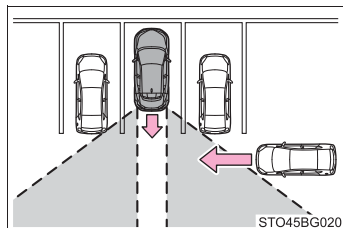
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・ 高速で接近する車両
- ・ 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



- ・ 浅い角度での駐車

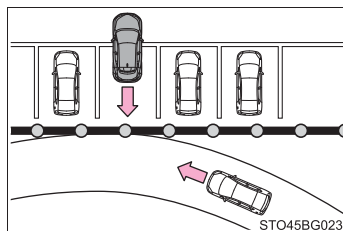


- ・ RCTA 機能を ON にした直後
- ・ RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
- ・ 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ 自車の横を通過する車両
- ・ 駐車場に面した道を走行する車両

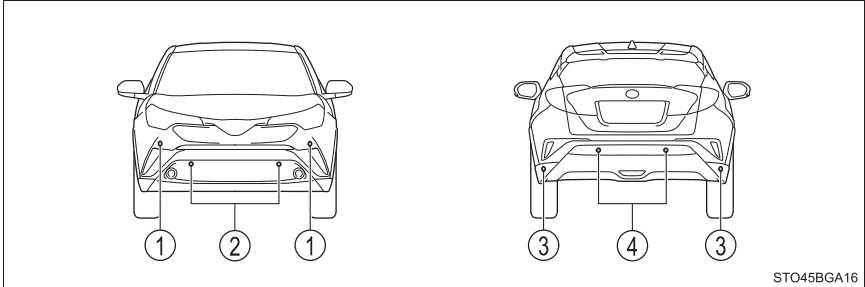


- ・ 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類



① フロントコーナーセンサー

② フロントセンサー




③ リヤコーナーセンサー

④ バックセンサー

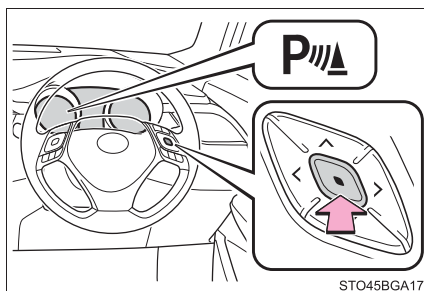
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイでクリアランスソナーのON(作動) / OFF(非作動)を変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの“^”または“v”を押して  を選択する
- 3 メーター操作スイッチの  を押して ON(作動) / OFF(非作動)を変更する

ON(作動)を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

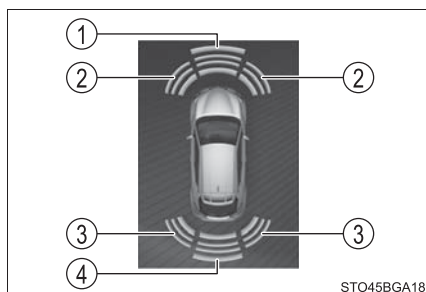


OFF(非作動)に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  画面から ON(作動)に切りかえないとシステムは復帰しません。(パワースイッチの操作では復帰しません)

クリアランスソナーの表示のしかた

センサーが障害物を感知すると、障害物の位置と距離をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- ① フロントセンサー作動表示
- ② フロントコーナーセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ バックセンサー作動表示



距離表示の見方

障害物を感知したときに、障害物とのおおよその距離を表示するとともに、ブザーでお知らせします。

ブザーの音量を変更することができます。(→ P. 435)

■ フロント・リアコーナーセンサー

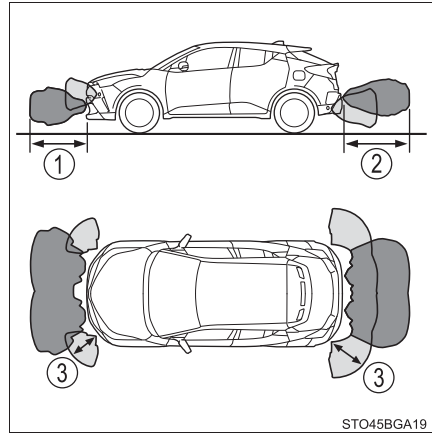
障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示	ブザー
約 50cm ~ 37.5cm		断続音
約 37.5cm ~ 25cm		早い断続音
約 25cm 以内		連続音

■ フロント・バックセンサー

障害物までのおおよその距離	マルチインフォメーションディスプレイ表示	ブザー
フロント：約 100cm ~ 55cm バック：約 150cm ~ 55cm		遅い断続音
約 55cm ~ 42.5cm		断続音
約 42.5cm ~ 30cm		早い断続音
約 30cm 以内		連続音

障害物を感知できる範囲

- ① 約 100cm (約 1.0m)
- ② 約 150cm (約 1.5m)
- ③ 約 50cm (約 0.5m)
 - ・ 感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。
 - ・ 障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

- フロントコーナーセンサー／フロントセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー／バックセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
 - ・ シフトポジションを R から N にしたとき

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、表示やブザーが出る前に障害物に近付きすぎると、表示が出なかったり、ブザーが鳴らない場合があります。
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

 **警告**

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けないでください

 **警告****■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
 - センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
 - センサーを手などで覆ったとき
 - 炎天下や寒冷時
 - 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
 - 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
 - どしゃぶりの雨や水しびきがかかったとき
 - 冠水している道路でセンサーに水が被ったとき
 - 車両姿勢が大きく傾いたとき
 - 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
 - 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
 - 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
 - バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
 - センサーに障害物が近付きすぎたとき
 - バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
 - トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
 - 自車付近にクリアランスソナーを装備している別の車両があるとき
 - けん引フックを取り付けたとき
 - 字光式ナンバープレート・ナンバープレートホルダーなどを取り付けたとき
- 上記に加えて障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

 **警告****■ 正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 **注意****■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を感知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナー・バックセンサーの作動表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

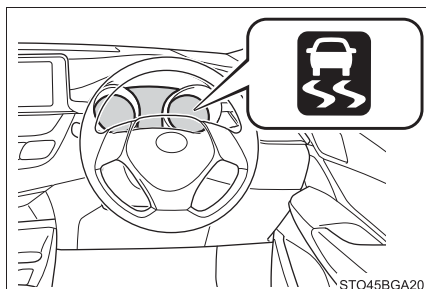
上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。


TRC・VSC・ABS が作動しているとき


TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。




TRC を停止するには

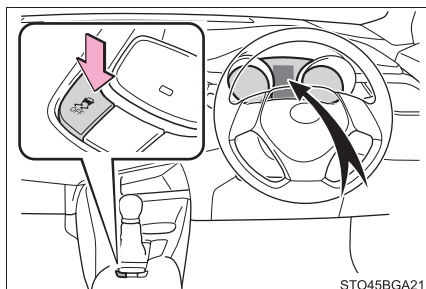
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す


マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。




知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。*

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

* プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→ P. 374)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後 1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

→ P. 377

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

 **警告****■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 **警告****■ タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 430）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコモードの利用

エコモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、燃費向上につながります。(→ P. 232)

◆ ハイブリッドシステムインジケータの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータの表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 85)

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行きましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON / OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんばんに行われることとなりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ(4輪)やタイヤチェーン(前2輪)*を使用してください。タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。(タイヤについて：→ P. 325)

* 18インチタイヤ装着車を除く

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。

輪止めをししないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P. 165)

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

- 18 インチタイヤはタイヤとボデーの間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。
- 18 インチタイヤ以外のタイヤを装着している場合：取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。
 - ・ 安全に作業できる場所で行う
 - ・ 前2輪に取り付ける
 - ・ タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
 - ・ 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレード★について

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコンの使い方**

オートエアコン	266
シートヒーター	274

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	276
・インテリアランプ	277
・パーソナルランプ	277

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	279
・グローブボックス	280
・コンソールボックス	280
・ボトルホルダー	281
・カップホルダー	282
ラゲージルーム内装備	283

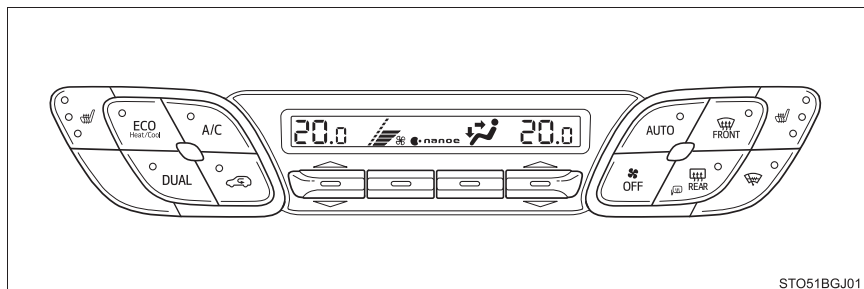
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	290
・サンバイザー	290
・パニティミラー	290
・時計	291
・アクセサリーソケット	292
・アシストグリップ	293
・ステアリングスイッチ	293
アクセサリーコンセント	294
非常時給電システム	301

オートエアコン


設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

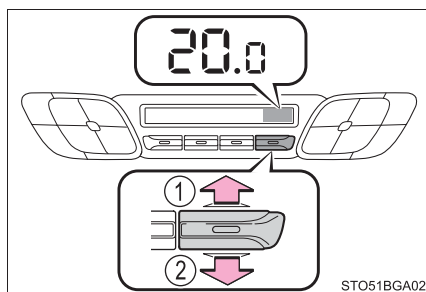
エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する


- ① 温度を上げる
- ② 温度を下げる

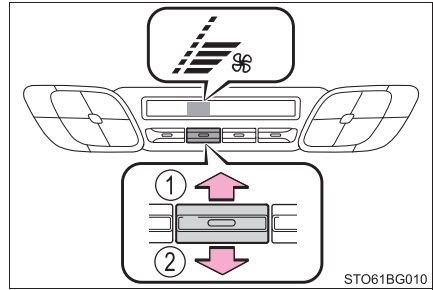
 のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。



■ 風量を切りかえる

- ① 風量を増やす
- ② 風量を減らす

ファンを止めるときは  を押す

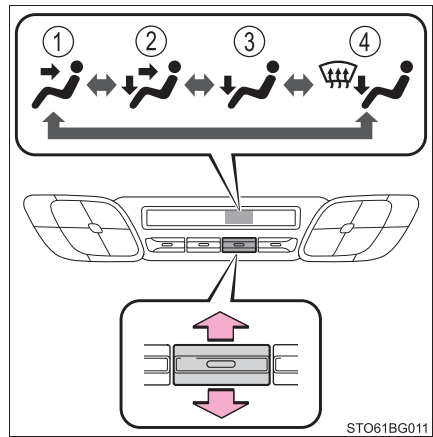


■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえノブを上げる、または下げる

操作するたびに吹き出し口が切りかわります。


- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る




オート設定で使用する

1  を押す

2 温度を設定する

3  を押す

押すたびにエアコンの ON / OFF が切りかわります。


4 ファンをとめたいときは、 を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

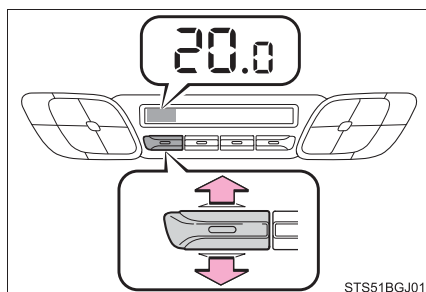
風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

●  を押す


● 助手席の設定温度を変更する
左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。



その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには




を押すごとに外気導入・内気循環が切りかわり、外気導入の場合は表示灯が消灯し、内気循環の場合は表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りをとるには



除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。



リヤウインドウデフォグガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ ウィンドシールドデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。




ウィンドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ エコ空調モードを使用する



燃費性能を優先した作動に切りかわります。(→ P. 271)

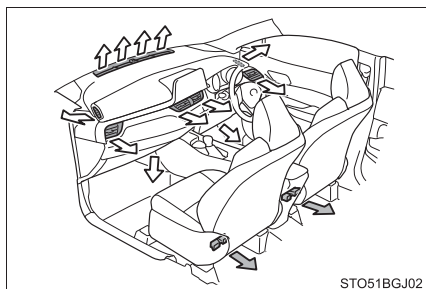
再度  を押しと、エコ空調モードは解除されます。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

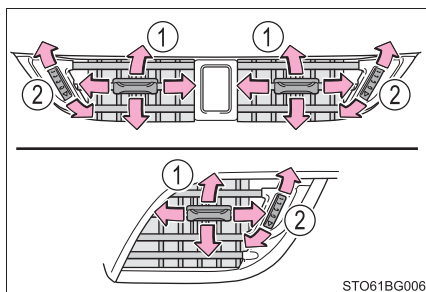
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。(→ P. 267)

← : 仕様により設定の有無あり



■ 風向き調整と吹き出し口の開閉


- ① 風向き調整
- ② 吹き出し口の開閉




★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコ空調モードのエアコン作動について

● エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

● 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- ・ 風量を調整する
- ・ 温度を調整する
- ・ エコ空調モードを解除する

● 走行モードがエコモードのときでも  を押すと、エコ空調モードを解除することができます。

■ 外気温度が0℃近くまで下がったとき

 を押しても除湿機能が作動しない場合があります。

■「ナノイー」※¹について★

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は助手席側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。
- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または  のとき

・助手席側の吹き出し口が開いているとき

- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 「ナノイー」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
 - ・「ナノイー」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
 - ・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※¹ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※² 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は自動的に外気導入になります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて


→ P. 331

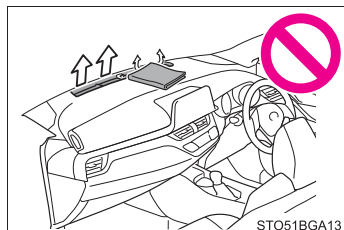
■設定可能な機能

エアコンの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■リアウインドウデフォグガー&ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★
作動中の警告**

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意**■補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステム停止中 (READY インジケーターが点灯していないとき) は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

助手席側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に動かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

フロントシートをあたためることができます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリットシステムが停止した状態で使用しないでください。

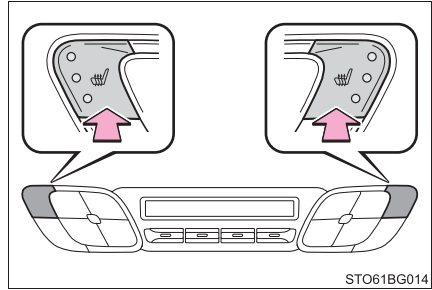
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作のしかた

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3個点灯）→中（2個点灯）→
弱（1個点灯）→OFF

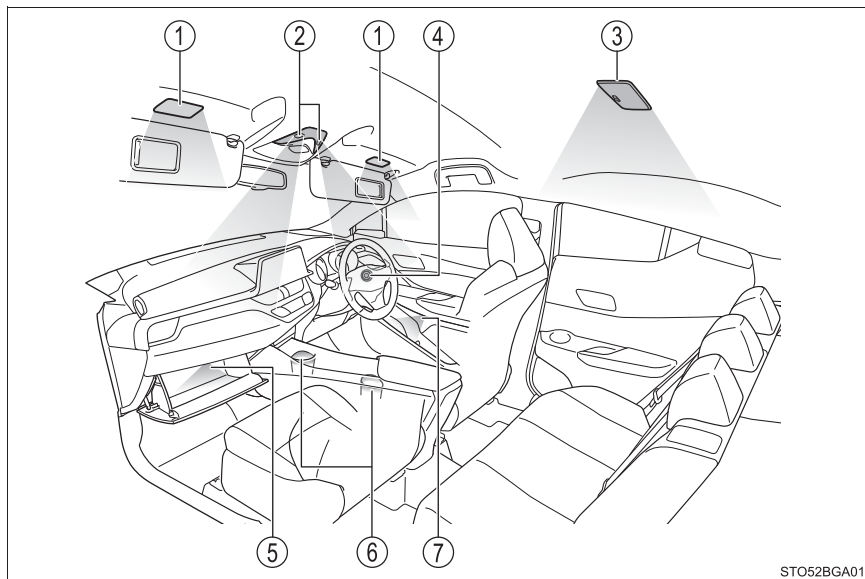
作動中は、レベルインジケータ（橙色）が点灯します。



知識

パワースイッチが ON モードのときに使用できます。

室内灯一覧



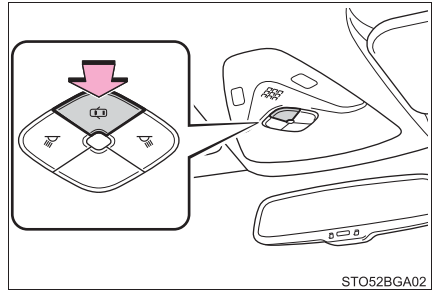
- ① バニティミラーランプ★ (→ P. 290)
- ② フロントインテリアランプ/パーソナルランプ (→ P. 277)
- ③ リヤインテリアランプ (→ P. 277)
- ④ パワースイッチ照明
- ⑤ グローブボックスランプ (→ P. 280)
- ⑥ カップホルダー照明★
- ⑦ ドアトリム照明★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプ

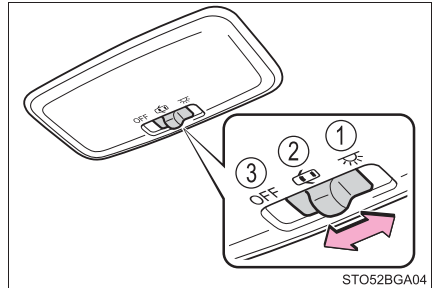
■ フロント

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



■ リヤ

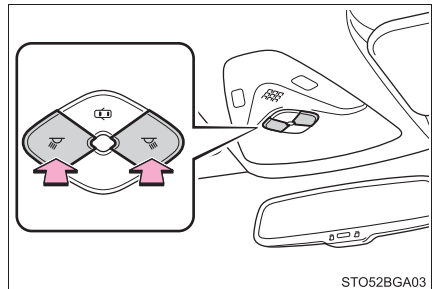
- ① ランプを点灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）※
※ フロントインテリアランプメインスイッチに連動して作動し、スイッチ状態が OFF のときはランプが点灯しません。
- ③ ランプを消灯する



パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する

ドア連動スイッチによって点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



 知識**■ イルミネーテッドエントリーシステム**

インテリアランプスイッチのドアポジションが ON のとき、電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、パワースイッチのモードにより、インテリアランプとパワースイッチ照明が自動的に点灯、消灯します。

■ ドアミラーイルミネーション★

電子キーの検知やドアの解錠により、ドアミラーイルミネーションが自動的に点灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

以下のランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

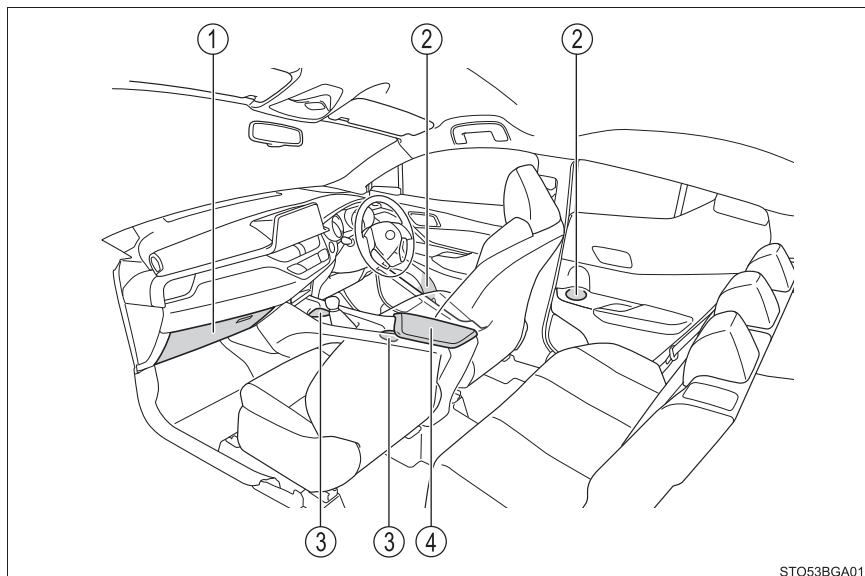
- フロントインテリアランプ／パーソナルランプ
- リヤインテリアランプ
- ラゲージルームランプ
- バニティミラーランプ★

■ 販売店で設定可能な機能

- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 431)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



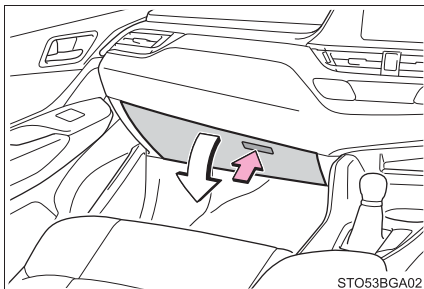
- ① グローブボックス(→ P. 280) ③ カップホルダー (→ P. 282)
 ② ボトルホルダー (→ P. 281) ④ コンソールボックス
 (→ P. 280)

⚠ 警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 運転中や収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。また、トレイに転がりやすいものを置かないでください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

ボタンを押して開ける

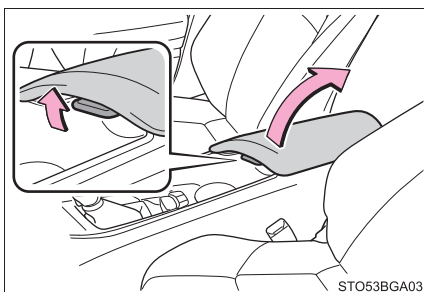


知識

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックス

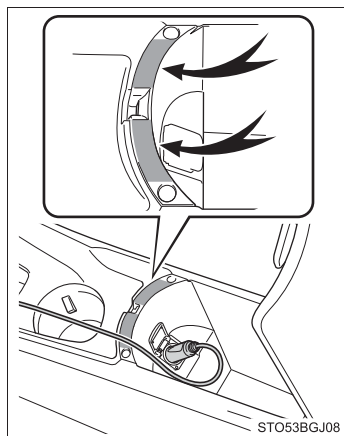
レバーを引いてフタを持ち上げる



知識

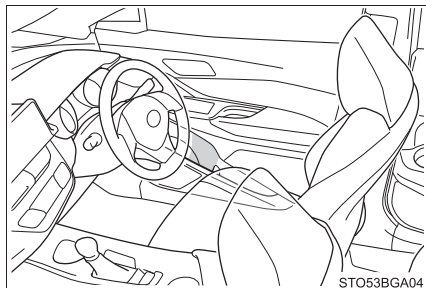
フタを閉めるときは、電気製品の配線を図に示した位置を通してください。

フタを閉めたあとは、フタと電気製品の配線が干渉していないか確認してください。

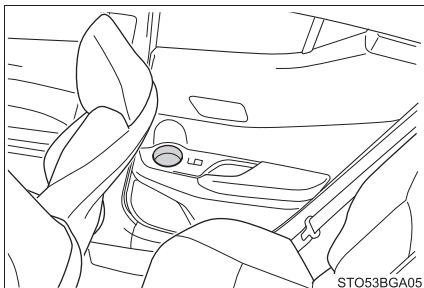


ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



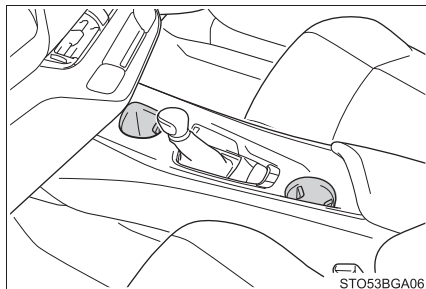
知識

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意

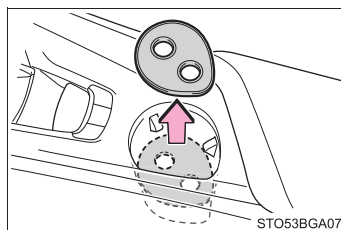
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カップホルダー



知識

うしろ側のカップホルダーは、仕切りをひっくり返したり、取りはずして深さを変えることができます。



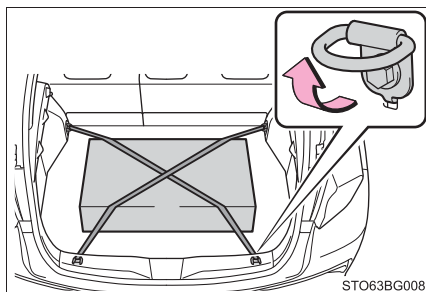
警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - ・ 温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。
 - ・ 使用するときは内部のサポートに支えられていることを確認してください。
 - ・ カップの高さがアームレストの高さを超えないようにしてください。
 - ・ 仕切りはうしろ側のカップホルダー専用のため、前側のカップホルダーで使用しないでください。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

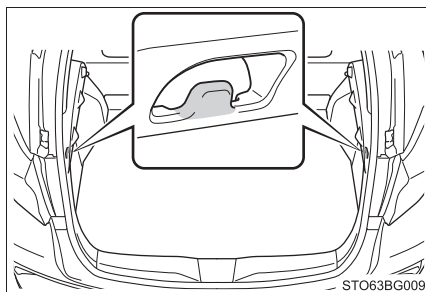
フックを使って荷物を固定することができます。



警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしてください。

買い物フック

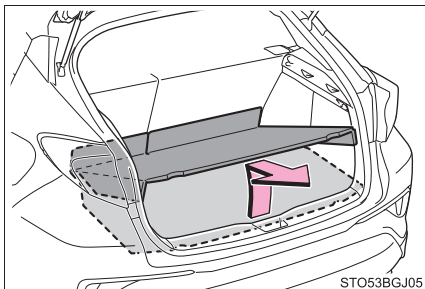


注意

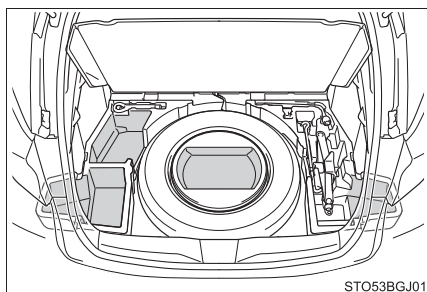
2kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

ラゲージアンダートレイ

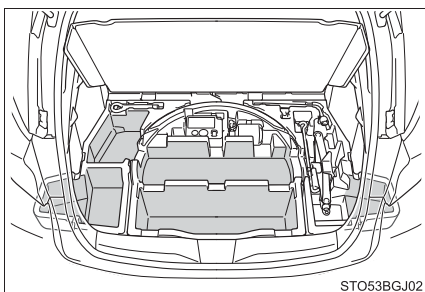
デッキボードを持ち上げて取りはずす



▶ Aタイプ



▶ Bタイプ

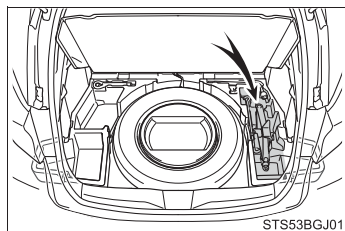


知識

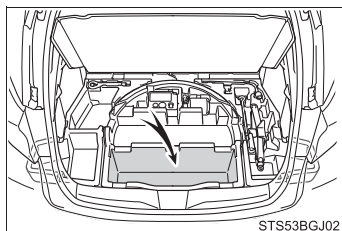
■ 停止表示板収納について

ラゲージアンダートレイに、停止表示板を収納することができます。ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ Aタイプ

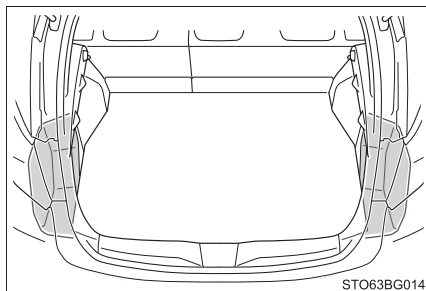


▶ Bタイプ



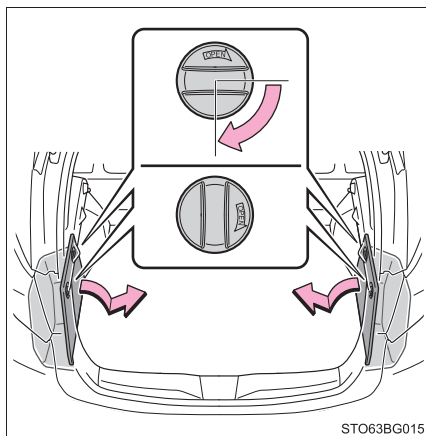
ラゲージサイドトレイ

▶ フタなしタイプ



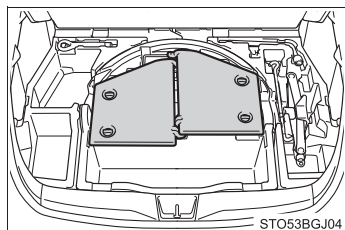
▶ フタありタイプ

ノブを回してフタを開ける



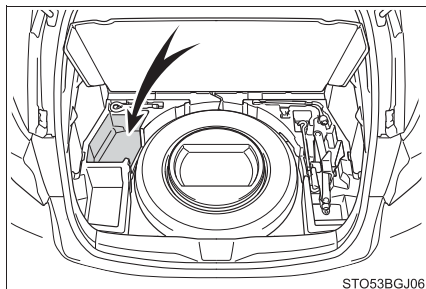
知識

タイヤパンク応急修理キット装着車：
フタを収納することができます

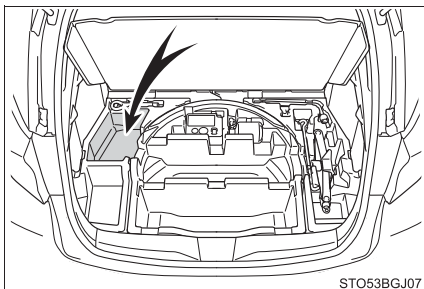


救急箱収納スペース

▶ Aタイプ



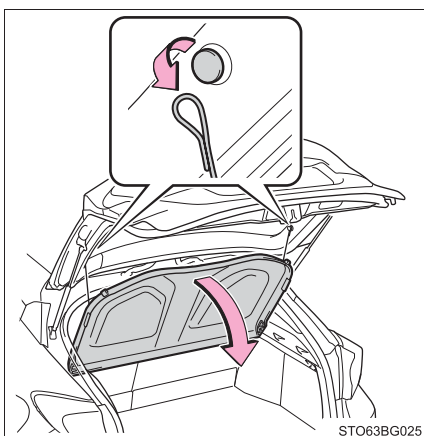
▶ Bタイプ



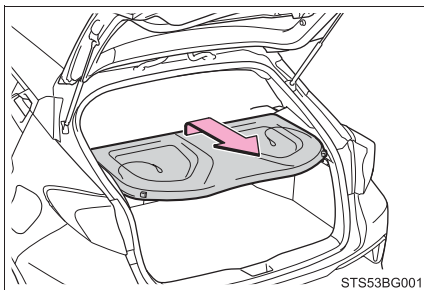
ラゲージカバーの取りはずし／取り付け

▶ 標準タイプ

- 1 止めヒモをはずしてカバーを水平にする



- 2 カバーを上を持ち上げてから手前に引いて取りはずす
取り付けるときは、しっかり固定されていることを確認してください。

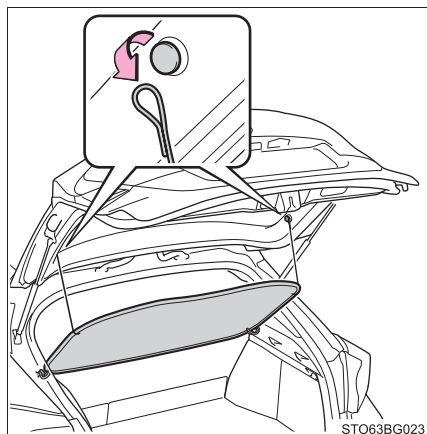


- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

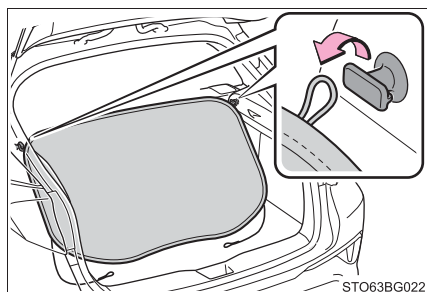
▶ 軽量タイプ

■ 取りはずし方法

1 手前側の止めヒモをはずす

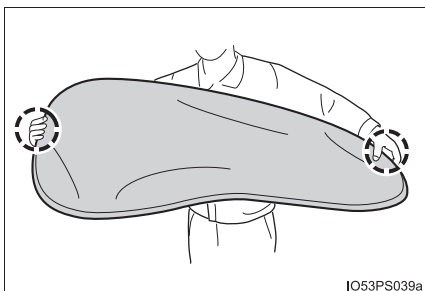


2 奥側の止めヒモをはずす

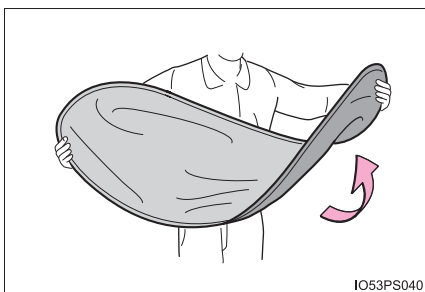


■ 収納方法

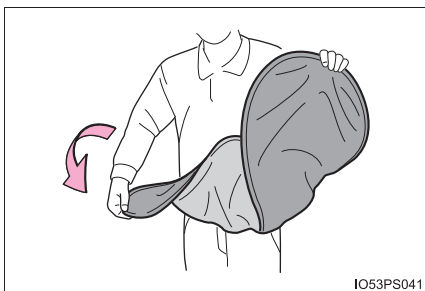
- 1 ラゲージカバーを両手で持つ。持つときにそれぞれの親指を反対方向に向ける。



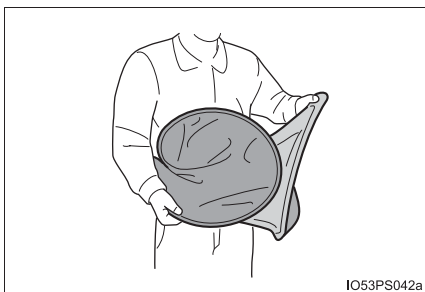
- 2 カバーの片方を手前に曲げる



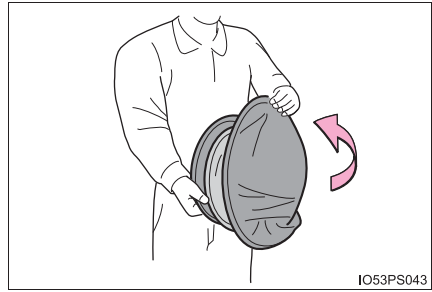
- 3 図のようにもう一方を反対側にねじる



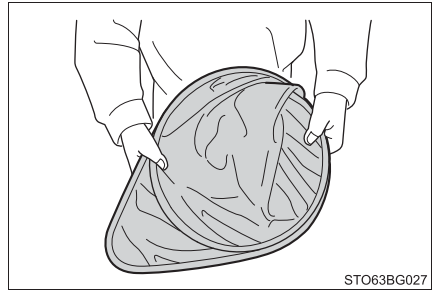
- 4 円を作るようにしてねじりながら内側に折りたたむ



- 5 円が 3 つ並ぶように折りたたんでいく



- 6 正しく折りたたまれていることを確認する



警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- カバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないようにしてください。カバーが破損し、荷物が損傷するおそれがあります。
- カバーを操作するときは、カバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟むおそれがあります。
- 軽量タイプ装着車：正しく止めヒモを付けてください。カバーがはずれて飛んでくるおそれがあります。
- 軽量タイプ装着車：カバーは正しく折りたたんでください。急に広がるおそれがあります。

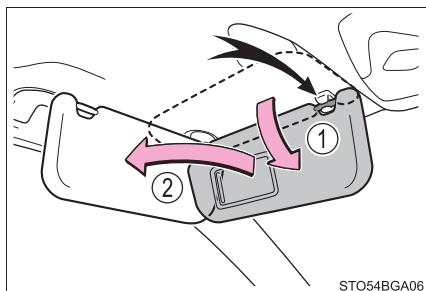
注意

軽量タイプ装着車：カバーを折りたたむときには過度な力を加えないようにしてください。カバーが損傷する可能性があります。

その他の室内装備

サンバイザー

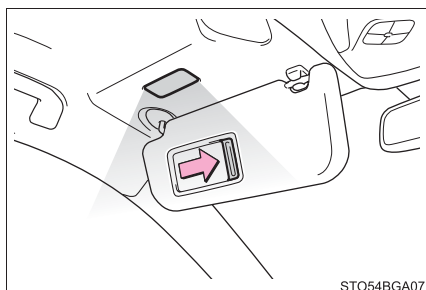
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

バニティランプ装着車：カバーを開けるとランプが点灯します。

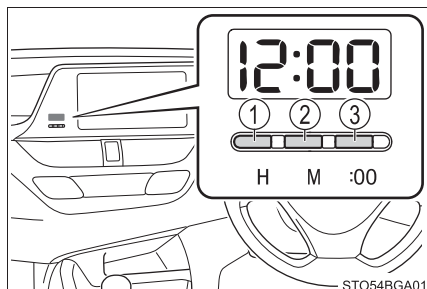


時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する
- ③ “分” を 00 にする ※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



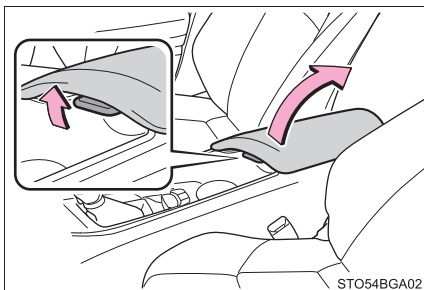
知識

- パワースイッチがアクセサリまたは ON モードのときに、時刻が表示されません。
- 補機バッテリー端子の脱着をしたときに、時計は自動的に 1:00 にセットされます。

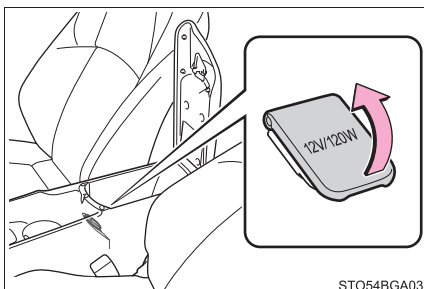
アクセサリースOCKET

DC12V / 10A (消費電力 120W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

- 1 レバーを引いてフタを持ち上げる



- 2 フタを開ける



知識

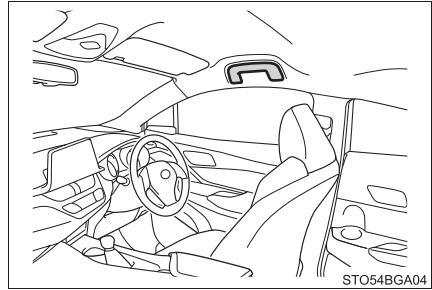
パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときに、使用することができます。

注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

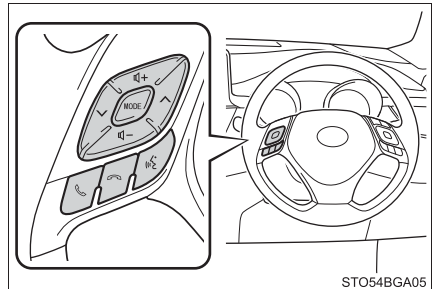
⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



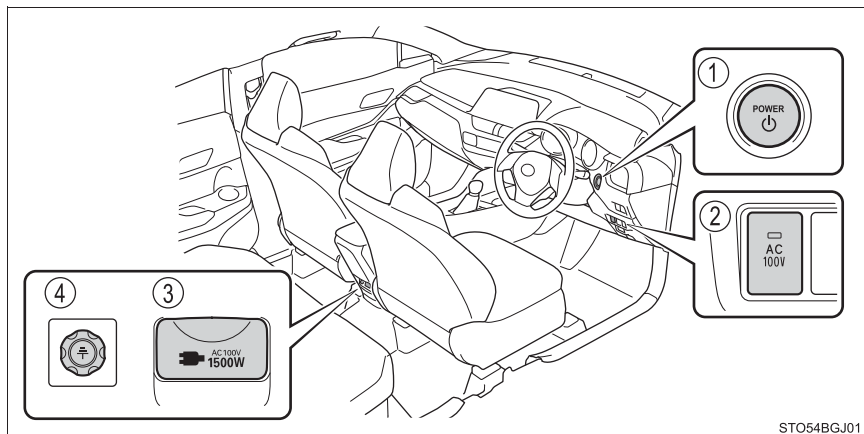
⚠ 警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

アクセサリコンセント★

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

◆ 各部の名称



- ① パワースイッチ (→ P. 150)
- ② AC100V スイッチ
- ③ 室内コンセント (コンソールボックス後方)
- ④ アース端子

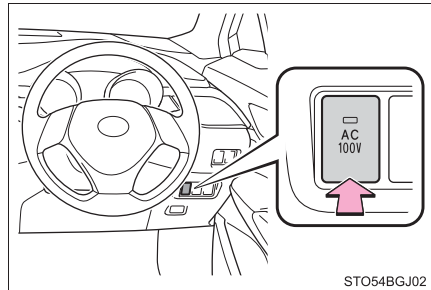
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す (→ P. 150)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100Vスイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

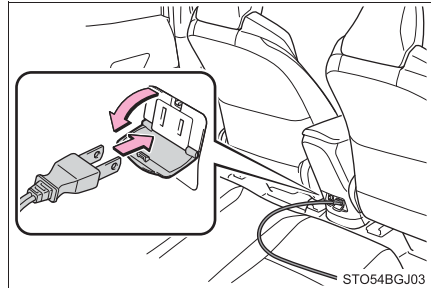
AC100V スイッチを押すたびにコンセントのON/OFFが切りかわります。



電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。



コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

 知識

■ 使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。電気製品を使用するときは、すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力合計を1500W以下にしてください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえるときがあります。
この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■ コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 94）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して、駆動用電池を温めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・ACアダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差ししたりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- お子さまにコンセントをさわらせしないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ 駐車中または停車中に使用するとき**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをPにしていることを確認してください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 38）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→ P. 301）

■ 接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- 医療機器
車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

 **注意**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしてください。

■ 特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

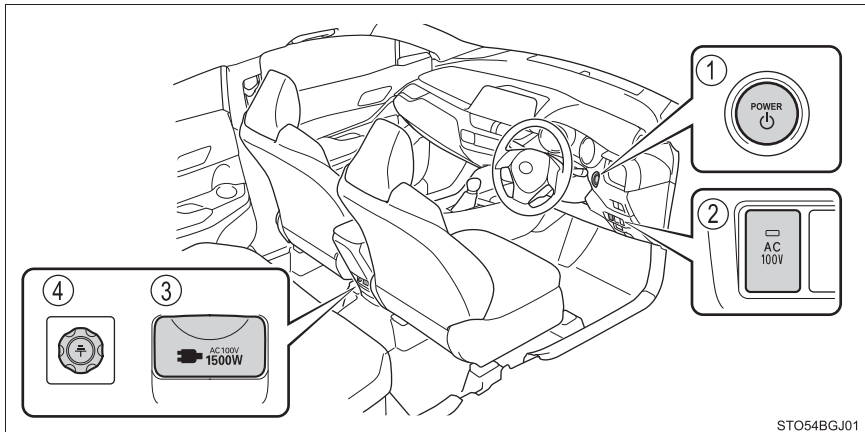
■ 特に外気温が低いとき

特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して、駆動用電池をあたためてから使用してください。

非常時給電システム★

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

◆ 各部の名称



- ① パワースイッチ (→ P. 150)
- ② AC100V スイッチ
- ③ 室内コンセント (コンソールボックス後方)
- ④ アース端子

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

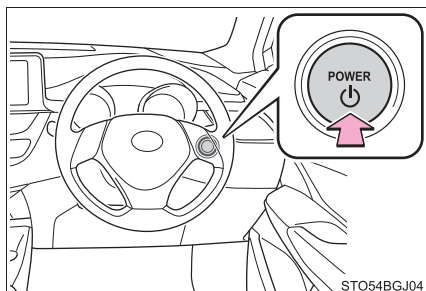
- パーキングブレーキがかかっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること
輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- 盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること

非常時給電システムを起動するとき

- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON モードにする

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押すと、非常時給電システムは使用できません。

ON モードにしたあとは、シフトレバーを操作しないでください。シフトレバーが P の位置にないと、非常時給電システムを使用できません。



- 2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100Vスイッチを3回連続で押す

READY インジケーター、AC100Vスイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100Vスイッチを押す間隔が1秒以上あいた場合、READY インジケーターが点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないうちがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100Vスイッチを4回以上連続で押した場合、作動表示灯が点灯しない場合があります。

その場合は再度、AC100Vスイッチを押すと作動表示灯が点灯します。

起動が完了する前に運転席ドアの開または閉操作をした場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

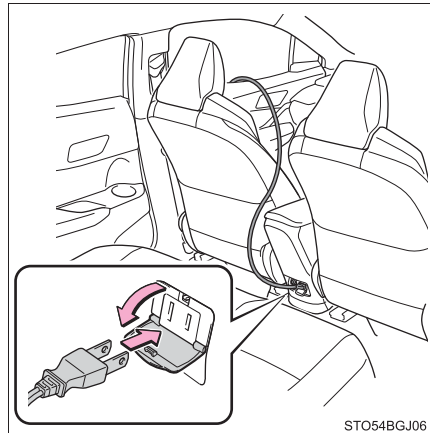
- 3 非常時給電システムを起動後、エアコンをONにする (→ P. 266)

電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

電気製品の接続されていることがわかるように助手席の窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

ただし、アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。



窓ガラスを上昇させるときはパワーウィンドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないように隙間を確保してください。(→ P. 132)

一時的に給電を停止するとき

- AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON / OFF が切りかわります。このとき、非常時給電モードは継続します。
- AC100V スイッチ上の作動表示灯の点灯状態により、コンセントの ON / OFF を確認できます。

非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める
- 5 パワースイッチを OFF にする

知識

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■非常時給電システムについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。電気製品を使用するときは、すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力合計を1500W以下にしてください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえるときがあります。
この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- 長時間給電直後には、動力性能や燃費などが一時的に悪化することがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

●コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- ・電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が1500W以下になっているかを確認し、再度AC100Vスイッチを押してください。
 - ・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度AC100Vスイッチを押してください。
 - ・駆動用電池の残量を確認してください。(→P. 94) 残量が少ない場合は、駆動用電池の残量を回復させ、再度AC100Vスイッチを押してください。
 - ・車内が高温になると、給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。
その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。
 - ・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100Vスイッチを押してください。
 - ・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して、駆動用電池をあたためてから使用してください。
- READYインジケータが点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされていない場合、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
- 起動が完了する前に運転席ドアの開または閉操作をした場合、非常時給電モード起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。
- マルチインフォメーションディスプレイに下記のメッセージが表示されたとき
- ・「燃料の残量低下により給電停止しました」
燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を給油後、再度非常時給電モードを起動することが可能になります。ガソリンスタンドで給油することをおすすめします。
 - ・「シフトポジション切りかえにより給電停止しました」
シフトレバーをP以外にしたため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
- 以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

- 車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

- シフトレバーを P 以外にすることはできません。
- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- 電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキーのみでドアの施錠・解錠ができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に該当する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、給油や洗車は行わないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- お子さまにコンセントをさわらせないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告**

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 38）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

■ 接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- 医療機器
車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

 **注意**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかっていると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線はしないでください。

■ 非常時給電システムの使用中

- エアコンを使用してください。
- 長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

■ 特に外気温が高いとき

- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100Vスイッチを押してください。
- 給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げるができます。

■ 特に外気温が低いとき

- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して、駆動用電池をあたためてから使用してください。
- 排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して15分から30分ほど走行してください。

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	312
内装の手入れ.....	317

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	320
ガレージジャッキ	322
ウォッシャー液の補充	323
タイヤについて	325
タイヤ空気圧について	329
エアコンフィルターの 交換	331
駆動用電池冷却用吸入口	334
ワイパーゴムの交換	339
電子キーの電池交換	344
ヒューズの点検、交換	346
電球（バルブ）の交換	349

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うとき

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ 洗車などで水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する(電子キーの盗難に注意してください)
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する (→ P. 115)

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

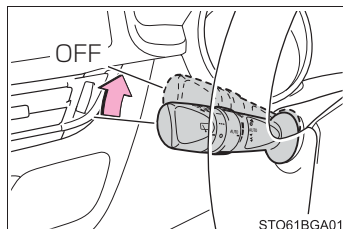
警告**■ 洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

**● 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき**

- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

 **注意****■ 自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

● バックカメラ装着車：洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

● ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

● モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

● 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識**■ 本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 **警告****■ 車の故障や車両火災を防ぐために**

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 67)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- 車内で可燃性のスプレー（洗浄剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→ P. 30)
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→ P. 194)

■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するとき

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

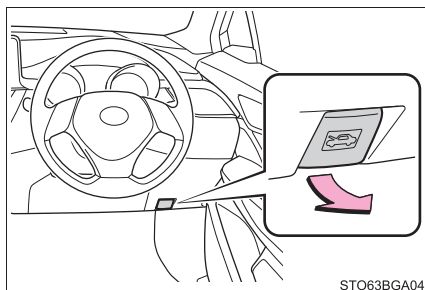
■ 吸入口／フィルターの手入れをするとき

水や液体などで吸入口／フィルターを清掃しない。

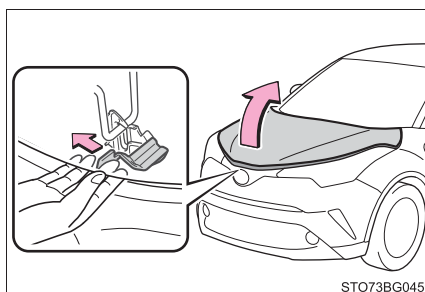
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

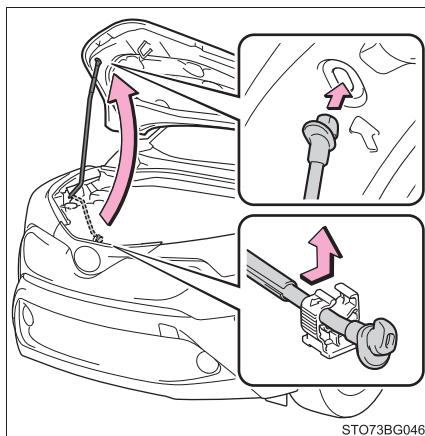
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左方向に押し、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



 **警告****■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットを開けるとき

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

 **注意****■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

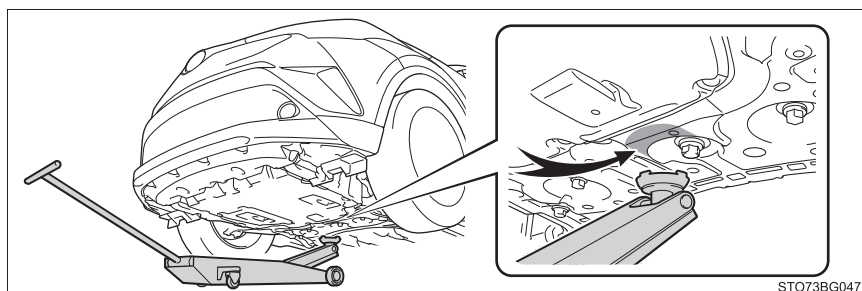
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

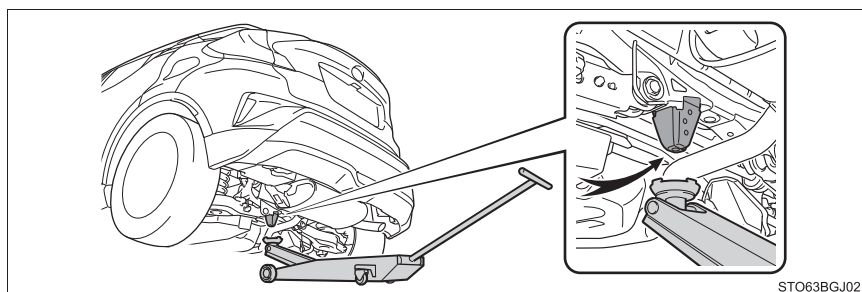
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側

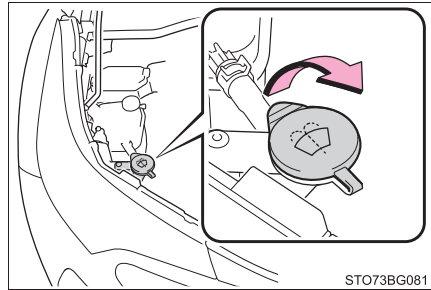


ウォッシャー液の補充

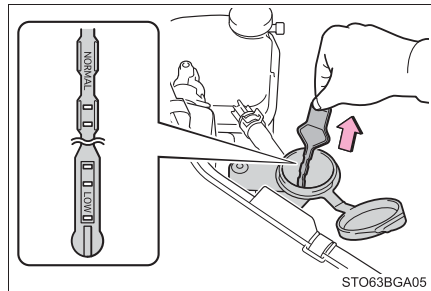
補充のしかた

次のような場合、ウォッシャー液を補給してください。

- ワイパースイッチを操作してもウォッシャー液が出ないとき
- マルチインフォメーションに警告メッセージが表示されたとき（寒冷地仕様車のみ）



- ゲージでの点検の際、液面がLOWの位置に近付いていたとき（ゲージ装着車）

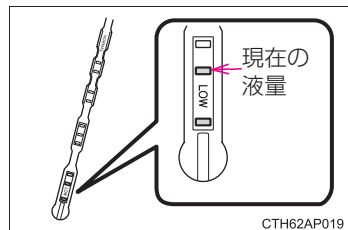


知識

■ ゲージの使い方（ゲージ装着車）

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



 **警告****■ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあります。

 **注意****■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

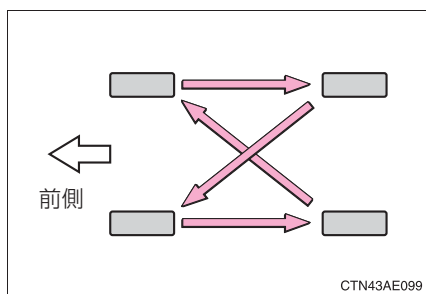
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

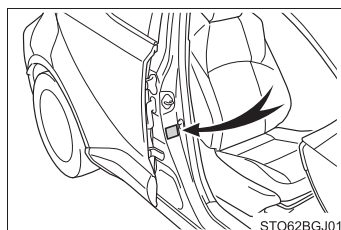
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	前輪	後輪
17 インチ	230kPa (2.3 kg/cm ²)※	230kPa (2.3 kg/cm ²)※
18 インチ	230kPa (2.3 kg/cm ²)※	230kPa (2.3 kg/cm ²)※
応急用タイヤ★	420kPa (4.2 kg/cm ²)※	

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

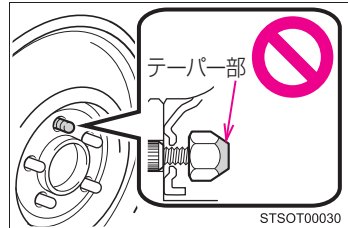
異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはすれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 430)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

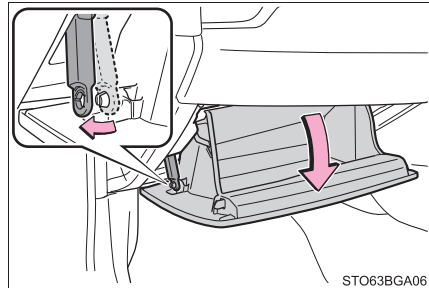
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

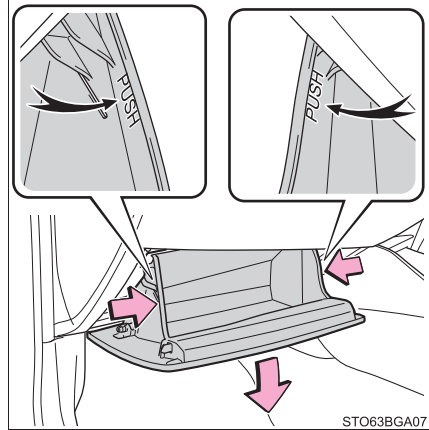
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはすす

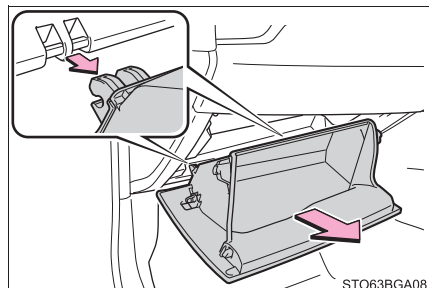


- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



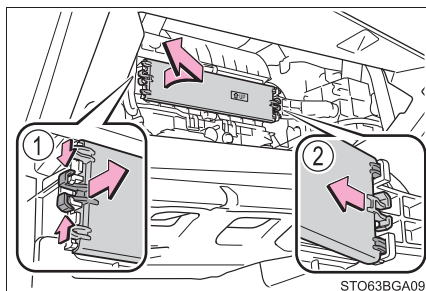
- 4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはすす

軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。

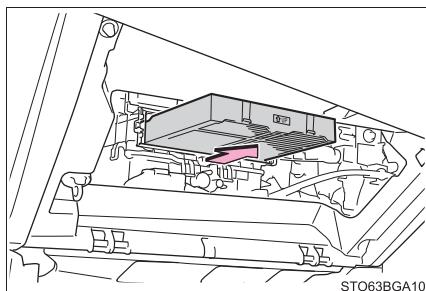


5 フィルターカバーを取りはずす

- ① つまみを押してフィルターカバーの固定を解除する
- ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

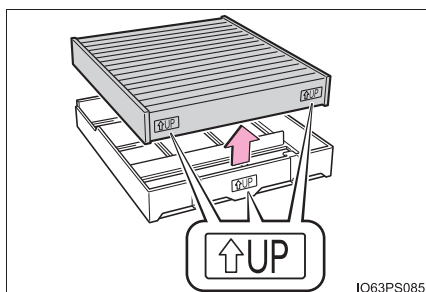


6 フィルターケースを取りはずす



7 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 **知識**

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。
15000km [7500km^{※1}] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{※2}

^{※1} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2} 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したとき

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 **注意****■ エアコンを使用するときの注意**

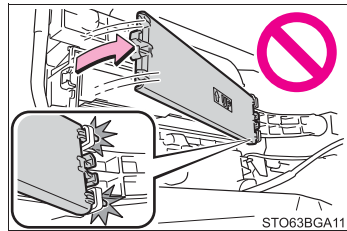
- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→ P. 331）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するとき、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



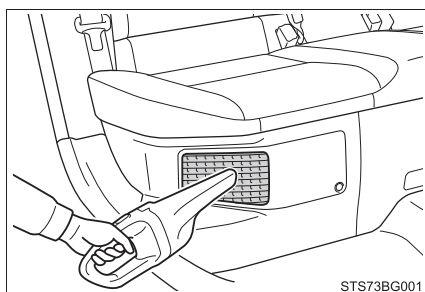
駆動用電池冷却用吸入口

燃費の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

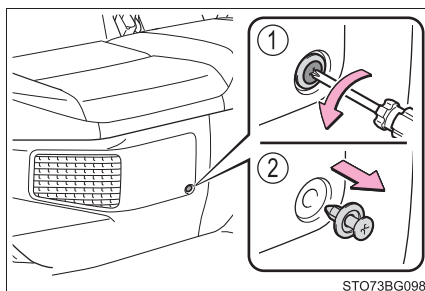
必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。
(→ P. 338)



ほこりを取り除ききれないときは

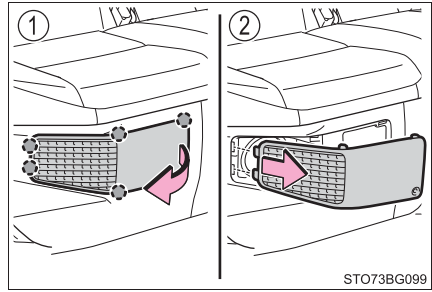
次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 プラスドライバーを使用してクリップを取りはずす

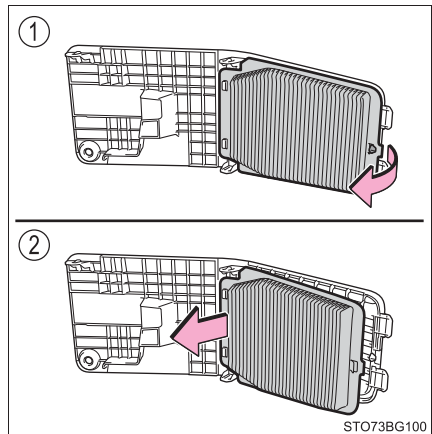


3 吸入口カバーを取りはずす

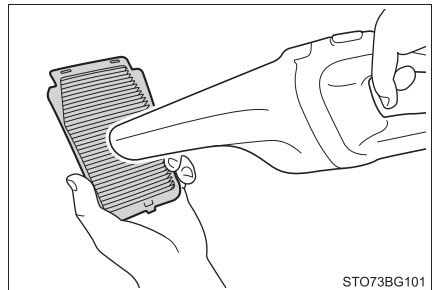
- ① 吸入口カバーを手前に引いて、
図で示す5ヶ所のツメを右端
からはずす
- ② 吸入口カバーを手前に引いて
取りはずす

**4** フィルターを取りはずす

- ① 図で示す1ヶ所のツメから
フィルターをはずす
- ② 吸入口カバーから残り2ヶ所
のツメを外してフィルターを
取りはずす

**5** 掃除機などでほこりを吸い込み、
フィルターを清掃する

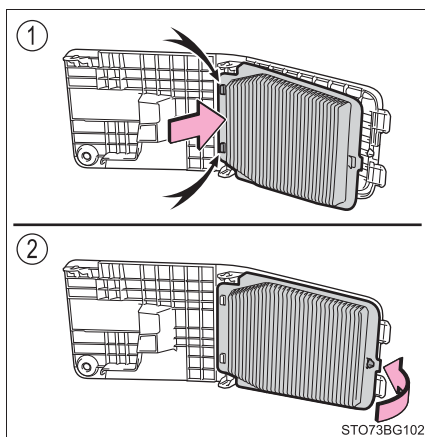
フィルターの清掃と併せて、吸入口カ
バーにたまったほこりも掃除機などで
清掃してください。



6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

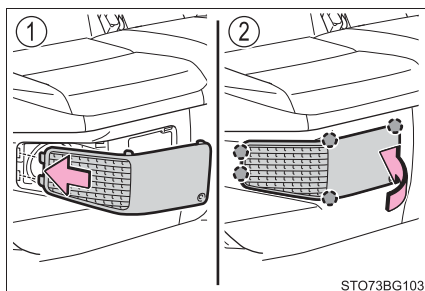
- ① 図で示す2カ所のツメにフィルターを引っかける
- ② 残り1カ所のツメにフィルターを取り付ける

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

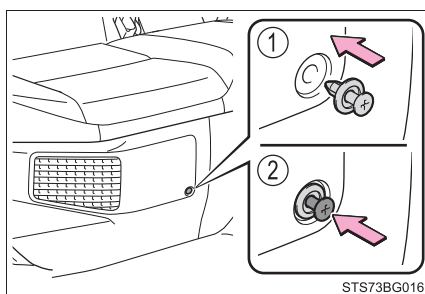


7 吸入口カバーを取り付ける

- ① 吸入口カバー左端のツメを差し込む
- ② 図で示す5ヶ所のツメを取り付け



8 クリップを取り付ける



 知識**■ 定期的な清掃が必要なとき**

お車の仕様頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

- 吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池が過熱するなどと、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費の悪化につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。
- 誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたときは

- 吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。(→ P. 334)
- 清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに数時間走行が必要な場合があります。フィルターを清掃しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 警告**■ 吸入口の清掃をするときは**

水やその他の液体で清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

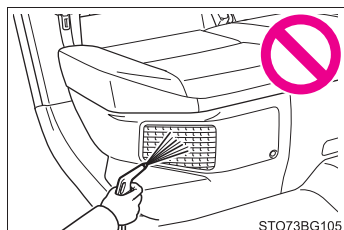
■ 吸入口カバーを取りはずすときは

吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。(→ P. 69)

 **注意****■ 吸入口の清掃をするときは**

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因になったりするおそれがあります。

**■ 車両の故障を防ぐために**

- 吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池が過熱するなどして、故障の原因になる場合があります。警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

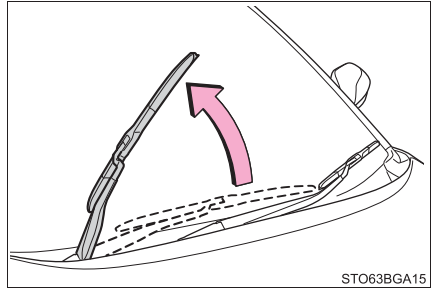
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

フロントワイパー

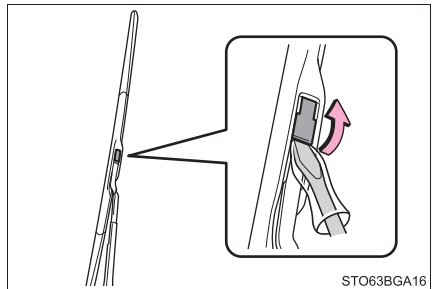
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす



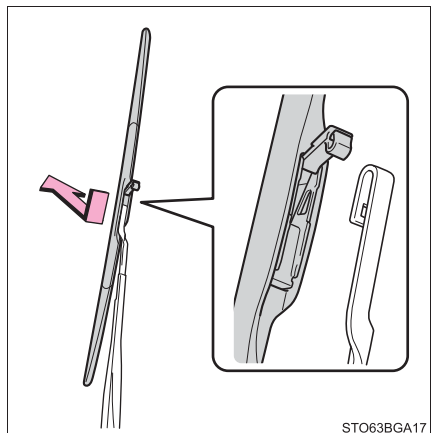
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



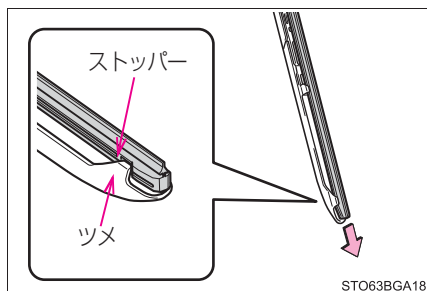
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



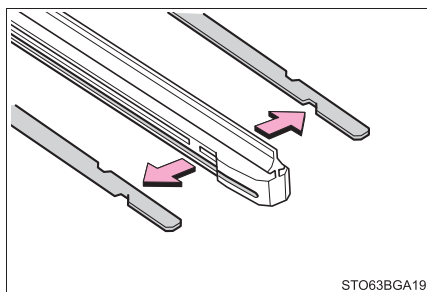
■ ワイパーゴムの交換

- 1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



- 2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

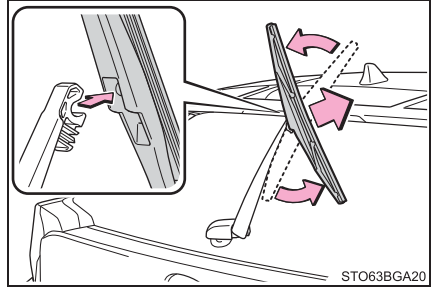
金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください



- 3 ストッパーがない側からワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する
- 4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

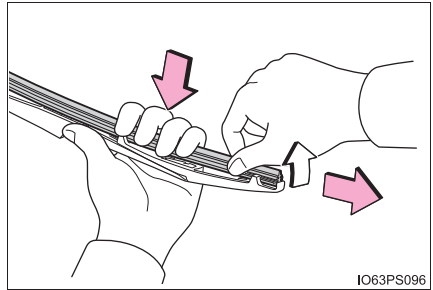
リヤワイパー

- 1 「カチッ」と音がしてツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを起し、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

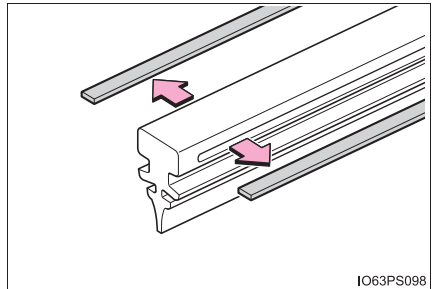


- 2 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。

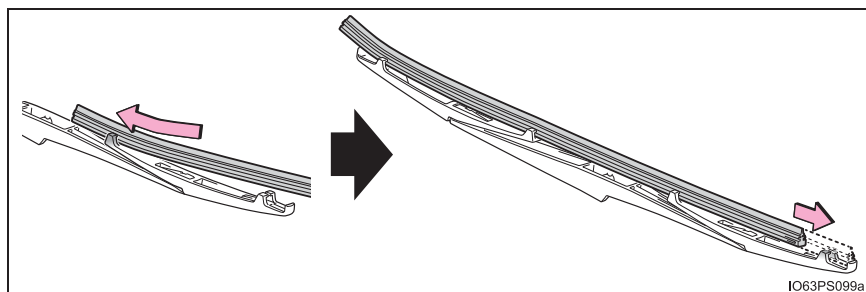


- 3 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



- 4 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通す

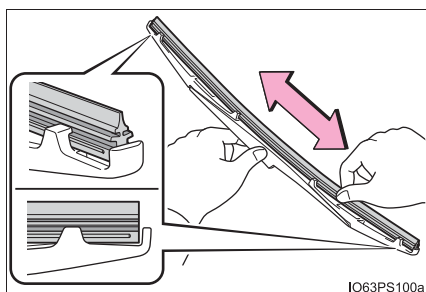
ワイパーゴムにウォッシュ液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



IO63PS099a

- 5 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

- ・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
- ・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



IO63PS100a

- 6 ワイパーブレードを取り付けるときは、**1**と逆の手順で取り付ける
ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

 知識■ **ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて**

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 **注意**■ **損傷を防ぐために**

- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。
- ワイパーブレードからワイパーアームを取りはずしたあとはウィンドウガラスが傷付かないように、ウィンドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

電子キーの電池交換

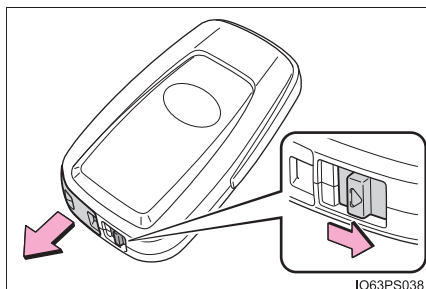
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

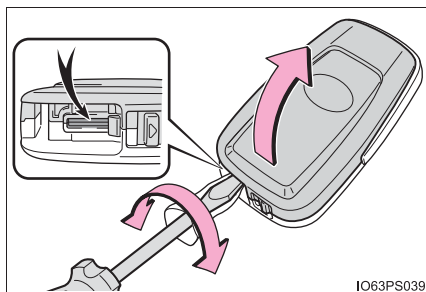
- 1 □ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 □カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

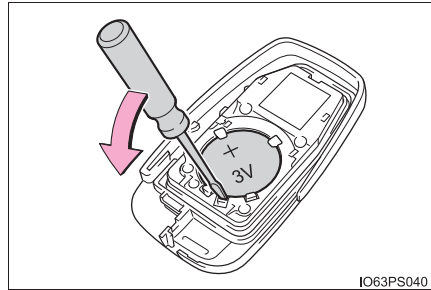


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



IO63PS040

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける**知識****■ リチウム電池 CR2032 の入手**

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告**■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■ 交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

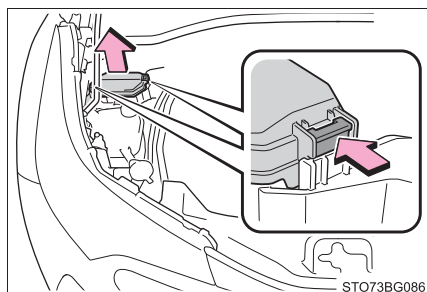
1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）

2ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

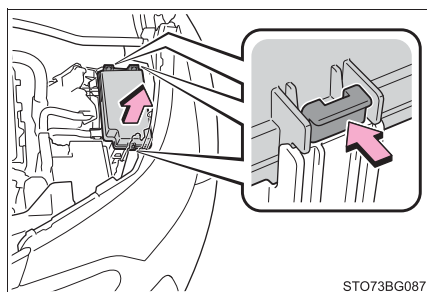
閉めるときは、2ヶ所のツメを確実に閉めてください。



▶ エンジンルーム（助手席側）

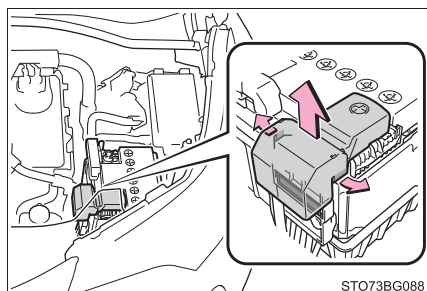
3ヶ所のツメを押しながら、カバーを持ち上げる

閉めるときは、3ヶ所のツメを確実に閉めてください。



▶ エンジンルーム（バッテリー上部）

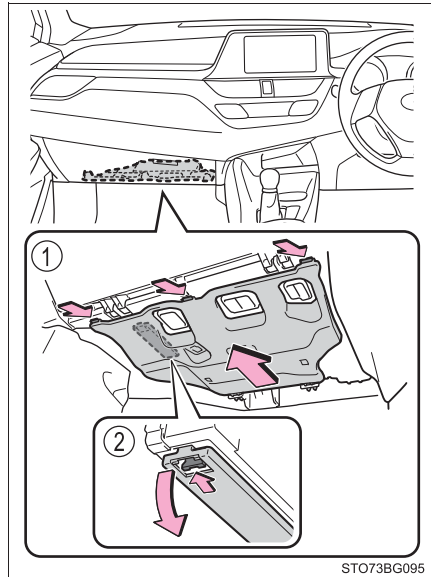
カバーを取り外す



▶ 助手席足元

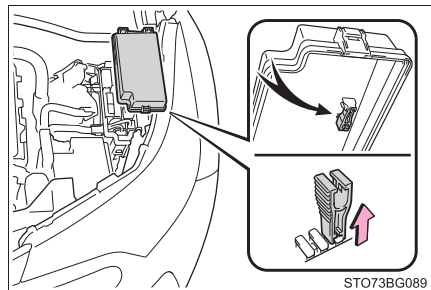
- ① ツメを押してロックをはずし、アンダーカバーを取りはずす
- ② ヒューズボックスカバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



3 ヒューズを引き抜く

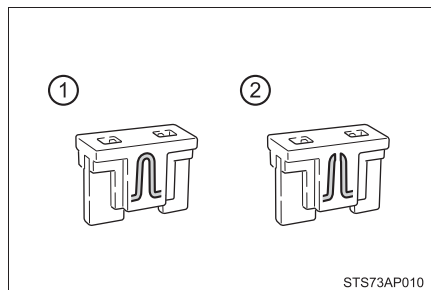
ヒューズははずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 349)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機/バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球 (バルブ) を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

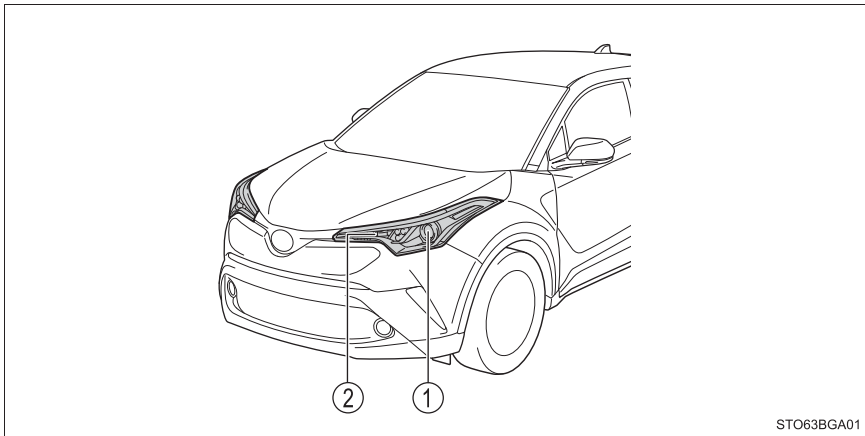
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→ P. 430）

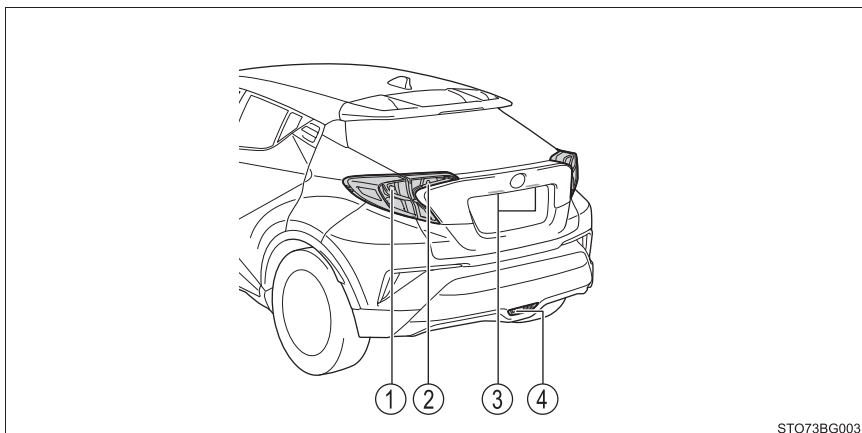
バルブ位置

■ フロント



- ① ヘッドランプ（ハロゲンバルブタイプ）
- ② フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

■ リヤ



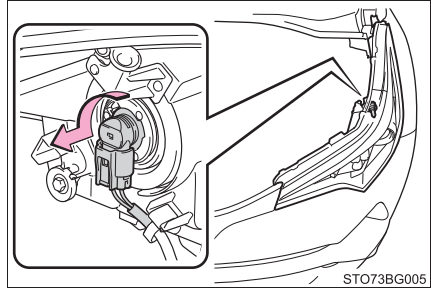
- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）
- ② 後退灯（バルブタイプ）
- ③ 番号灯
- ④ リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

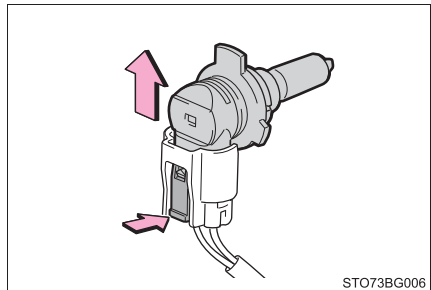
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ (ハロゲンバルブタイプ)

- 1 ソケットをまわして取りはずす

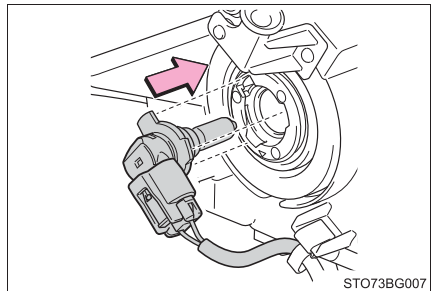


- 2 電球を取りはずす



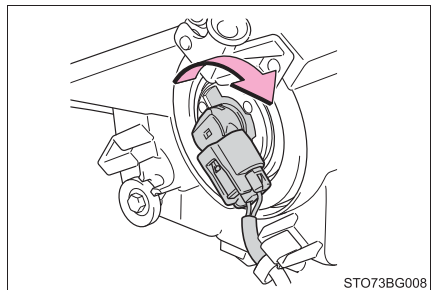
- 3 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ (3か所) を合わせて挿し込みます。



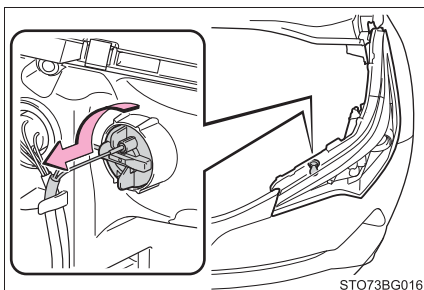
- 4 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれてないことを目視確認してください。

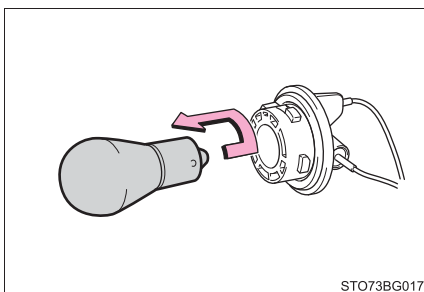


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

- 1 ソケットをまわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

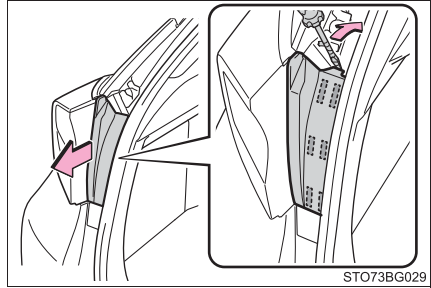


- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

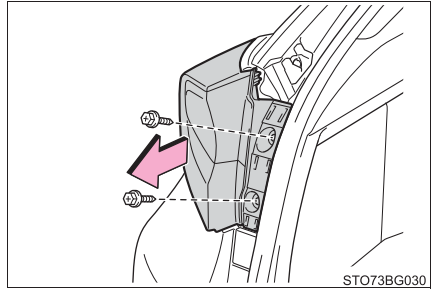
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

- 1 バックドアを開け、カバーをはずす

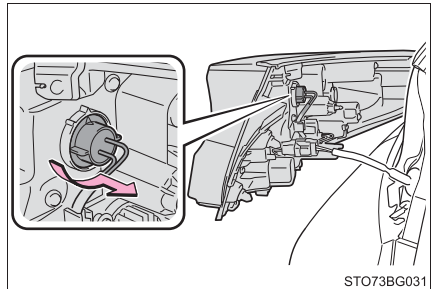
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



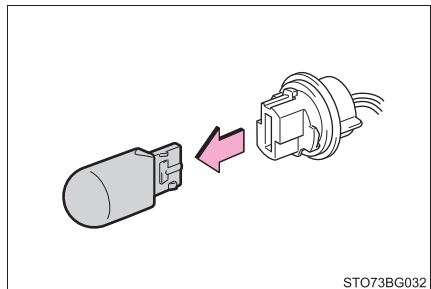
- 2 スクリュー（2本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす



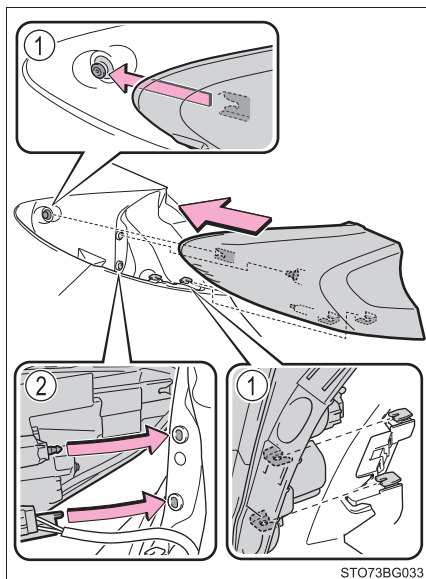
- 3 ソケットをまわして取りはずす



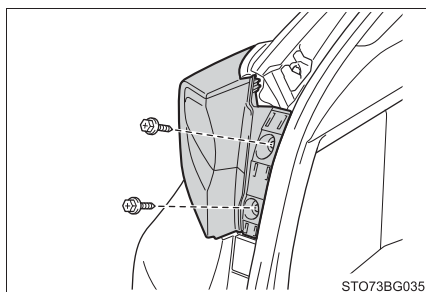
- 4 電球を取りはずす



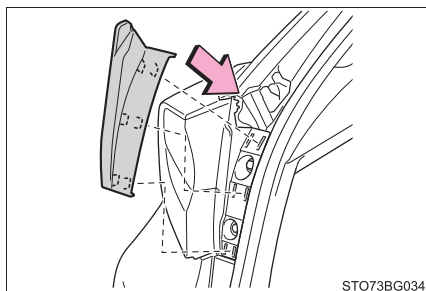
- 5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
- 6 ランプ本体を取り付ける
外側と下側のツメ (①) とクリップを合わせてからピン (②) を合わせて取り付けてください。



- 7 スクリュー (2 本) を取り付ける



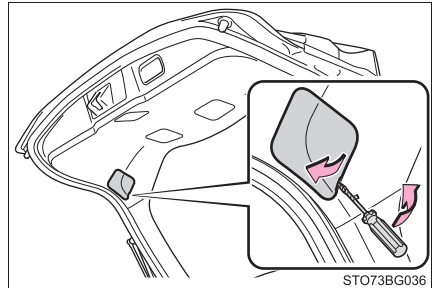
- 8 カバーを取り付ける



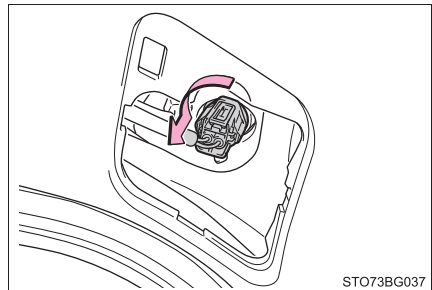
■ 後退灯（バルブタイプ）

- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

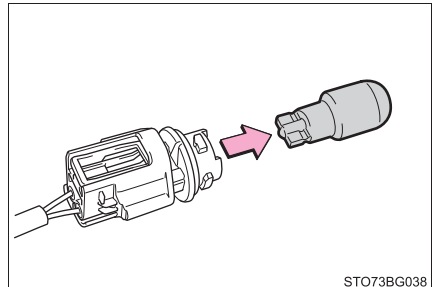
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



- 2 ソケットをまわして取りはずす



- 3 電球を取りはずす

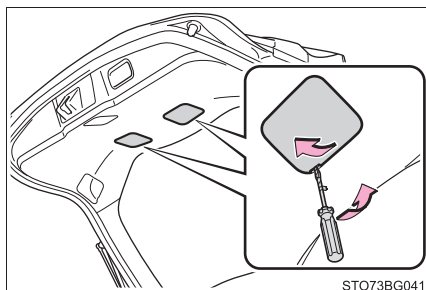


- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

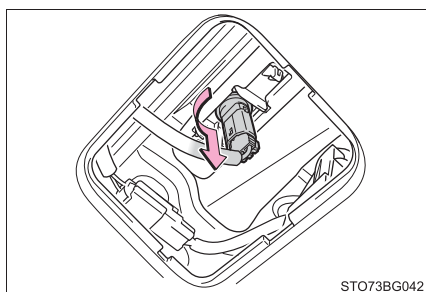
■ 番号灯

- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

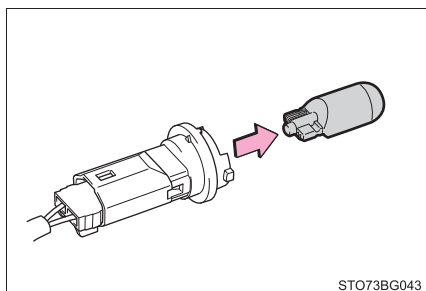
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



- 2 ソケットをまわして取りはずす



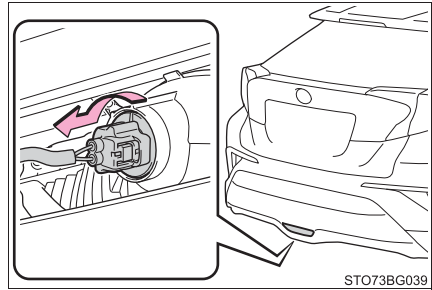
- 3 電球を取りはずす



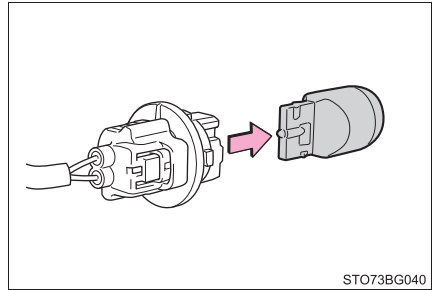
- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグランプ★

- 1 ソケットをまわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす



- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ (LED タイプ)
- 車幅灯
- フロント方向指示灯 / 非常点滅灯 (LED タイプ)
- LED デイライト★
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯 / 非常点滅灯
- 制動灯 / 尾灯
- リヤ方向指示灯 / 非常点滅灯 (LED タイプ)
- 後退灯 (LED タイプ)
- ハイマウントストップランプ
- ドアミラーイルミネーション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ LED ランプについて

次のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（LED タイプ）
- 車幅灯
- フロント方向指示灯 / 非常点滅灯（LED タイプ）
- LED デイライト★
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯 / 非常点滅灯
- 制動灯 / 尾灯
- リヤ方向指示灯 / 非常点滅灯（LED タイプ）
- 後退灯（LED タイプ）
- ハイマウントストップランプ
- ドアミラーイルミネーション★

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 348

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■電球を交換するとき**

- 必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	362
非常点滅灯 (ハザードランプ)	363
発炎筒	364
車両を緊急停止するには	366

7-2. 緊急時の対処法

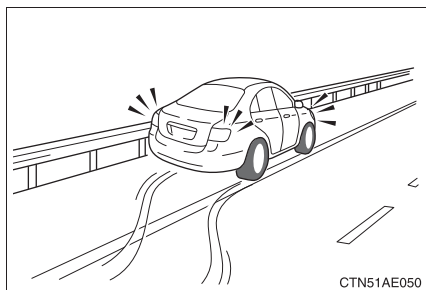
けん引について	367
警告灯がついたときは	373
警告メッセージが 表示されたときは	378
パンクしたときは (タイヤパンク応急修理 キット装着車)	383
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	397
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	407
電子キーが正常に 働かないときは	409
補機バッテリーが あがったときは	412
オーバーヒート したときは	417
スタックしたときは	422

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

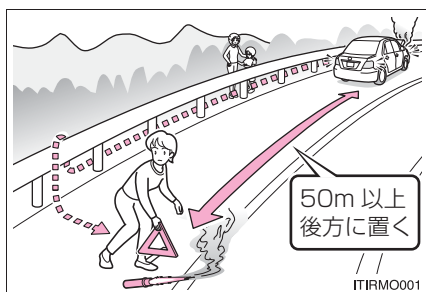
非常点滅灯（→ P. 363）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

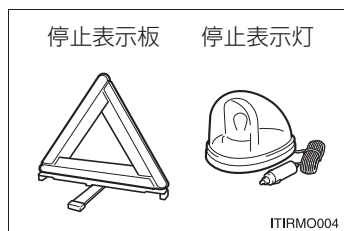
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 364）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

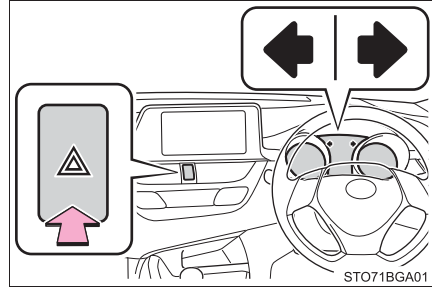


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

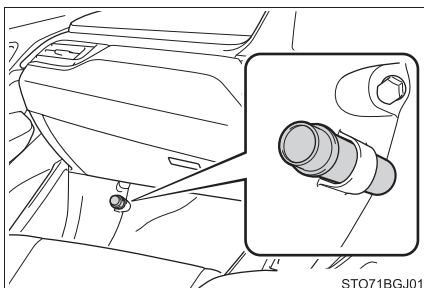
■ 非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

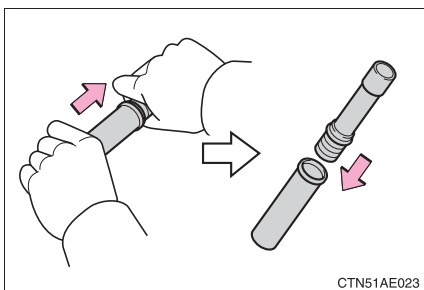
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

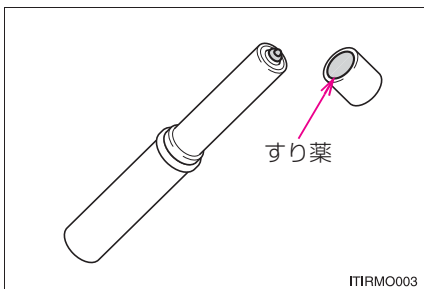
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

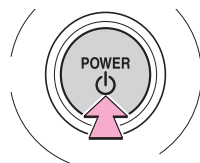
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD214

- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

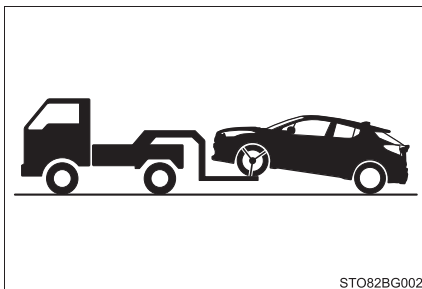
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにハイブリッドシステムの異常を示すメッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

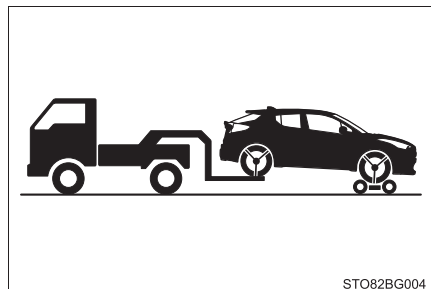
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するとき



パーキングブレーキを解除する

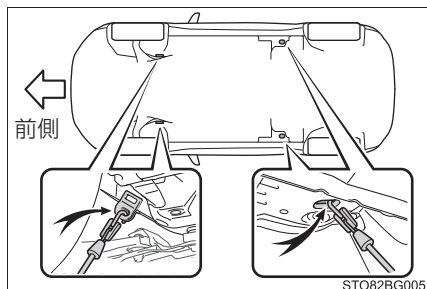
▶ うしろ向きにけん引するとき



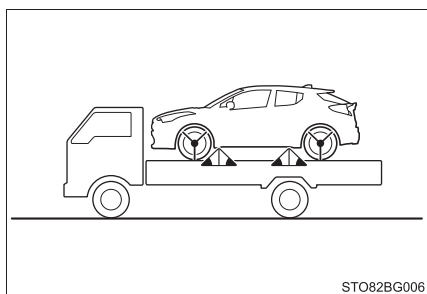
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

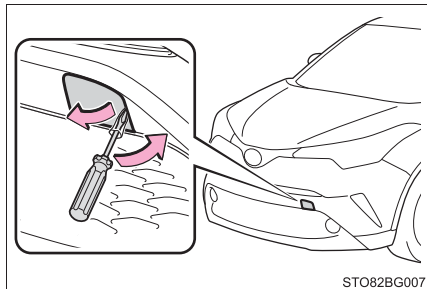


他車にけん引してもらうとき

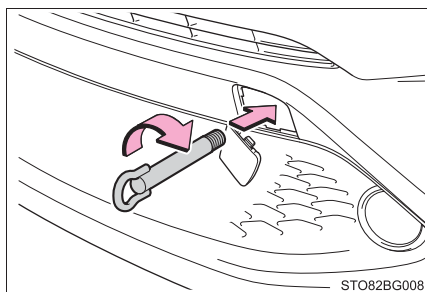
1 けん引フックを取り出す (→ P. 385, 398)

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

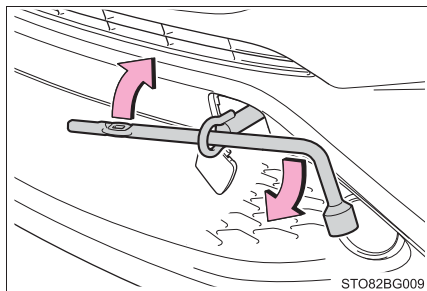
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



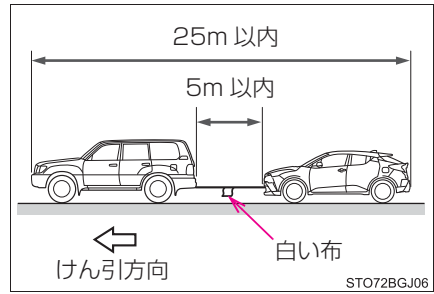
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する
ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 161

 **知識**

■ **けん引フックの使用目的**

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ **他車にけん引してもらうときに**

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ **ホイールナットレンチについて**

ラゲージルームに搭載されています。(→ P. 385, 398)

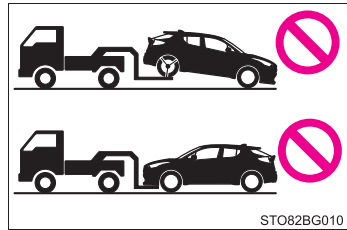
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

**■ 他車にけん引してもらったときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

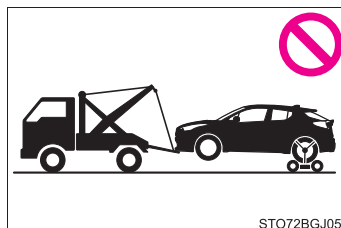
■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは






レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。






警告灯がついたときは


警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯（シンボル表示 ※¹） 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	油圧警告灯（警告ブザー）（シンボル表示 ※¹） エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>ABS & ブレーキアシスト警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 (赤色／黄色)	<p>パワーステアリング警告灯 (警告ブザー)</p> <p>EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>スリップ表示灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>VSC/TRC システム作動時は点滅します。(→ P. 254)</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 (黄色)	<p>電子制御ブレーキ警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 ・ 電動パーキングブレーキシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
 (点滅または点灯)	<p>PCS 警告灯</p> <p>炎天下や極寒の環境、またはセンサーが汚れているなどの状況のため一時的に作動しない、またはプリクラッシュセーフティシステムの異常 (→ P. 209, 378)</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。(→ P. 209, 378)</p> <p>プリクラッシュセーフティシステムが OFF、または VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときも点灯します。</p> <p>→ P. 209</p>

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>パーキングブレーキ表示灯 ※2</p> <p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。</p> <p>→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>
	<p>燃料残量警告灯</p> <p>燃料の残量が約 6.4L 以下になった</p> <p>→ 燃料を補給する</p>
	<p>シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※3</p> <p>運転席・助手席シートベルトの非着用</p> <p>→ シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。</p>
	<p>後席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※4, 5</p> <p>後席シートベルトの非着用</p> <p>→ シートベルトを着用する</p>
	<p>高水温警告灯 (警告ブザー) (シンボル表示) ※1</p> <p>エンジン水温の異常</p> <p>→ P. 417</p>

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール（シンボル表示※1） ブレーキオーバーライドシステム アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。 ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>ドライブスタートコントロール アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動 → ただちにアクセルペダルを離してください。 ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※3 シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 1 回なります。その後もシートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※4 後席シートベルト非着用警告ブザー：

シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、後席シートベルト非着用警告灯が点灯し続けているとき）のまま車速が 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

リヤドアを開けると、ブザー吹鳴条件が解除されます。

※5 インストルメントパネルに表示されます。

 知識**■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ 後席シートベルト非着用警告灯の作動について

- リヤドアを開閉すると約 34 秒間点灯します。
- いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。
点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約 34 秒後に消灯します。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 **警告****■ ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき**

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS、ブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

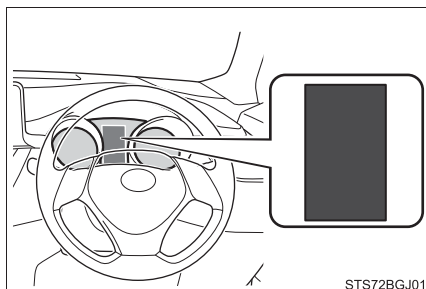
黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

マルチインフォメーションディスプレイ



STS72BGJ01

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
—	あり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・ 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・ 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識**■ 警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたとき**● アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき**

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

● ドライブスタートコントロール・ブレーキオーバライドシステムが作動した

ときに、警告メッセージが表示されます。（→ P. 139, 140）

画面の指示に従って対処してください。

● パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。

画面の指示に従って操作し直してください。

● シフト操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。

その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

● 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

- 「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
- 「充電システム故障 安全な場所に停車し取扱書を確認」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
- 「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 417)
- 「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 「非常時給電モード(走行不可) 換気できる平坦な場所で使用ください 詳細は取扱書をお読みください」が表示されたとき
→ P. 301

■「エンジン油圧不足」が表示されたとき

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたとき

冷却用の吸入口／フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトに隙間があるなどが考えられます。

- 吸入口が汚れている場合は、P. 334 を参考に吸入口の清掃を行ってください。
- 吸入口が汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「ハイブリッド充電量低下のためシステム停止Pレンジにして再始動」が表示されたとき

一定時間シフトレバーがNになっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「ハイブリッド充電量低下 Nレンジ以外にすると充電されません」が表示されたとき

シフトレバーがNのときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーがNでは、充電できないため、停車するときはシフトレバーをPにしてください。

■「新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください」が表示されたとき

メッセージは新しい電子キーを登録してからおよそ 1 週間、車外からドアロックを解除し、運転席ドアを開けたときに表示されます。

新しい電子キーを登録していないにもかかわらずこのメッセージが表示される場合は、不明な電子キー（現在所有しているもの以外）が登録されていないかトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「前方カメラ一時使用不可しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。

(→ P. 209, 374)

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（ステアリング制御付き車線逸脱警報）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- オートマチックハイビーム

■ 警告ブザー

→ P. 377

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

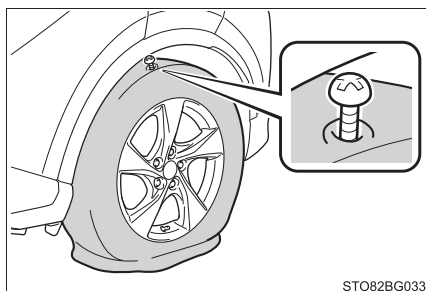
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりとかける
- シフトレバーをPにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



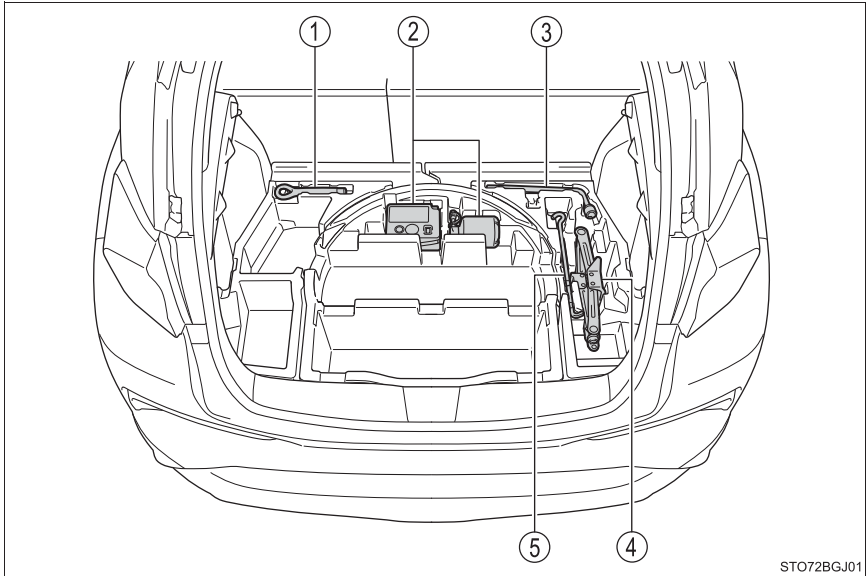
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

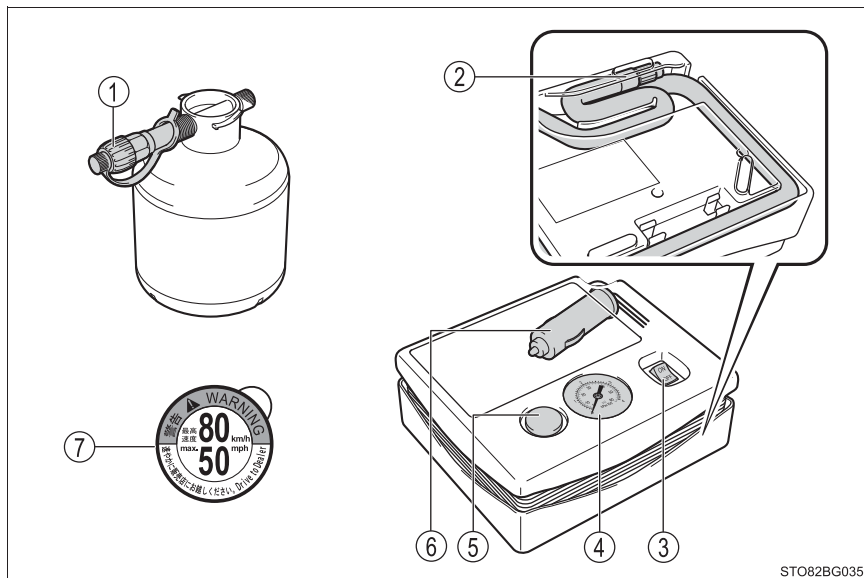
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



- | | |
|-----------------|---------------------------|
| ① けん引フック | ④ ジャッキ
(使用方法：→ P. 400) |
| ② タイヤパンク応急修理キット | ⑤ ジャッキハンドル |
| ③ ホイールナットレンチ | |

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



STO82BG035

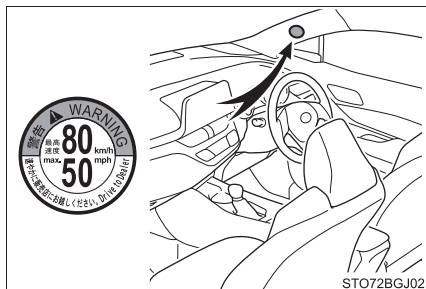
- | | |
|----------|-------------|
| ① ノズル | ⑤ 空気圧逃がしボタン |
| ② ホース | ⑥ 電源プラグ |
| ③ 電源スイッチ | ⑦ 速度制限ラベル |
| ④ 空気圧計 | |

応急修理キットの取り出し方

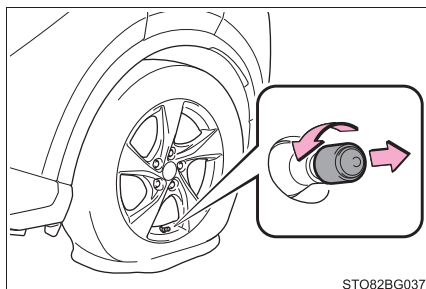
- 1 デッキボードを取りはずす (→ P. 284)
- 2 応急修理キットを取り出す

応急修理するとき

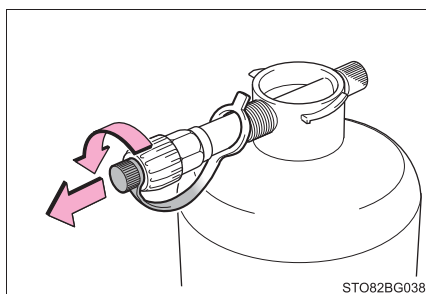
- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す
ビニール袋は再度使用するため、破ったり捨てたりしないで下さい。
- 2 付属のラベルを運転席から見えやすい位置に貼り付ける



- 3パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

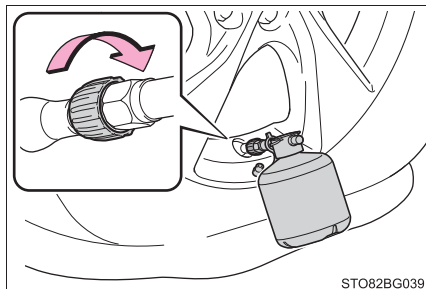


- 4ノズルからキャップを取りはずす



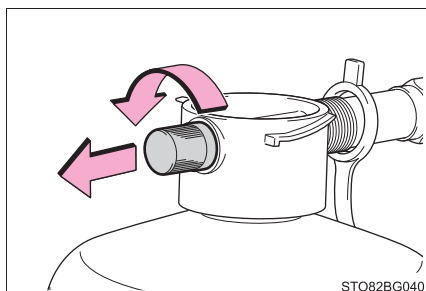
- 5 ノズルをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ノズル先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。
 ボトルは垂直にぶら下がるように取り付け、地面と接触させない。
 もし垂直にできない場合は、バルブの位置が適正になるように車両を移動させる。



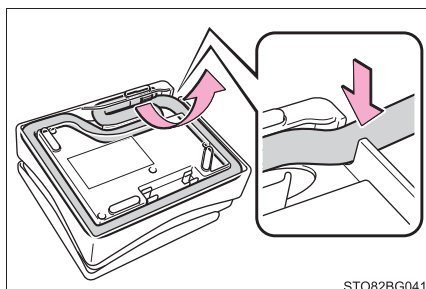
STO82BG039

- 6 ボトルのキャップをはずす



STO82BG040

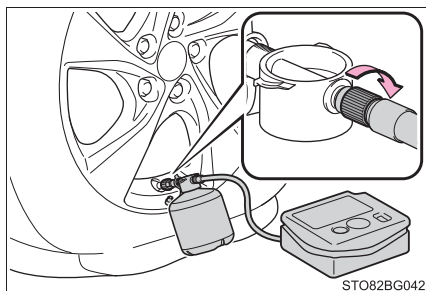
- 7 コンプレッサーからホースを取りはずす



STO82BG041

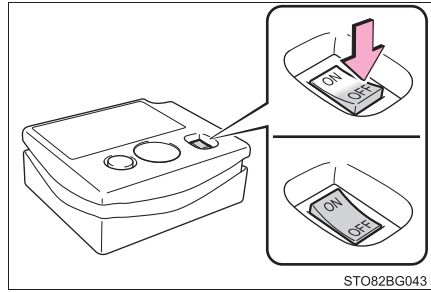
- 8 コンプレッサーのホースをボトルに取り付ける

ホース先端を時計回りにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

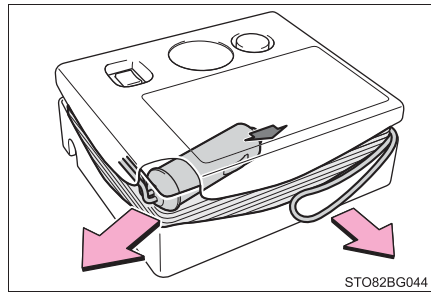


STO82BG042

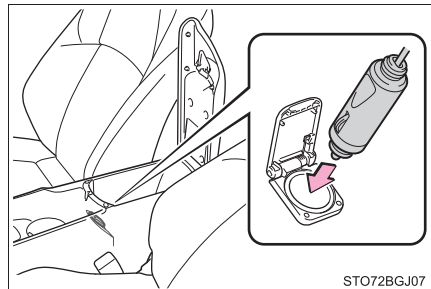
- 9 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



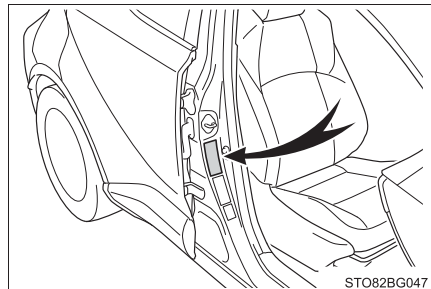
- 10 コンプレッサーの電源プラグをはずす



- 11 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む (→ P. 292)

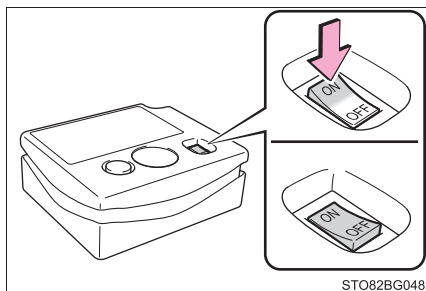


- 12 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 326)



- 13 ハイブリッドシステムを始動する

- 14 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



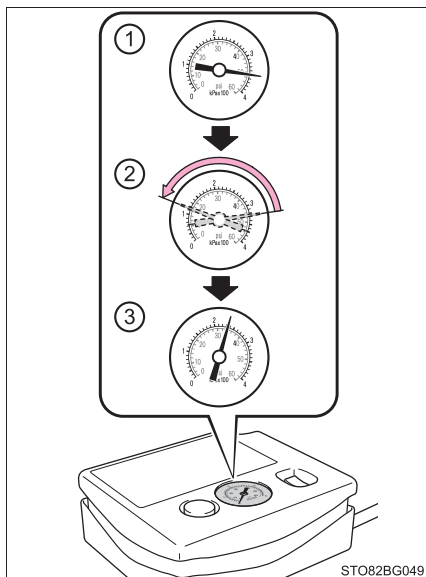
STO82BG048

- 15 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- ① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する
- ② 1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

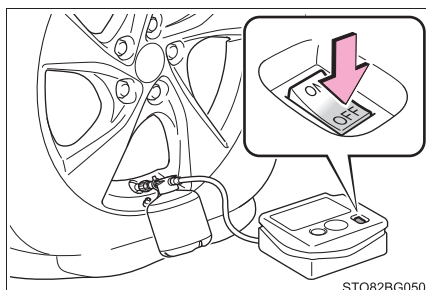
35分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 393, 430）



STO82BG049

- 16 コンプレッサーのスイッチをOFFにする

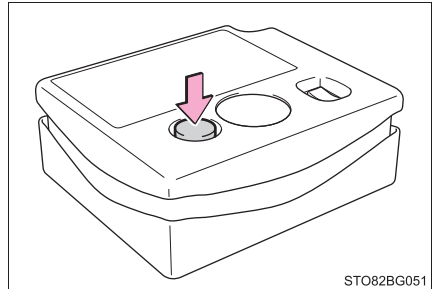


STO82BG050

- 17** アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからノズルを取り外す

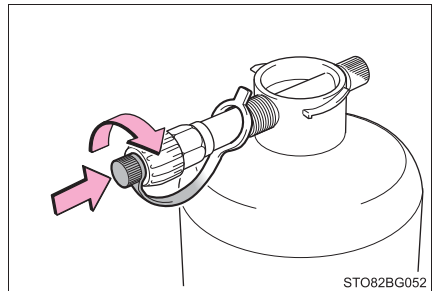
ノズルを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

- 18** 空気圧逃がしボタンを押して、ボトル内部の圧力を抜く



STO82BG051

- 19** ノズルのキャップを取り付ける

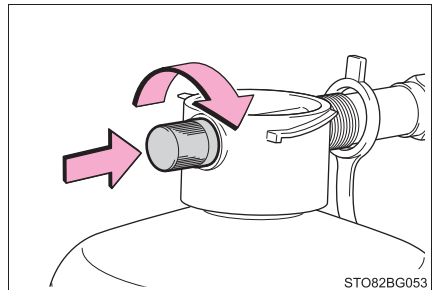


STO82BG052

- 20** パンクしたタイヤのバルブキャップを取り付ける

- 21** ホースをボトルから取りはずし、
ボトルのキャップを取り付ける

お車が汚れるのを防ぐため、ボトルを
もとのビニール袋に入れ、袋を縛る。

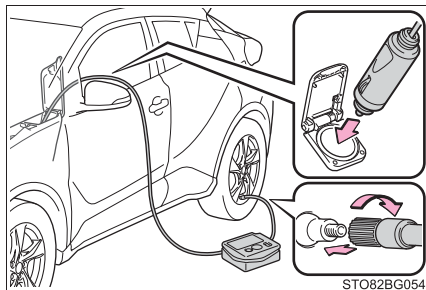


STO82BG053

- 22** いったん、ボトルとコンプレッサーをラゲージルームに収納する

- 23** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）

- 24** 走行後、地面が固く平らで安全な場所に停車し、コンプレッサーを接続する

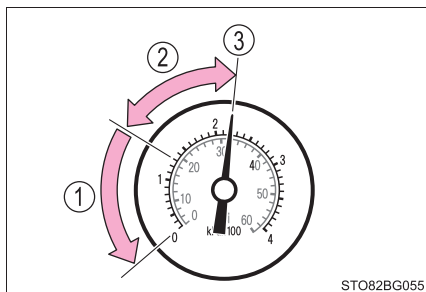


- 25** コンプレッサーのスイッチをONにして数秒間経過後、OFF にしてから空気圧を確認する

① 空気圧が130 kpa (1.3 kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が130 kpa (1.3 kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：**26** へ

③ 空気圧が指定空気圧 (→ P. 430) の場合：**27** へ



- 26** コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて **24** から実施する

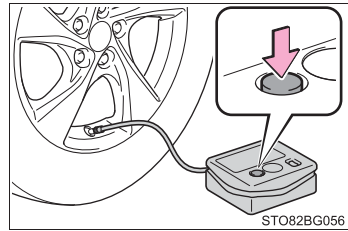
- 27** コンプレッサーをラゲージルームに収納します

- 28** 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行き、タイヤを修理または交換する

知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 空気圧逃がしボタンを押して空気を抜く



- 2 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が -30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 **警告****■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ作動部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

 **警告****■ 補修液を均等に広げるための運転について**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 **注意****■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- パンク補修液のボトルを逆さまにして使用しないでください。コンプレッサーの故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 325 を参照してください）

警告

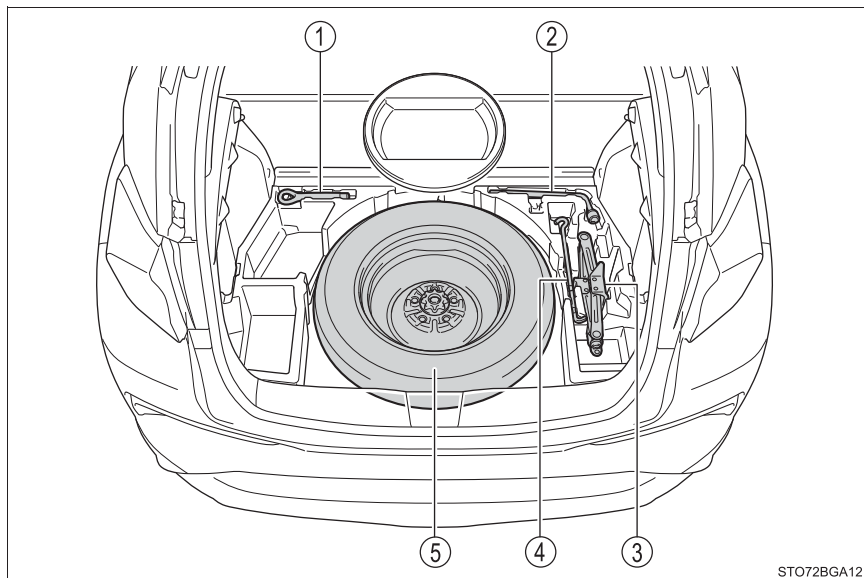
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 363）

工具とジャッキ位置



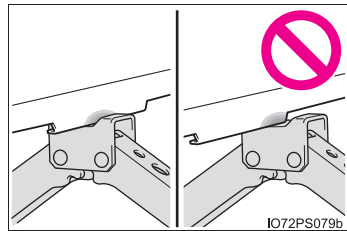
- | | |
|--------------|------------|
| ① けん引フック | ④ ジャッキハンドル |
| ② ホイールナットレンチ | ⑤ 応急用タイヤ |
| ③ ジャッキ | |

警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

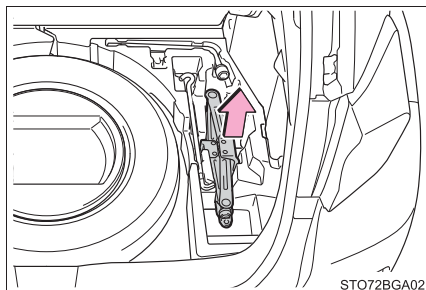
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使わない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→ P. 401）



- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

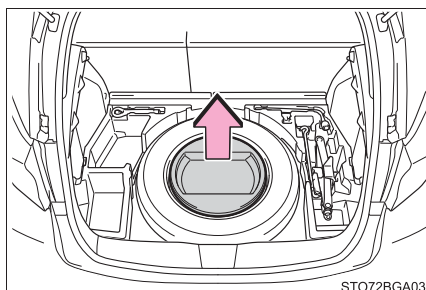
ジャッキの取り出し方

- 1 デッキボードを取りはずす (→ P. 284)
- 2 ジャッキを取り出す

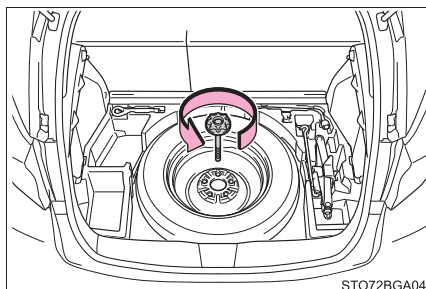


応急用タイヤの取り出し方

- 1 デッキボードを取りはずす (→ P. 284)
- 2 クッションを取りはずす



- 3 留め具を取りはずし、応急用タイヤを取り出す



警告

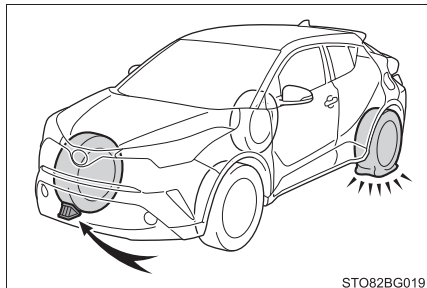
■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

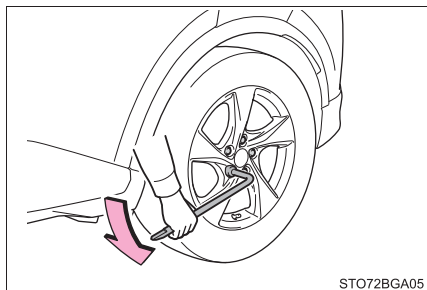
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



STO82BG019

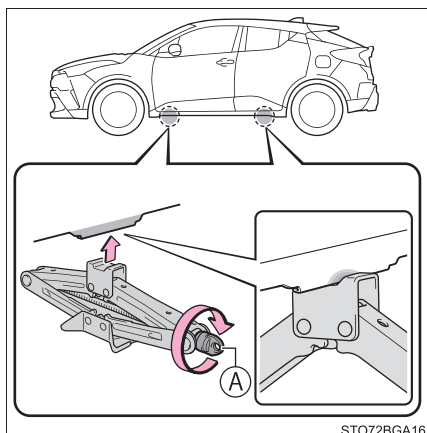
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し(約1回転)ゆるめる



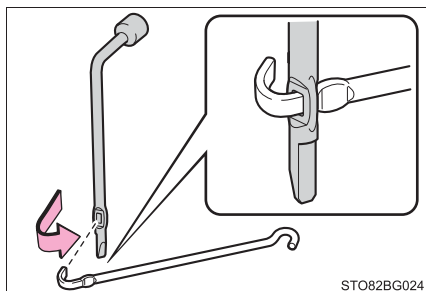
STO72BGA05

3 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキの(A)部を手でまわす。

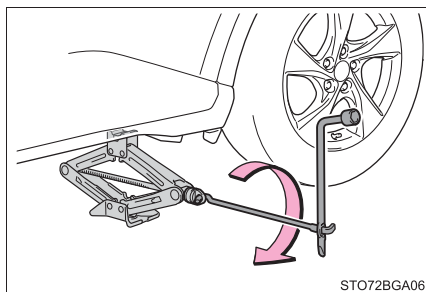


STO72BGA16

- 4 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

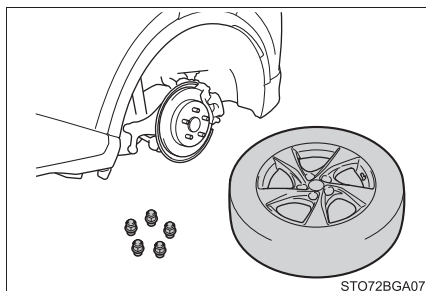


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



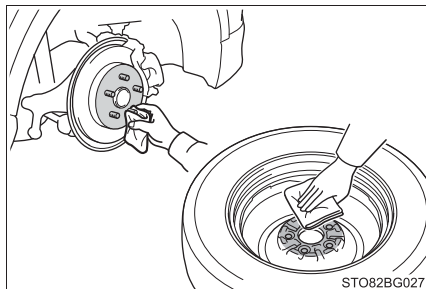
**警告****■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→ P. 328)

応急用タイヤの取り付け

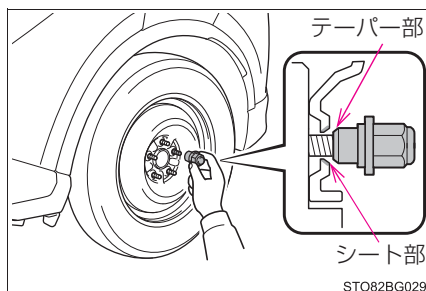
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

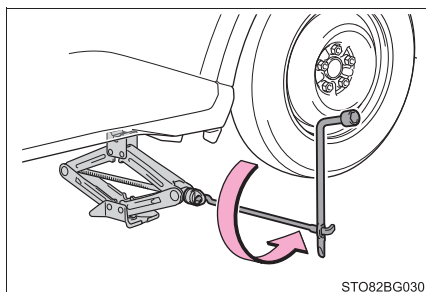


- 2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

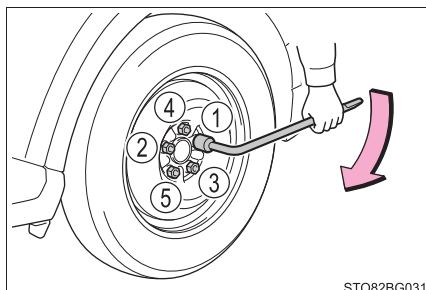


- 3 車体を下げる



- 4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 430)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤに交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

 **警告**

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度(トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン)をこえて使用しないでください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| ・ ABS | ・ PCS |
| ・ ブレーキアシスト | ・ LDA(ステアリング制御付き車線逸脱警報) |
| ・ VSC | ・ レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き) |
| ・ TRC | ・ BSM★ |
| ・ EPS | ・ クリアランスソナー★ |
| ・ オートマチックハイビーム | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 150）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 410）
- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。（→ P. 68）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 73）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 408）
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ - 30℃以下）可能性があります。（→ P. 68, 153）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 412）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 412）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 パワースイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

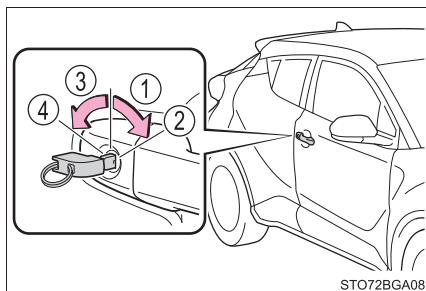
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 116）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 99）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
- ③ 全ドア解錠
- ④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。



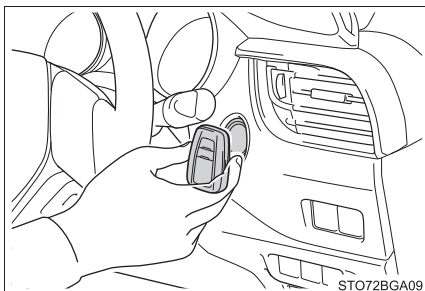
ハイブリッドシステム始動の方法


1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

 知識

■ ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、パワースイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 344)

■ パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順³で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 151)

■ 電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 431)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 115)

 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

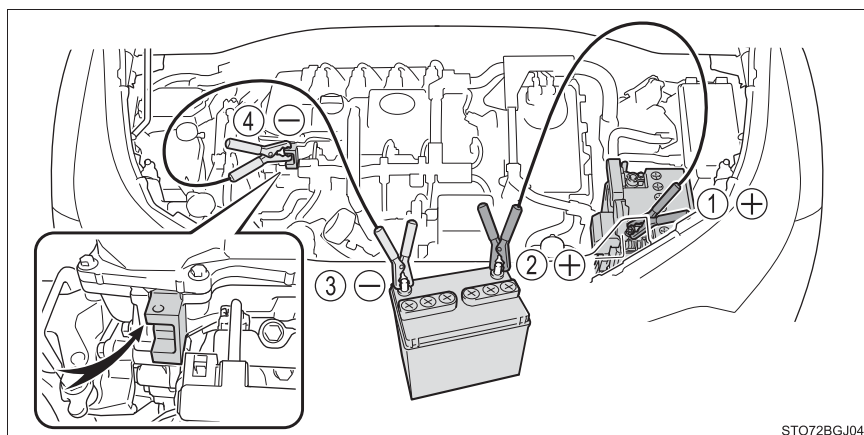
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→ P. 320)
- 2 補機バッテリーの + 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



- 1 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの + 端子につなぐ
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を補機バッテリーから離れた、未塗装の金属部 (図に示すような固定された部分) につなぐ

- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する
- 5 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 6 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー + 端子のカバーをもとにもどしてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 補機バッテリーがあがってしまったとき

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→ P. 437)

■補機バッテリー端子をはずすとき

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時や補機バッテリー脱着後、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチをOFFにしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するとき

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ(LN1)、20時間率容量(20HR)が同等(45Ah)以上、かつ性能基準値(CCA)が同等(295A)以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・20時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■ 補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず-端子を先にはずしてください。+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをご守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずご守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 83）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム 高温 出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

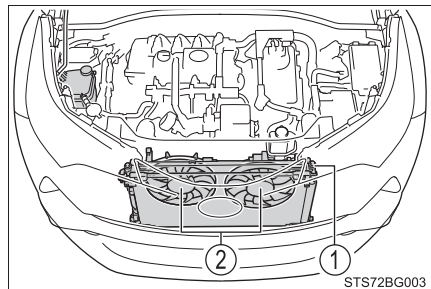
■ 高水温警告灯が点灯したとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

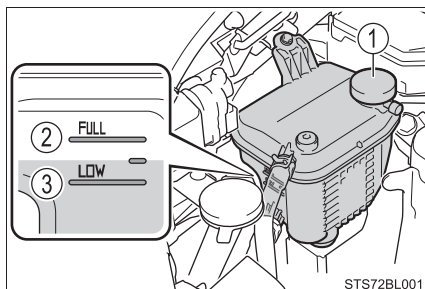
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



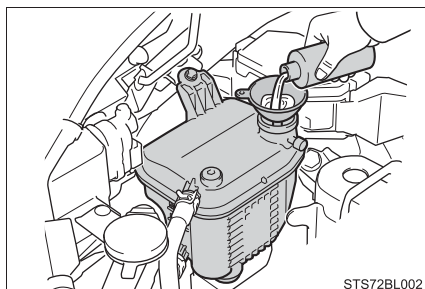
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

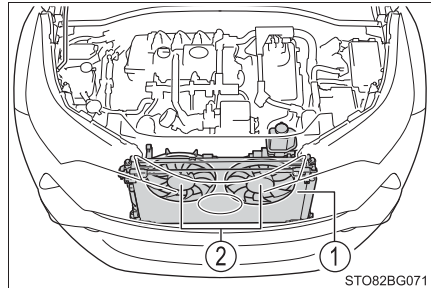
- 7 ファンが作動していない場合：
 すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
 ファンが作動している場合：
 最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部(放熱部) やホースなどからの冷却水もれを点検する

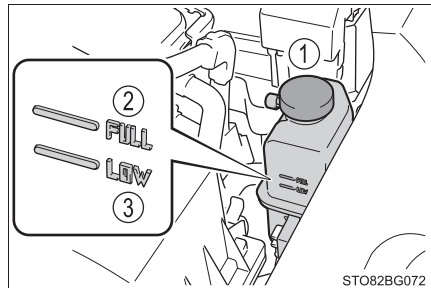
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

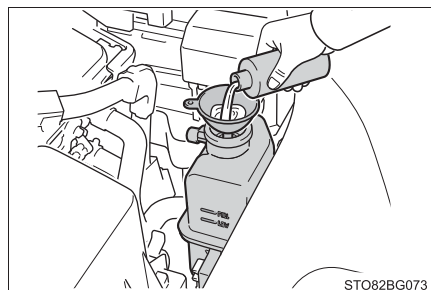
- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：

ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

 **警告****■ エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消えていることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

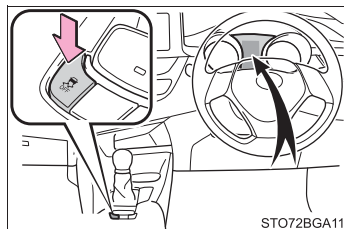
- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■ 脱出しにくいとき

 を押してTRCをOFFにしてください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



 **警告****■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量
など)426

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....431

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目437

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	43

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ^{※1})	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタ純正キャッスルモーターオイル SN OW-16 ^{※2} —API SN/RC, SAE OW-16	3.9	4.2
トヨタ純正キャッスルモーターオイル SN OW-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE OW-20		
トヨタ純正キャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30		

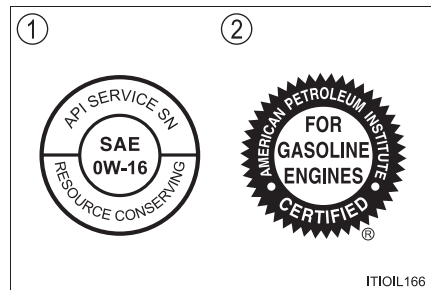
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 OW-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

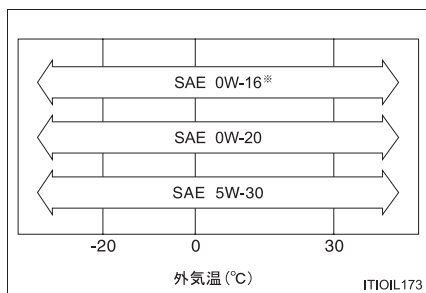
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサクサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION
マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
トヨタスーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	5.4	1.4

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正オートフルード WS*	3.6

* 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 5
踏み込んだときの床板とのすき間*	119

* ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N (30.6kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えて いるときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R17 96H	17×6 1/2J	230 (2.3)	
	225/50R18 95V	18×7J		
応急用タイヤ★	T145/90D16 106M	16×4T	420 (4.2)	

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ (バルブタイプ: HIR2)	55
	フロント方向指示灯/非常点滅灯 (バルブタイプ)	21
	リヤ方向指示灯/非常点滅灯 (バルブタイプ)	21
	後退灯 (バルブタイプ)	16
	番号灯 (バルブタイプ)	5
	リヤフォグランプ★	21
車内	フロントインテリアランプ/パーソナルランプ	5
	リヤインテリアランプ	8
	バニティミラーランプ★	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
ZYX10	2ZR-FXE (1.8 L ガソリン)	1NM	FF (前輪駆動)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。






ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

- 1 メーター操作スイッチの“<”または“>”を押して  を選択する
- 2 “^”または“v”を押して“表示設定”を選択し、 スイッチを押す
- 3 “^”または“v”を押して変更する項目を選択し、 スイッチを押す
- 4 “^”または“v”を押して設定したい項目を選択し、 スイッチを押す
設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ ハイブリッドシステム (→ P. 61)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車両接近通報装置 (通報音量調整)	レベル0	レベル+1	-	○
		レベル+2		

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 83, 87)

機能	初期設定	変更後	①	②
言語	日本語	English	○	○
単位	km/L	L/100 km	○	○
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	※	○	○
	リセット間 平均燃費			
ドライブインフォ 2	航続可能距離	※	○	○
	リセット間 平均車速			

※ 瞬間燃費、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから2項目を選択

■ メーター照明 (→ P. 90)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	-2 ~ +2	-	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	-2 ~ +2	-	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 102, 113)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図 (ブザー音量調整)	5	OFF	—	○
		1 ~ 7	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ 解錠	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの 自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 113)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー& スタートシステム	あり	なし	—	○
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 102)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○

■ ドアミラー (→ P. 130)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オート電動格納作動	ドアの施錠・解 錠と連動	なし	—	○
		パワースイッ チと連動	—	○

■ パワーウィンドウ (→ P. 132)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開閉機能(開)	しない	する	—	○
メカニカルキー連動開閉機能(閉)	しない	する	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能(開)	しない	する	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能(閉)	しない	する	—	○
メカニカルキー・ワイヤレスリモコン連動作動合図(ブザー)	する	しない	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 171)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) (→ P. 198)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
PCS (プリクラッシュセーフティシステム)	あり	なし	○	○
警報感度	中間	遠い	○	○
		近い		

■ LDA* (ステアリング制御付き車線逸警報) (→ P. 210)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
操舵支援	あり	なし	○	○
警報感度	普通	高	○	○
ふらつき検知	あり	なし	○	○
ふらつき検知感度	普通	高	○	○
		低		

* Lane Departure Alert の略

■ クリアランスソナー★ (→ P. 245)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ~ 5	—	○

■ エアコン (→ P. 266)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○

■ イルミネーション (→ P. 276)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	—	○
		7.5 秒		
		30 秒		
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○
ドアミラーイルミネーションの点灯★	あり	なし	—	○
ドアミラーイルミネーションの消灯までの時間★	15 秒	OFF	—	○
		7.5 秒		
		30 秒		
解錠時のドアミラーイルミネーションの点灯★	あり	なし	—	○
接近時のドアミラーイルミネーションの点灯★	あり	なし	—	○
室内照明の点灯制御	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ 車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- パワースイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

 警告

■ カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーウィンドウ	正常に働かないとき	P. 133

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	440
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	444
アルファベット順 さくいん.....	446
五十音順さくいん.....	448

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 99）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 101）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 344）
- パワースイッチがONモードになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチをOFFにしてください。（→ P. 151）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 116）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 105）

故障かな？と思ったら**ハイブリッドシステムが始動できない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 150）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 153）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 114）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 153）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 410）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 412）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない**

- パワースイッチは ON モードになっていますか？
パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないときは（→ P. 161）を参照してください。

**ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 153）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 132）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはONモード(ハイブリッドシステムが作動していない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 152)



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは (音さくいん)」(→ P. 444) をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 373、378 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- **タイヤパンク応急修理キット装着車**
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 383）
- **応急用タイヤ装着車**
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 397）

**立ち往生した**

- **ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 422）**

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P. 378
	窓が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 134
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 114
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 344
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 114
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 114

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 106, 109
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 166
	運転席・助手席・後席のシートベルトを着用していない※	P. 375
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 143
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 227
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 198
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 210

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A / C

(エアコン) 266

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 253, 374

BSM

(ブラインドスポットモニター) 234

ECB

(電子制御ブレーキシステム) 253

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 253, 374

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 430

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 427

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 44, 52

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 210

LED

(ライトエミッティングダイオード) 359

PCS

(ブリクラッシュセーフティシステム) 198, 374

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート) 241

S-VSC

(ステアリングアシステッドピークルスタビリティ
コントロール) 253, 374

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム)..... 30, 373

TRC

(トラクションコントロール)..... 253, 374

VSC

(ビークルスタビリティコントロール)..... 253, 374

五十音順さくいん

あ

アースポイント	
(バッテリーあがりの処置).....	412
RF 送信機.....	9
アウターミラー	
(ドアミラー).....	130
操作.....	130
格納のしかた.....	130
ブラインドスポット	
モニター (BSM).....	234
ミラーヒーター.....	269
アクセサリーコンセント.....	294
アクセサリーソケット.....	292
アクセサリーモード.....	151
アシストグリップ.....	293
アラーム	
音さくいん.....	444
警告ブザー.....	373, 378
アンチロックブレーキ	
システム (ABS).....	253
アンテナ	
スマートエントリー&	
スタートシステム.....	113

い

ECB	
(電子制御ブレーキ	
システム).....	253
EV ドライブモード.....	157
イグニッションスイッチ	
(パワースイッチ).....	150
車両を緊急停止するには.....	366
位置交換	
(タイヤローテーション).....	325
イベントデータレコーダー	
(EDR).....	8
イモビライザーシステム.....	73
イルミネーテッド	
エントリーシステム.....	278
インジケーター (表示灯).....	79
ドアミラーインジケーター.....	234
ハイブリッドシステム	
インジケーター.....	85
表示灯.....	79
READY.....	150
インテリアランプ.....	277
ワット数.....	430
インナーミラー.....	128

う

ウインカー (方向指示灯)	163
電球 (バルブ) の	
交換	352, 353, 358
方向指示レバー	163
ワット数	430
ウインドウ	132
パワーウインドウ	132
フロントワイパー	
デアイサー	270
リヤウインドウ	
デフォグガー	269
ウインドウロックスイッチ	132
ウォーニングランプ	
(警告灯)	77, 373
ウォッシャー	181, 185
液の補充	323
スイッチ	181, 185
タンク容量	429
冬の前の準備・点検	261
動けなくなったときは	
(スタック)	422
雨滴感知式ワイパー	181
運転	138
雨の日の運転	139
運転を補助する装置	253
寒冷時の運転	261
正しい運転姿勢	24
手順	138
ハイブリッド車運転の	
アドバイス	259
運転席シートベルト	
非着用警告灯	375

え

エアコン	266
エコ空調モード	271
フィルターの交換	331
エアバッグ	30
SRS エアバッグ警告灯	373
おじさまのための注意	31
改造・廃棄	33
作動条件	34
正しい姿勢	24
配置	30
エネルギーモニター	94
LED デイライト	173
LDA (ステアリング制御付き	
車線逸脱警報)	210
エレクトリックパワー	
ステアリング (EPS)	253
パワーステアリング警告灯	374

エンジン

エンジン警告灯	373
オーバーヒート	417
緊急時の停止方法	366
ハイブリッドシステムが 始動できない	407
ハイブリッドシステムの 始動方法	150
パワースイッチ (イグニッション スイッチ)	150
ボンネット	320
エンジンオイル	427
冬の前の準備・点検	261
メンテナンスデータ	427
油圧警告灯	373
容量	427
エンジンスイッチ (パワースイッチ)	150
車両を緊急停止するには	366
エンジンフード (ボンネット)	320

お

オーディオ操作スイッチ	293
オートエアコン	266
オートマチックハイビーム	175
オートレベリングシステム (ヘッドランプ)	173
オーバーヒート	417
オープナー 給油口	189
バックドア	108
ボンネット	320
オイル (エンジンオイル)	427
応急用タイヤ	397
空気圧	430
交換方法	397
お子さまを乗せるとき	39
ウインドウロックスイッチ ...	132
エアバッグ	31
お子さまの安全のために	39
キーの電池	345
シートの取り扱いに関する 警告	120, 122
シートベルトの着用	27
チャイルドシート	40
チャイルドプロテクター	105
発炎筒の取り扱いに関する 警告	365
バックドアに関する警告	111
バッテリーに関する警告	415
パワーウインドウに関する 警告	135
オドメーター	83

か

カーテンシールドエアバッグ	30
カーベット	
洗浄	318
フロアマットの取り付け方	22
外気温表示	83
回生ブレーキ	63
外装の電球 (バルブ)	349
交換要領	349
ワット数	430
買い物フック	283
ガス欠になったとき	68
カスタマイズ機能	431
ガソリンスタンドでの情報	468
型式	430
カップホルダー	282
カメラ	
オートマチックハイビーム	175
カメラセンサー	194
白線認識用カメラ (LDA)	210
ガラスの曇り取り (リヤウインドウ デフォグガー)	269
ガレージジャッキ	322
冠水路走行	147
寒冷時の運転	261

き

キー	98
キーナンバープレート	98
キーの構成	98
キーレスエントリー	98, 113
キーをなくした	99, 101
正常に働かない	409
施錠・解錠ができない	409
電子キー	98
電池が切れた	344, 409
ハイブリッドシステムが 始動できない	407
メカニカルキー	99
ワイヤレスリモコン	98
キーレスエントリー	
スマートエントリー& スタートシステム	113
ワイヤレスドアロック	98
きしみやひっかき音が聞こえる (ブレーキパッドウェア インジケーター)	143
給油	187
給油扉が開かないとき	190
給油のしかた	187
メンテナンスデータ	426
緊急時シートベルト固定機構	27
緊急始動機能 (ハイブリッドシステム)	408

緊急時の対処

オーバーヒートした	417
キーの電池が切れた	344, 409
警告灯がついた	373
警告メッセージが	
表示された	378
けん引.....	367
故障したときは	362
車両を緊急停止する	366
スタックした	422
電子キーが	
正常に働かない	409
ハイブリッドシステムが	
始動できない	407
発炎筒.....	364
バッテリーがあがった.....	412
パンクした.....	383, 397
緊急停止システム.....	67

く

空気圧 (タイヤ)	430
区間距離計	
(トリップメーター).....	83
駆動用電池.....	66
充電について	63
搭載位置	66
冷却用吸入口	67
駆動用電池冷却用吸入口.....	67
手入れ.....	334
曇り取り	
フロントウインドウガラス	269
ミラーヒーター.....	269
リヤウインドウ	
デフォグガー.....	269
クラクション (ホーン).....	126
クリアランスソナー	245
クリアランスランプ	
(車幅灯).....	171
スイッチ	171
電球 (バルブ) の交換.....	358
クリップ	
フロアマット	22
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール	
(全車速追従機能付き)	220
グローブボックス	280

け

警音器 (ホーン).....	126
計器類 (メーター).....	83
照度調整.....	90
警告灯/表示灯.....	76
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	87
警告灯.....	77, 373
ABS & ブレーキアシスト.....	374
SRS エアバッグ.....	373
LDA (ステアリング制御付き 車線逸脱警報).....	210
エンジン.....	373
後席シートベルト非着用.....	375
シートベルト非着用.....	375
充電.....	373
水温.....	375
スリップ表示灯.....	374
電子制御ブレーキ.....	374
ドライブスタート コントロール.....	376
燃料残量.....	375
パーキングブレーキ....	374, 375
パワーステアリング.....	374
PCS (プリクラッシュ セーフティシステム).....	374
プリテンションナー.....	373
ブレーキ.....	373
ブレーキオーバーライド システム.....	376
油圧.....	373

警告ブザー

エンジンオイル圧力.....	373
高水温.....	375
後席シートベルト非着用 警告.....	375
クリアランスソナー.....	247
シートベルト非着用.....	375
車線逸脱警報機能.....	210
衝突警報 (PCS).....	198
接近警報 (レーダークルーズ コントロール).....	227
パーキングブレーキ 未解除走行時.....	166
半ドア.....	103, 106, 109, 114
BSM (ブラインドスポット モニター).....	234
ふらつき警報機能.....	211
ブレーキ.....	373
リバース.....	160
警告メッセージ.....	378
警告ラベル (ハイブリッド システム).....	66
化粧ミラー (パニティミラー)....	290
けん引.....	367
けん引のしかた.....	367
フックの搭載場所.....	385, 398
フックの取り付け.....	369

こ

交換	
キーの電池.....	344
タイヤ.....	397
電球（バルブ）.....	349
ヒューズ.....	346
工具（ツール）.....	385、398
後席シートベルト非着用	
警告灯.....	375
航続可能距離.....	88
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）	
の交換.....	355、358
ワット数.....	430
高電圧部位.....	66
子供専用シート.....	40
選択方法.....	40
取り付け方.....	44
コンセント	
アクセサリーコンセント.....	294
非常時給電システム.....	301
コンソールボックス.....	280
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）.....	171

さ

サービスプラグ.....	66
サイドエアバッグ.....	30
サイド方向指示灯.....	163
電球（バルブ）の交換.....	358
方向指示レバー.....	163
サイドミラー（ドアミラー）.....	130
操作.....	130
格納のしかた.....	130
ブラインドスポット	
モニター（BSM）.....	234
ミラーヒーター.....	269
サンバイザー.....	290

し

シート	120, 121
正しい運転姿勢	24
チャイルドシート	40
調整	120, 121
手入れ	317
ヘッドレスト	123
シートヒーター	274
シートベルト	26
お子さまの着用	27
緊急時シートベルト	
固定機構	27
シートベルト非着用警告灯	375
高さ調節	26
正しく着用するには	26
着け方、はずし方	26
手入れ	318
妊娠中の方の着用	28
シートベルト非着用警告灯	375
シートベルトプリテンショナー	27
プリテンショナー警告灯	373
事故が発生したとき	
(ハイブリッド	
システムの注意)	70
室内灯 (インテリアランプ)	276
始動のしかた	150
シフトポジション	160
シフトレバー	159
シフトレンジの切りかえ	159
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	160
リバース警告ブザー	160

シフトレバーが

シフトできないときは	161
シフトロックシステム	160
締め付けトルク (ホイール)	404
車間距離切りかえスイッチ	226
車線逸脱警報機能	210
ジャッキ	
ガレージジャッキ	322
車載ジャッキ	385, 398
ジャッキハンドル	385, 398
車幅灯	171
電球 (バルブ) の交換	358
ランプスイッチ	171
車両型式	430
車両仕様 (スペック)	426
車両接近通報装置	62
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	366
収納装備	279
ジュニアシート	40
瞬間燃費	88
仕様 (車両仕様)	430
助手席シートベルト	
非着用警告灯	375

す

水温計 83

スイッチ

アクセサリコンセント 294

EV ドライブモード 157

イグニッション 150

ウインドロック 132

ウインドシールド

デアイサー 270

ウォッシャー 181, 185

LDA (ステアリング

制御付き車線逸脱警報) 213

エンジンスイッチ 150

オーディオ 293

オートマチックハイビーム 175

給油口オープナー 189

クルーズコントロール 220

シートヒーター 275

シート調整 120

車間距離切りかえ 226

車両接近通報一時停止 62

TRIP 84

ドアミラー 130

ドアロック 104

ハザードランプ 363

パーキングブレーキ 164

パワーウインドウ 132

パワースイッチ 150

非常時給電 301

非常点滅灯

(ハザードランプ) 363

VSC OFF 254

フォグランプ 179

ブレーキホールド 168

方向指示レバー 163

ホーン (警音器) 126

メーター操作スイッチ 88

ランプ 171

リヤウインドウ

デフォグガー 269

レーダークルーズ

コントロール

(全車速追従機能付き) 220

ワイパー 181, 185

スタック 422

ステアリングアシステッド

ビークルスタビリティ

コントロール (S-VSC) 253

ステアリングホイール

(ハンドル) 126

位置調整 126

スイッチ 293

ホーン (警音器) 126

ステアリングロック 153

解除できないとき 153

ストップランプ (制動灯)

電球 (バルブ) の交換 358

スノータイヤ (冬用タイヤ)	261
スピードメーター	83
スペアタイヤ (応急用タイヤ) ...	397
空気圧	430
交換方法	397
スペック (車両仕様)	426
スマートエントリー&	
スタートシステム	113
アンテナの位置	113
カスタマイズ設定	431
緊急始動機能	408
警告ブザー	114
作動範囲	114
正常に働かないとき	409
節電機能	115
電波がおよぼす	
影響について	119
ドアの解錠・施錠	102, 108
ハイブリッドシステムの	
始動	150
スモールランプ (車幅灯)	171
電球 (バルブ) の交換	358
ランプスイッチ	171

せ

清掃	312, 317
アルミホイール	313
外装	312
カメラセンサー	196
駆動用電池冷却用吸入口	334
シートベルト	318
内装	317
レーダーセンサー	195
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	358
積算距離計 (オドメーター)	83
セキュリティ	
インジケーター	73
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	227
センサー	
インナーミラー	129
雨滴感知センサー	183
オートマチックハイビーム ...	175
カメラセンサー	194
クリアランスソナー	245
前方センサー	194
ライトセンサー	173
レーダーセンサー	194
洗車	312
前照灯 (ヘッドランプ)	171
オートレベリングシステム ...	173
電球 (バルブ)	
の交換	351, 358
マニュアルレベリング	
システム	172
ライトセンサー	173
ランプ消し忘れ防止機能	173
ランプスイッチ	171
前方センサー	194

そ

走行モード (ドライブモード)	232
速度計 (スピードメーター)	83

た

ターンシグナルランプ (方向指示灯)	163
電球 (バルブ) の 交換	352, 353, 358
方向指示レバー	163
ワット数	430
タイヤ	325
応急用タイヤ	397
空気圧	329, 430
交換	397
締め付けトルク	404
チェーン	261
点検	325
パンク応急修理キット	383
パンクしたときは	383, 397
冬用タイヤ	261
ホイールサイズ	430
ローテーション (位置交換)	325
タイヤが空まわりする (スタックした)	422
タイヤチェーン	261

ち

チェーン (タイヤチェーン)	261
チャイルドシート	40
ISOFIX 対応チャイルドシート 固定専用バーで固定	52
お子様を乗せるときは	39
規格	42
固定方法の種類	44
シートベルトで固定	48
知っておいて いただきたいこと	40
テザーベルト	59
トップテザーアンカーに 固定	59
チャイルドプロテクター	105
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	164
操作	164, 165
冬季の注意	262
ブレーキ警告灯	374, 375
未解除走行時警告ブザー	166

つ

ツール (工具)	385, 398
----------------	----------

て

手入れ.....	312, 317
アルミホイール.....	313
外装.....	312
カメラセンサー.....	196
駆動用電池冷却用吸入口.....	334
シートベルト.....	318
内装.....	317
レーダーセンサー.....	195
テールランプ（尾灯）.....	171
電球（バルブ）の交換.....	358
ランプスイッチ.....	171
デッキフック	
（荷物固定用フック）.....	283
デッキボード.....	284
デフォッガー	
（リヤウインドウ	
デフォッガー）.....	269
電気モーター.....	61, 66
電球（バルブ）.....	430
交換要領（外装バルブ）.....	349
ワット数.....	430
点検基準値	
（メンテナンスデータ）.....	426
電子キー.....	98
作動範囲.....	114
正常に働かないとき.....	409
電池が切れた.....	409
電池交換.....	344
電池交換（キー）.....	344

と

ドア.....	102, 108
スマートエントリー&	
スタートシステム.....	102, 108
チャイルドプロテクター.....	105
ドアガラス.....	132
ドアロックスイッチ.....	104
バックドア.....	108
半ドア走行時	
警告ブザー.....	106, 109
ロックレバー.....	104
ワイヤレスリモコン.....	98
ドアミラー	
操作.....	130
格納のしかた.....	130
ブラインドスポット	
モニター（BSM）.....	234
ミラーヒーター.....	269
盗難防止装置	
イモビライザーシステム.....	73
時計.....	291
トップテザーアンカー.....	59
Toyota Safety Sense.....	192
ドライブインフォメーション.....	88
ドライブモードセレクト.....	232
トラクション	
コントロール（TRC）.....	253
トランスミッション.....	159
メンテナンスデータ.....	429
リバース警告ブザー.....	160
トリップメーター.....	83

な

内装	
収納装備.....	279
手入れ.....	317

に

荷物	
積むときの注意.....	148
デッキフック	
(荷物固定用フック).....	283
荷室内装備.....	283

ぬ

ぬかるみにはまった	
(スタック).....	422

ね

燃費	
エネルギーモニター.....	94
燃費情報 (ドライブ	
インフォメーション).....	88
燃料.....	426
ガソリンスタンドでの情報....	468
給油.....	187
種類.....	426
燃料残量警告灯.....	375
容量.....	426
燃料計.....	83

は

パーキングブレーキ.....	164
操作.....	164, 165
冬季の注意.....	262
ブレーキ警告灯.....	374, 375
未解除走行時警告ブザー.....	166
パーソナルランプ.....	277
ワット数.....	430
排気ガス.....	38
ハイビーム (ヘッドランプ).....	171
オートマチックハイビーム....	175
電球 (バルブ)	
の交換.....	351, 358
ランプスイッチ.....	171
ワット数.....	430
ハイブリッドシステム.....	61
EVドライブモード.....	157
運転のアドバイス.....	259
オーバーヒート.....	417
回生ブレーキ.....	63
ガス欠になったとき.....	68
緊急始動機能.....	408
緊急時の停止方法.....	366
緊急停止システム.....	67
駆動用電池冷却用吸入口.....	67
高電圧部位.....	66
サービスプラグ.....	66
事故が発生したとき.....	70
始動できないときは.....	407
始動方法.....	150
車両接近通報装置.....	62
充電.....	63
注意.....	66
特徴.....	61
特有の音と振動.....	64

- バッテリーがあがった..... 412
- パワー (イグニッション)
 - スイッチ 150
 - メンテナンス・修理・
 - 廃車するとき 65
- ハイブリッドシステム
 - インジケーター 85
- ハイマウントストップランプ
 - 電球 (バルブ) の交換 358
- ハザードランプ (非常点滅灯) ... 363
 - スイッチ 363
 - 電球 (バルブ) の
 - 交換 352, 353, 358
 - ワット数 430
- 挟み込み防止機能
 - パワーウインドウ 133
- 発炎筒 364
- バックアップランプ (後退灯)
 - 電球 (バルブ) の
 - 交換 355, 358
 - ワット数 430
- バックドア 108
 - バックドアが開かないとき ... 110
 - バックドアハンドル 109
 - 半ドア走行時
 - 警告ブザー 109
- バッテリー (駆動用電池) 66
 - 充電について 63
 - 搭載位置 66
 - 冷却用吸入口 67
- バッテリー (補機バッテリー)
 - 搭載位置 412
 - バッテリーを交換するとき ... 414
 - バッテリーがあがった 412
 - 冬の前の準備 261
- バニティ (化粧用) ミラー 290
- バニティミラーランプ 290
 - ワット数 430
- バルブ (電球)
 - 交換要領 (外装のバルブ) 349
 - ワット数 430
- パワーウインドウ 132
 - ウインドウロックスイッチ ... 132
 - 開閉することが
 - できないときは 133
 - 操作 132
 - 挟み込み防止機能 133
 - 巻き込み防止機能 133
- パワーコントロールユニット 66
- パワースイッチ 150
 - 車両を緊急停止するには 366
- パワーステアリング 253
 - パワーステアリング警告灯 ... 374
- パンクした
 - 応急用タイヤ装着車 397
 - タイヤパンク
 - 応急修理キット装着車 383
- 番号灯 (ライセンスプレート
 - ランプ) 171
 - 電球 (バルブ) の交換 356
 - ランプスイッチ 171
 - ワット数 430
- ハンドル
 - (ステアリングホイール) 126
 - 位置調整 126
 - スイッチ 88, 293
 - ホーン (警音器) 126

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	253
PCS (ブリクラッシュ	
セーフティ).....	198
機能	198
警告灯.....	374
設定を変更する	201
ヒーター	
オートエアコン	266
シートヒーター	274
ミラーヒーター	269
非常時給電システム	301
非常点滅灯 (ハザードランプ) ...	363
スイッチ	363
電球 (バルブ)	
の交換	352, 353, 358
ワット数.....	430
尾灯 (テールランプ)	171
電球 (バルブ) の交換.....	358
ランプスイッチ	171
ヒューズ	346
表示灯	79
日よけ (サンバイザー)	290
ヒルスタートアシスト	
コントロール	253

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	412
フォグランプ	179
スイッチ	179
電球 (バルブ)	
の交換	357, 358
ワット数	430
ブザー	
高温	375
後席シートベルト非着用	
警告	375
クリアランスソナー	247
シートベルト非着用	375
車線逸脱警報機能	210
衝突警報 (PCS)	198
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	227
パーキングブレーキ	
未解除走行時	166
半ドア	103, 106, 109, 114
BSM (ブラインドスポット	
モニター)	234
ふらつき警報機能	211
ブレーキ	373
リバース	160
油圧警告	373

フック

買い物フック	283
けん引フック	369
デッキフック (荷物固定用フック)	283
フロアマット固定フック	22
フューエルメーター (燃料計)	83
フューエルリッド (給油扉)	189
給油扉が開かないとき	190
給油のしかた	187
冬の前の準備 (寒冷時の運転) ...	261
冬用タイヤ	261
ブラインドスポットモニター (BSM)	234
プリクラッシュセーフティ システム (PCS)	198
機能	198
警告灯	374
設定を変更する	201
ブレーキ 回生ブレーキ	63
警告ブザー	373
パーキングブレーキ	164
ブレーキ警告灯	373, 374
メンテナンスデータ	429
ブレーキアシスト	253
ABS & ブレーキアシスト 警告灯	373
ブレーキホールド	168

ブレーキ付近からキーキー音が

聞こえる	143
ブレーキフルード	429
フロアマット	22
フロントインテリアランプ	277
フロントシート	120
シートヒーター	274
正しい運転姿勢	24
調整	120
手入れ	317
ヘッドレスト	123
フロントパーソナルランプ	277
フロントフォグランプ	179
スイッチ	179
電球 (バルブ) の交換	358
フロント方向指示灯	163
電球 (バルブ) の交換	352, 358
方向指示レバー	163
ワット数	430
フロントワイパー デアイサー	270

へ

平均車速	88
平均燃費	88
ヘッドランプ	171
オートレベリングシステム ...	173
電球 (バルブ)	
の交換	351, 358
マニュアルヘッドライト	
レベリングシステム	172
ライトセンサー	173
ランプ消し忘れ防止機能	173
ランプスイッチ	171
ワット数	430
ヘッドランプオートレベリング	
システム	173
ヘッドレスト	123
ベビーシート	40

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	397
メンテナンスデータ	430
ホイールナット	
レンチ	385, 398
方向指示灯	163
電球 (バルブ)	
の交換	352, 353, 358
方向指示レバー	163
ワット数	430
ホーン (警音器)	126
補機バッテリー	
搭載位置	412
バッテリーがあがった	412
冬の前の準備	261
保証	9
ボトルホルダー	281
ボンネット	320

ま

巻き込み防止機能	133
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	87
エネルギーモニター	94
LDA (ステアリング制御付き	
車線逸脱警報)	210
クリアランスソナー	245
警告メッセージ表示画面	378
衝突警報 (PCS)	198
設定画面	90
ドライブ	
インフォメーション	88
表示項目	87
ブラインドスポット	
モニター (BSM)	234
レーダークルーズ	
コントロール	
(全車速追従機能付き)	220

み

ミラー	
インナーミラー	128
ドアミラー	130
バニティミラー	290
ブラインドスポット	
モニター (BSM)	234
ミラーヒーター	269

め

メーター (計器類)	83
警告灯/表示灯	76
照度調整	90
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	87
メカニカルキー	99
メンテナンスデータ	426

も

モーター (電気モーター)	61, 66
モーターでの走行	
(EV ドライブモード)	157

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	431
雪道ですべて動けない	
(スタックした)	422
油脂類	426

ら

ライセンスプレートランプ	
(番号灯)	171
電球 (バルブ) の交換	356
ランプスイッチ	171
ワット数	430
ラゲージアンダートレイ	284
ラゲージサイドトレイ	285
ラゲージフック	283
ラゲージルームランプ	109
ラジエーター	
オーバーヒート	417
メンテナンスデータ	429
ランプ	
インテリアランプ	277
オートマチックハイビーム ...	175
電球 (バルブ) の交換	349
パーソナルランプ	277
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	363
フロントフォグランプ	179
ヘッドランプ (前照灯)	171
方向指示灯 (ターンシグナル	
ランプ/ウインカー)	163
ライトセンサー	173
ランプ消し忘れ防止機能	173
リヤフォグランプ	179
ワット数	430
ランプ消し忘れ	
防止機能	173, 278

り

リヤインテリアランプ.....	277
リヤウインドウデフォグガー	
スイッチ.....	269
リヤシート.....	121
リヤフォグランプ.....	179
スイッチ.....	179
電球（バルブ）の交換.....	357
ワット数.....	430
リヤ方向指示灯.....	163
電球（バルブ）	
の交換.....	353, 358
方向指示レバー.....	163
ワット数.....	430

る

ルームミラー	
（インナーミラー）.....	128
ルームランプ.....	276

れ

レーダークルーズコントロール	
（全車速追従機能付き）.....	220
接近警報.....	227
レーダーセンサー.....	194
レーンディパーチャー	
アラート（LDA）.....	210
車線逸脱警報機能.....	210
スイッチ.....	213
ステアリング制御機能.....	211
ふらつき警報機能.....	211
メーター表示.....	214
冷却水.....	429
水温計.....	83
冬の前の準備.....	261
メンテナンスデータ.....	429
冷却装置（ラジエーター）.....	429
オーバーヒート.....	417
メンテナンスデータ.....	429
レバー	
シフト.....	159
ハンドル位置調整.....	126
方向指示.....	163
ボンネット解除.....	320
ロック（ドア）.....	104

ろ

ロック

ウインドウロック	132
シフトロック	160
スマートエントリー& スタートシステム.....	113
チャイルドプロテクター.....	105
ドア	102, 108
ワイヤレスリモコン	98

わ

ワイパー & ウォッシャー

ウォッシャー液の補充.....	323
フロントワイパー デアイサー	270
ワイパーブレード (寒冷地用) ...	262
ワイヤレスリモコン	98
作動の合図.....	103, 109
操作	98
電池の交換.....	344
半ドア警告ブザー	103
ワックス	312
ワット数.....	430

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	給油口オープナー	給油口
P. 320	P. 189	P. 189

STOPIBGA09

ボンネット解除レバー	タイヤ空気圧
P. 320	P. 430

燃料の容量 (参考値)	43L
燃料の種類 (→ P. 426)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン (レギュラー) ※ <p>※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン (酸素含有率 3.7% 以下) を使用することができます。</p>
タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	P. 430
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時： 3.9L オイルとオイルフィルター交換時： 4.2L
エンジンオイルの種類	P. 427

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 10589
01999-10589
IS-2018年11月13日
2018年5月7日 初版
2018年11月20日 2版
C-HRハイブリッド